2009年度

講　義　計　画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅳa　01＜秋＞ フランス語Ⅳa　02＜秋＞	
横　道　朝　子 Annie Yamasaki	1単位

【講義概要】
勉強の仕方はフランス語IIIと同じです。普通のフランス人が、今読んでいる様々な書物や雑誌、新聞から色々なテーマの文章を集め、その内容を理解しながら、それに関して会話であつかえるように、フランス語の実力を養います。

【学習目標】
現代文を自由によめるだけでなく、こちらから発信できるために、普通の表現に必要な文法をさらに学びます。特に動詞活用は、一年次でマスターしたところの、現在形とそれを応用した基本的な、様々な表現法以外に、さらに、標準的フランス語の読み書き、会話に必要で役立つ範囲にひろげて学習します。辞書は、常にクラスに持参すること。

【講義計画】
第1回　présentation du cours
　　plan de classe
第2回　texte10 "le sport"
　　現在形　vérifier se reposer éteindre craindre
　　前未来とその用法　finir rentrer sereposer
　　否定
　　間接疑問文
第3回　texte11 "Les étrangers"
　　直接法現在形　aider mentir dormir vivre
　　条件法現在形　penser aller devoir
　　条件法の例外
　　条件法の用法
第4回　texte12 "L'ordre"
　　直接法現在形　s'inquiéter mourir entendre rendre
　　条件法過去形　entendre aller se rappeler
　　条件法の用法
　　等位接続詞とその用法
第5回　texte13 "L'argent"
　　現在形　se marier voir conduire réduire
　　関係代名詞
　　関係節
第6回　texte14 "Les médias"
　　直接法現在形　envoyer essayer permettre écrire
　　接続法現在形　téléphoner envoyer écrire
　　名詞節　法の使い方　役割
第7回　texte15 "La politique"
　　直接法現在形　lire dire croire suivre
　　接続法現在形　lire dire croire suivre
　　接続法の例外
　　状況節
第8回　texte16 "Les sentiments"
　　直接法現在形　trouver perdre résoudre　s'asseoir
　　接続法現在形　trouver perdre résoudre s'asseoir
　　接続法現在形の用法
第9回　texte17 "La foi"
　　直接法現在形　ouvrir découvrir devenir tenir
　　接続法過去系　vérifier rentrer se lever
　　接続法過去形の用法
第10回　texte18 "Le savoir"
第11回　révision 10 11 12
第12回　révision 13 14 15
第13回　révision 16 17 18
第14回　test écrit

【成績評価の方法】
出席、平常点と期末試験で評価します。
毎回、小テストや小レポートを行います。

【教科書】
Annie Yamasaki Statistiques sur themes varies (10～18)
プリントを使用します。

【参考文献】
電子辞書の場合は、「クラウン仏和」「コンサイズ和仏」があるものを薦めます。
しかし、実力をつけるためには、紙の辞書の方ガベター。

【備考】
授業計画は変更することがあります。

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅳb　01＜秋＞	
Eddy Louis　Van Drom	1単位

【講義概要】
映画、ヴァカンス、買い物など身近なテーマに分けた会話を練習しながら、日本での自分の生活をフランス語で説明できるようにしたり、言葉を学びながらフランス人の生活ぶりをのぞいて、フランスの生活を体験できるようにします。
やさしいフランス語を実際の生活の場面に当てはめて練習しながら、自然に覚えていきます。笑いながら、楽しく、大きな声で、積極的に授業に参加して下さい。そうすれば心も身体もほぐれ、ストレスから解放されることでしょう。

【学習目標】
フランス語でコミュニケーション能力を身につける、それも聞く・話す・読む・書くのすべての面にわたる力を養う、これが授業の目標です。

【講義計画】
第1回　キャンパスで（直接話法と間接話法）
第2回　キャンパスで（直接話法と間接話法）
第3回　友達の家で（接続詞）
第4回　友達の家で（接続詞）
第5回　カフェテリアで（条件法）
第6回　カフェテリアで（条件法）
第7回　診療所で（接続法）
第8回　診療所で（接続法）
第9回　電話で（現在分詞と過去分詞）
第10回　電話で（現在分詞と過去分詞）
第11回　オルセー美術館で（単純過去）
第12回　オルセー美術館で（単純過去）
第13回　パリのカフェ（lecture）
第14回　復習
第15回　復習

【成績評価の方法】
1．評価方法は、試験（1/3）及び　出席／平常点　（1/3）の総合評価とする
2．小テストの成績を総合的に評価する（1/3）

【教科書】
Numata/Matsumura/Yonetani/Van Drom Le francais au quotidien 2 ASAHI　(2006)

【参考文献】
例えば
1．Dictionnaire de Poche Francais-Japonais/Japonais-Francais ROYAL - OBUNSHA
2．Le Dico 現代フランス語辞典（白水社）
など

は
行

科目名　クラス　講義区分	
フランス語Ⅳｂ　02＜秋＞	
本　多　雄一郎	１単位

【講義概要】
フランス語Ⅲｂに続いて中級フランス語を学んでいく。

【学習目標】
　この授業では、フランス語の基本的な文法の続きを学ぶことで、フランス語の全体像を把握していくとともに、より広範な運用力を身につけることを目的とする。なお授業中の作業のために辞書を必ず携帯すること。

【講義計画】
第１回　受動態（尊敬される、知られている、など）
第２回　疑問代名詞（どんな音楽やスポーツが好きか）
第３回　比較級（自分と他の人の比較）
第４回　最上級（一番の物を言う）
第５回　強調構文（人や物を強調する表現）
第６回　中性代名詞（１）(en, y, leの用法)
第７回　中性代名詞（２）(en, y, leの用法)
第８回　条件法（１）(仮定の表現)
第９回　条件法（２）(仮定の表現)
第10回　接続法（１）(自分の願望や義務の表現)
第11回　接続法（２）(自分の願望や義務の表現)
第12回　間接話法（人の言葉を伝える表現）
第13回　時制の一致
第14回　時や場所を示す表現
第15回　秋学期の総括

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
　定期試験・小テストと平常点（暗唱や授業中の発表）で総合評価する。

【教科書】
藤田裕二 彼女は食いしん坊！２ 朝日出版社

【参考文献】
『クラウン仏和辞典』三省堂、もしくは電子辞書

科目名　クラス　講義区分	
プレゼンテーション入門　01＜秋＞	有　川　康　二
プレゼンテーション入門　02＜秋＞	国　松　夏　紀
プレゼンテーション入門　03＜秋＞	佐　野　明　子
プレゼンテーション入門　04＜秋＞	Annie Yamasaki
プレゼンテーション入門　05＜秋＞	岩　男　久仁子
プレゼンテーション入門　06＜秋＞	岩　男　久仁子
プレゼンテーション入門　07＜秋＞	大　野　順　子
プレゼンテーション入門　08＜秋＞	大　野　順　子
プレゼンテーション入門　09＜秋＞	大　野　　啓
プレゼンテーション入門　10＜秋＞	取　屋　淳　子
プレゼンテーション入門　11＜秋＞	取　屋　淳　子
プレゼンテーション入門　12＜秋＞	蓮　田　隆　志
プレゼンテーション入門　13＜秋＞	横　山　恵　理
２単位	

【講義概要】
具体的なテーマについてレポートを作成し、その内容を、コンピュータ（パワーポイント）を使って報告・発表できるようにします。
　学期の前半においては具体的なテーマによるレポートを従来形式の紙版で作成しながら、コンピュータの利用に習熟するよう指導します。後半ではレポートの内容をわかりやすく要約したうえで、パワーポイントを使って、写真や図版、表、グラフを取り入れた報告ができるように指導します。

【学習目標】
この授業では自分の考えを有効に相手に伝えることを学びます。そのためには、整然とした表現力に富む文章を書くこととともに、その表現方法を身につけることが大切なことです。昨今では、ごく当たり前になったワープロソフトによる文書作成に加えて、発表方法についてはプレゼンテーション・ソフトがよく利用されつつあります。発表内容が大切なのは当然のことですが、その方法によっても受け取り側の印象は大きく異なってきます。この授業は、大学に入学してきたばかりの皆さんが「書く」力を磨き、最終的にはそれをパワーポイントなどで発表できるようになることを目標としています。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　ワード文書作成講習（ガイダンス）
第３回　ワード文書作成講習（社説などの要約など）
第４回　ワード文書作成講習（任意のテーマ設定）
第５回　発表と講評
第６回　発表と講評
第７回　パワーポイント講習
第８回　スライド作成①
第９回　スライド作成②
第10回　スライド作成③
第11回　プレゼンテーション①
第12回　プレゼンテーション①
第13回　プレゼンテーション③
第14回　予備日
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
出席50%、課題報告２回50%を目安とします。

【教科書】
特に使用しません。

【参考文献】
適宜必要な際は指示します。

【備考】
〔09Ｌ生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
プログラミング　01＜秋＞	
榎　本　光　世	２単位

【講義概要】
本講は講義形式ではなく実習形式で行わる。体系的に知識を得ることよりも試行錯誤を通じてプログラムを作り上げることで経験的にスキルを得ることを重視する。それは自身で問題を作り、解き、さらに改良するといった創造性が求められ、さながら作品を仕上げるアートの実践のような側面もある。

本講を受講するに際して未経験者を対象にしているので、プログラミングに関する予備知識は全く不要である。しかし、この時間内で初歩的なPCの使い方を説明している時間はないのでそれは習得済みであることが前提である。

本講の実習ではVisual Basic（以下VBと略称）を用いる。これは統合開発環境で、編集ソフト、人間が書いた（プログラム・）コードをPCが実行できるファイルにするソフト、そしてプログラムを実行しながら調べるソフトなどが含まれる。今日、簡単に入手できるプログラミング言語ソフトの中でVBはおそらく最も理解し易いものだろうが、VBの先祖であり、かつてMS-DOSの時代にPCにバンドルされていたシンプルな言語のBASICと比べると、大部分異なり、より複雑で、しかも実用的である。また、その一方でVBはマウスを使った操作でウィンドウにボタンやテキストボックスなどを配置でき、直感的に理解しやすいという側面もある。

【学習目標】
プロフェッショナルもしくはアマチュアのプログラマー以外の人々にとってプログラミングのスキルを発揮できる状況はほとんどない。しかし、プログラミングの体験は有意義である。ソフトウェアに不具合（いわゆるバグ）が頻出する原因は何か、また、要求された要件を満たすだけでは何故不十分なのかを実感することができるだろう。また、プログラミングは無味乾燥な作業ではなく、パズルを解いたり、それを作り出したりするのと似た楽しさがあり、ほとんどの人は時間を忘れてプログラミング没頭できるだろう。

本講の学習目標は、プログラミングを体験し、初歩的なプログラムを作成できるようになることである。

【講義計画】
第１回　講義概要と受講上の注意とVB事始め（その１）
第２回　VB事始め（その２）
第３回　ボタンとMsgBox
第４回　算術演算
第５回　キーボードからのデータの受け取り
第６回　判断分岐（その１）
第７回　判断分岐（その２）
第８回　繰り返し処理（その１）
第９回　繰り返し処理（その２）
第10回　変数の配列
第11回　自由課題プログラムの設計
第12回　自由課題プログラムの作成
第13回　自由課題プログラムの作成フォロー
第14回　VBA入門
第15回　予備時間　（第１回～第15回までの内容は変更される場合もある）

【成績評価の方法】
レポート　20%　出席　80%
出席率、授業態度を重視する。いわゆる公欠の範囲は広く取り、サークルの大会や発表会などはもちろん、就職活動も予め連絡があればコレに含める場合がある。試験の代わりにレポートとして自由課題プログラムを提出する。

【教科書】
毎週、配布プリントの例題と課題でそれに宿題を解く。
それらで学習したスキルを自由課題プログラムに応用する。

【参考文献】
実習中に指示する

科目名　クラス　講義区分	
プログラミング　02＜秋＞	
榎　本　光　世	２単位

【講義概要】
本講は講義形式ではなく実習形式で行わる。体系的に知識を得ることよりも試行錯誤を通じてプログラムを作り上げることで経験的にスキルを得ることを重視する。それは自身で問題を作り、解き、さらに改良するといった創造性が求められ、さながら作品を仕上げるアートの実践のような側面もある。

本講を受講するに際して未経験者を対象にしているので、プログラミングに関する予備知識は全く不要である。しかし、この時間内で初歩的なPCの使い方を説明している時間はないのでそれは習得済みであることが前提である。

本講の実習ではVisual Basic（以下VBと略称）を用いる。これは統合開発環境で、編集ソフト、人間が書いた（プログラム・）コードをPCが実行できるファイルにするソフト、そしてプログラムを実行しながら調べるソフトなどが含まれる。今日、簡単に入手できるプログラミング言語ソフトの中でVBはおそらく最も理解し易いものだろうが、VBの先祖であり、かつてMS-DOSの時代にPCにバンドルされていたシンプルな言語のBASICと比べると、大部分異なり、より複雑で、しかも実用的である。また、その一方でVBはマウスを使った操作でウィンドウにボタンやテキストボックスなどを配置でき、直感的に理解しやすいという側面もある。

【学習目標】
プロフェッショナルもしくはアマチュアのプログラマー以外の人々にとってプログラミングのスキルを発揮できる状況はほとんどない。しかし、プログラミングの体験は有意義である。ソフトウェアに不具合（いわゆるバグ）が頻出する原因は何か、また、要求された要件を満たすだけでは何故不十分なのかを実感することができるだろう。また、プログラミングは無味乾燥な作業ではなく、パズルを解いたり、それを作り出したりするのと似た楽しさがあり、ほとんどの人は時間を忘れてプログラミング没頭できるだろう。

本講の学習目標は、プログラミングを体験し、初歩的なプログラムを作成できるようになることである。

【講義計画】
第１回　講義概要と受講上の注意とVB事始め（その１）
第２回　VB事始め（その２）
第３回　ボタンとMsgBox
第４回　算術演算
第５回　キーボードからのデータの受け取り
第６回　判断分岐（その１）
第７回　判断分岐（その２）
第８回　繰り返し処理（その１）
第９回　繰り返し処理（その２）
第10回　変数の配列
第11回　自由課題プログラムの設計
第12回　自由課題プログラムの作成
第13回　自由課題プログラムの作成フォロー
第14回　VBA入門
第15回　予備時間　（第１回～第15回までの内容は変更される場合もある）

【成績評価の方法】
レポート　20%　出席　80%
出席率、授業態度を重視する。いわゆる公欠の範囲は広く取り、サークルの大会や発表会などはもちろん、就職活動も予め連絡があればコレに含める場合がある。試験の代わりにレポートとして自由課題プログラムを提出する。

【教科書】
毎週、配布プリントの例題と課題でそれに宿題を解く。
それらで学習したスキルを自由課題プログラムに応用する。

【参考文献】
実習中に指示する

科目名　クラス　講義区分	
プログラミング　03＜秋＞	
大　嶋　耕　一	２単位

【講義概要】

プログラミング言語にはさまざまなものがあるが、本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義ではWindows用にMicrosoft社が独自に言語拡張したVisual Basicを用いることにするが、これは初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。この点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

【学習目標】

① コンピュータ（特にWindows環境）のプログラムとは何かを知る
② Visual Basicのもっとも基本的な文法と、プログラムの作成手順を学ぶ
③ 基本的なアルゴリズムを学ぶ
④ プログラムの開発サイクルをとおして、普段の社会生活における一般的な問題解決の手法を学ぶ

【講義計画】

第１回　ガイダンス、BASIC言語とは、Visual Basicによるプログラミングの実例
以下は、もっとも進度が速い理想的な授業計画を示す。実際には、各自の能力に合わせて進むため、学生によって異なる。
第２回　フォームとプログラムを編集する、演習問題
第３回　ユーザーインターフェース、Visual Basic 言語の書式
第４回　変数と代入ステートメント、オブジェクトのプロパティ
第５回　文字列（String)、式の表現
第６回　ステートメントの実行順序、演習問題
第７回　コンパイルと実行可能プログラム、演習問題
第８回　選択構造
第９回　演習問題
第10回　反復構造
第11回　演習問題
第12回　問題解決のためのアルゴリズム、演習問題
第13回　金種計算プログラム：配列変数、グローバル変数、
第14回　ファイルのコピープログラム:ファイルの入出力、ユーザー定義関数とプロシージャの活用

【成績評価の方法】

レポート　70%　出席　30%
テキストの中で「必ずチェックを受けてください」、「必ず提出してください」、「任意提出してください」の指示がありますで、それにしたがってチェックを受け、課題を提出します。以上がレポート70%の内容です。

【教科書】

自作のテキストを無償で配布する。

【参考文献】

ステップバイステップで学ぶには、
　薄金宏之進「Microsoft Visual Basic.NET 入門」，日経BPソフトプレス，2003
参照用には、
　山田　健一「クイック・パワー・リファレンス VisualBasic.NET 機能引きハンドブック 」，ナツメ社，2003

科目名　クラス　講義区分	
プログラミング　04＜秋＞	
大　嶋　耕　一	２単位

【講義概要】

プログラミング言語にはさまざまなものがあるが、本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義ではWindows用にMicrosoft社が独自に言語拡張したVisual Basicを用いることにするが、これは初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。この点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

【学習目標】

① コンピュータ（特にWindows環境）のプログラムとは何かを知る
② Visual Basicのもっとも基本的な文法と、プログラムの作成手順を学ぶ
③ 基本的なアルゴリズムを学ぶ
④ プログラムの開発サイクルをとおして、普段の社会生活における一般的な問題解決の手法を学ぶ

【講義計画】

第１回　ガイダンス、BASIC言語とは、Visual Basicによるプログラミングの実例
以下は、もっとも進度が速い理想的な授業計画を示す。実際には、各自の能力に合わせて進むため、学生によって異なる。
第２回　フォームとプログラムを編集する、演習問題
第３回　ユーザーインターフェース、Visual Basic 言語の書式
第４回　変数と代入ステートメント、オブジェクトのプロパティ
第５回　文字列（String)、式の表現
第６回　ステートメントの実行順序、演習問題
第７回　コンパイルと実行可能プログラム、演習問題
第８回　選択構造
第９回　演習問題
第10回　反復構造
第11回　演習問題
第12回　問題解決のためのアルゴリズム、演習問題
第13回　金種計算プログラム：配列変数、グローバル変数、
第14回　ファイルのコピープログラム:ファイルの入出力、ユーザー定義関数とプロシージャの活用

【成績評価の方法】

レポート　70%　出席　30%
テキストの中で「必ずチェックを受けてください」、「必ず提出してください」、「任意提出してください」の指示がありますで、それにしたがってチェックを受け、課題を提出します。以上がレポート70%の内容です。

【教科書】

自作のテキストを無償で配布する。

【参考文献】

ステップバイステップで学ぶには、
　薄金宏之進「Microsoft Visual Basic.NET 入門」，日経BPソフトプレス，2003
参照用には、
　山田　健一「クイック・パワー・リファレンス VisualBasic.NET 機能引きハンドブック 」，ナツメ社，2003

科目名　クラス　講義区分	
文学－西洋Ⅰ　＜秋集＞	
国　松　夏　紀	4単位

【講義概要】
ヨーロッパの文学を交流史的な観点から概観します。担当者の専門はロシア文学ですが、ロシア文学は他のヨーロッパ諸国文学の影響下に成立し、そしてまた影響を与え返していますし、そういった事情はロシアに限らないからです。

【学習目標】
ロシア文学にかたよることなく、様々な具体的作品に言及し、豊穣なヨーロッパ文学への読書案内を目指します。

【講義計画】
第１回　便宜的にオーソドックスな時代的枠組みに従って講義を進めます。
　Ⅰ．ヨーロッパ文学の源泉
講義概要オリエンテーション／文学とは何か？
第２回　文学のジャンル／ヨーロッパの特徴
第３回　ヨーロッパ文学のアウトライン
第４回　ヨーロッパ文学の諸源泉
第５回　Ⅱ．ルネッサンス（14、15、16世紀）
中世からルネサンスへ／ダンテとボッカチオ
第６回　ルネサンスとは何か？／イタリアル・ネサンスの精華
第７回　イタリア・ルネサンスの波及
第８回　シェイクスピアとセルバンテス／『ハムレット』と『ドン・キホーテ』
第９回　Ⅲ．古典主義（17～18世紀）
古典主義の定義と時代区分
第10回　フランス古典主義演劇／コルネイユ『ル・シッド』
第11回　ラシーヌ『アンドロマック』、『フェードル』
第12回　モリエール『タルチュフ』、『ミザントロープ』
第13回　イギリスの古典主義／反シェイクスピア
第14回　ドイツ、ロシアの古典主義
第15回　Ⅳ．啓蒙主義（18世紀）
英仏関係を中心に／モンテスキュー、ヴォルテール
第16回　ディドロと『百科全書』及びリチャードソンの書簡体小説
第17回　ジャン・ジャック・ルソーの仕事
第18回　Ⅴ．ロマン主義（18～19世紀）
ロマン主義の源泉／イギリスの詩・散文・『オシアン』
第19回　イギリスからドイツへ／ハーマン・ヘルダー・ゲーテ・シラー
第20回　ドイツからフランスへ／スタール夫人『ドイツ論』
第21回　独仏からロシアへ／プーシキン『スペードの女王』
第22回　Ⅵ．リアリズム（19～20世紀）
小説の時代　フランス／バルザック、スタンダール、フローベール
第23回　イギリス／オースティン、ディケンズ、ブロンテ姉妹
第24回　ロシア／ゴーゴリ、ツルゲーネフ、ドストエフスキー、トルストイ
第25回　Ⅶ．象徴主義と《世紀末》
新ロマン主義／散文リアリズムから詩の時代へ
第26回　「後進」ロシア文化（文学）の「逆襲」／ラテンアメリカ文学の「逆襲」
第27回　Ⅷ．《両大戦間》・20世紀
散文リアリズムの最終実験／プルースト、ジョイス、ムジールその他
第28回　21世紀文学の可能性へ向けて

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　20%　出席　30%
春学期末レポートにより評価します。１回きりですので、力作を期待。ただし、講義の区切れ目ごとに確認のためもあり「感想文」を提出。これも評価の対象とします。出席重視、遅刻・私語厳禁。

【教科書】
特に定めない。講義資料は、授業時間中配布します。

【参考文献】
ヨーロッパ文学に関する参考文献は、枚挙に暇がありません。教室でその都度掲げることにします。

科目名　クラス　講義区分	
文学－西洋Ⅲ　＜春集＞	
高　田　里惠子	4単位

【講義概要】
第一のテーマは、われわれが現在、「文学」と呼んでいるものが西洋においていつ誕生したか、ということである。それを、ドイツ文学の歴史を辿りながら考えていきたい。
第二のテーマとしては、ナチス時代のことが、文学や映像にどのように描かれているか、ということを取りあげる。

【学習目標】
文学作品を鑑賞するための基礎知識を身につけ、これからの読書生活を豊かなものにしていくことを目指す。

【講義計画】
第１回　この講義のテーマ、全体の計画、試験のやり方、平常点のつけ方などを説明する。
第２回　「文学」はいつ誕生したか
第３回　天才美学と才能神話
第４回　ドイツバロックの演劇①
第５回　ドイツバロックの演劇②
第６回　疾風怒涛時代の青年①
第７回　疾風怒涛時代の青年②
第８回　ロマン主義の演劇
第９回　『若きウェルテルの悩み』を読む①
第10回　『若きウェルテルの悩み』を読む②
第11回　1900年前後のドイツ社会①
第12回　1900年前後のドイツ社会②
第13回　1900年前後のドイツ社会③
第14回　トーマス・マンの文学①
第15回　トーマス・マンの文学②
第16回　第一次大戦とヨーロッパの変容①
第17回　第一次大戦とヨーロッパの変容②
第18回　第一次大戦とヨーロッパの変容③
第19回　反戦文学の誕生①
第20回　反戦文学の誕生②
第21回　ナチス政権誕生とドイツ社会①
第22回　ナチス政権誕生とドイツ社会②
第23回　ナチス政権誕生とドイツ社会③
第24回　映画のなかのヒトラー①
第25回　映画のなかのヒトラー②
第26回　ユダヤ人はどう描かれたか①
第27回　ユダヤ人はどう描かれたか②
第28回　ユダヤ人はどう描かれたか③
第29回　全体のまとめ
第30回　試験（もしくは、全体のまとめ）

【成績評価の方法】
最後に試験を行なう。試験では、この授業で話されたことが理解できているかどうかを問う課題を提出するので、たんなる参考書や文献の引き写しは通用しない。受講人数が少ない場合は、最後の講義時間のおりにテストをする予定である。

【教科書】
教科書は使わない。講義の内容をうまくノートにまとめることが重要である。

【参考文献】
藤本淳雄他著『ドイツ文学史』（東京大学出版会）

科目名　クラス　講義区分	
文化社会学　＜秋集＞	
北　川　紀　男	４単位

【講義概要】

文化は人間にとって第二の本能ともいわれ、人間と文化は不可分の関係にある。それ故に、人間社会を研究する社会学にとって、文化の研究は欠くことのできない重要な課題である。最初に、文化社会学の学説史を概観し、次いで人間と文化の間に介在する根源的な関係に立ち戻って文化の概念を尋ね、文化は社会によって制約されると同時に社会を制約するという、すぐれて社会的事象であることを明らかにする。「歌は世につれ、世は歌につれ」とか「処かわれば、品かわる」とは、文化と社会の関係を巧くいいえて、社会学的にみて興味ある表現である。

以上の基礎的な考察を踏まえて、複雑多岐に分化し目まぐるしく変転する現代文化の動向を解明するために、「大衆化」「国際化」「情報化」「共生化」の視点にたって、批判的に考察を進める。

【学習目標】

現代文化は、複雑かつ激しく変転しており、人びとはともすれば無批判的に追従しがちであるが、この講義を通じて、現代文化を理解する自らの視座を学びとって欲しい。

【講義計画】

第１回　学説史（１）　ー社会学における文化研究の歴史ー
第２回　学説史（２）　ー文化社会学の二つの潮流ー
第３回　学説史（３）　ー文化社会学成立の背景ー
第４回　文化の概念（１）　ー文化の基本的属性ー
第５回　文化の概念（２）　ーシンボル・意味・価値としての文化ー
第６回　文化の概念（３）　ー文化の類型ー
第７回　文化と社会規範（１）　ー規範としての文化ー
第８回　文化と社会規範（２）　ー文化と社会化ー
第９回　文化と社会規範（３）　ー文化の基底としてのタブーー
第10回　生活文化（１）　ー生活様式としての文化ー
第11回　生活文化（２）　ー文化と空間・時間・役割ー
第12回　文化と文明（１）　ー意味形象としての文化ー
第13回　文化と文明（２）　ー社会過程・文明過程・文化運動ー
第14回　文化と文明（３）　ー文明社会の諸問題ー
第15回　知識の社会学（１）　ー知識社会学ー
第16回　知識の社会学（２）　ーイデオロギー論ー
第17回　知識の社会学（３）　ー科学の社会学ー
第18回　大衆化と文化（１）　ー大衆社会の構造ー
第19回　大衆化と文化（２）　ー大衆文化の特徴ー
第20回　大衆化と文化（３）　ー大衆の被操作性ー
第21回　国際化と文化（１）　ー民族文化と国民文化ー
第22回　国際化と文化（２）　ー国際化と文化摩擦ー
第23回　国際化と文化（３）　ー異文化間コミュニケーションー
第24回　情報化と文化（１）　ー情報化社会ー
第25回　情報化と文化（２）　ーニューメディアと文化ー
第26回　共生化と文化（１）　ー高齢化社会と文化ー
第27回　共生化と文化（２）　ー高齢者・障害者と共生ー
第28回　共生化と文化（３）　ージェンダーと共生ー

【成績評価の方法】

原則として学期末試験に基づいて評価するが、レポート（紹介した参考文献の書評）を加味して総合的に評価する。

【教科書】

北川紀男　文化社会学研究　八千代出版

【参考文献】

その都度指示する。なお、必要に応じて資料を配付する。

科目名　クラス　講義区分	
文化人類学　＜春集＞	
南　出　和　余	４単位

【講義概要】

文化人類学は、人間を文化的・社会的な存在として捉え、異文化を見ることで自文化、さらには「人間」を理解しようとする学問である。この授業では、文化人類学の基本的な視点や研究方法を抑えたうえで、人類学が扱ってきた各テーマを追いながら、「人間」「社会」「文化」についての理解を深める。授業では、世界の多様な文化の事例をできる限り取り上げ、必要に応じて視聴覚教材を活用する予定である。

【学習目標】

人間とはどのような存在か、「わたし」と「あなた」は何がどう違うのか。生きているなかで私たちが当たり前に思っている習慣や社会の在り方を「遅れたもの」と見下すのではなく、違いを尊重し、それぞれに独自の価値を見出す視点を、文化人類学を学ぶことで身に付けてもらいたい。さらに、グローバル化が進む現代社会においては、私たちは、もはや他の社会との関係になしには生きていくことができない。そのことが、地域に根差した固有の文化にさまざまな変化がもたらしていることについても考えていきたい

【講義計画】

第１回　イントロダクション：「文化」とは？
第２回　異文化との出会い（１）カルチャーショック
第３回　異文化との出会い（２）バックパッカー・うるるん・青年海外協力隊⇔人類学者
第４回　手法と視点（１）フィールドワークと民族誌
第５回　（２）文化の翻訳
第６回　（３）比較
第７回　人間の理解（１）人種と民族
第８回　（２）ジェンダー
第９回　（３）子どもと老人
第10回　社会の理解（１）交換と互酬
第11回　（１－１）トロブリアンド諸島の交換
第12回　（２）結婚の多様性
第13回　（２－２）世界の結婚事情
第14回　（３）政治と都市の形成
第15回　（４）共同体コミュニティー
第16回　文化の理解（１）宗教
第17回　（１－１）シャーマニズム
第18回　（２）儀礼
第19回　（２－２）割礼
第20回　（２－３）世界の年中行事
第21回　（３）自然
第22回　（４）身体をめぐる文化
第23回　現代的課題（１）アイデンティティとエスニシティ
第24回　（２）ディアスポラ
第25回　（３）紛争人類学
第26回　（４）開発人類学
第27回　人類学の新たな動き：人類学者の自画像
第28回　映像人類学
第29回　まとめ
第30回　期末試験

【成績評価の方法】

期末試験の素点をもとにして成績をつける。但し、授業中、必要に応じて提出を求めるコメントカード（兼出席カード）も加味して総合評価を決める。

【教科書】

山下晋司（編）文化人類学入門―古典を現代をつなぐ20のモデル　弘文堂2005

【参考文献】

トーマス・ヒランド・エリクセン、鈴木清史（訳）『人類学とは何か』世界思想社2008
綾部恒雄（編）『文化人類学20の理論』弘文堂2006
日本文化人類学会（編著）『文化人類学辞典』丸善 2009
その他の参考文献は授業の中で紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
法学　01＜通期＞	
赤　井　朱　美	4単位

【講義概要】
この講義では、受講者に現代日本法の概観を与えたうえで、市民の社会生活に関連の深い法分野について基礎的な知識を講述する。そこで、まず現代日本法を三大別し、公法分野（憲法、国際法等）、私法分野（民法等）、社会法分野（労働法、社会保障法等）につき略説する。以下、[講義計画]に則って授業を進めていく予定である。なお、私語は厳禁。その他、受講時の留意事項について最初の授業時に言及する。

【学習目標】
本講の目的は、法律を初めて学ぶ学生を対象に、法学という学問を理解し、その考え方を身につけ、それによって考える能力、すなわち法的処理能力を養うことにある。法とは何か、法的思考の方法とはどういうものかについて、身近なアップトゥーデイトの事例を取り上げながら、講義を展開する。レジュメ、資料及び判例を配布する予定である。

1　社会生活における法の作用や役割について理解する。
2　憲法、民法および行政法の基礎を理解する。
3　基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。

【講義計画】
第１回　これからの講義の方針についての説明
第２回　社会科学の考え方
第３回　法とは何か。法の特質（強制力）・法の目的（秩序と正義）
第４回　法と他の社会規範（法と習俗、法と宗教）
第５回　現代医療の問題と「法と道徳」
第６回　法の存在形式　制定法主義と判例法主義
第７回　強行法規と任意法規
第８回　特別法と一般法
第９回　公法・私法・社会法
第10回　法の効力範囲と法の適用・解釈（事実認定・学理解釈）
第11回　日本国憲法の基本原理
第12回　基本的人権の尊重と最高法規
第13回　自由権と社会権、公共の福祉
第14回　法の支配と国家観の変遷
第15回　憲法の権力観
第16回　私人間効力
第17回　統治機構
第18回　憲法の財政条項
第19回　地方自治
第20回　民法総則　信義則、権利濫用の禁止
第21回　物権
第22回　契約
第23回　不法行為と損害賠償
第24回　家族法
第25回　成年後見制度
第26回　行政行為・行政手続
第27回　行政不服審査法
第28回　行政訴訟（国家賠償も含む）
第29回　地方公共団体
第30回　情報公開

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　0%　出席　0%
講義した範囲の内容から出題する定期末試験による評価。出席点は加味しない。あくまで素点評価とする。

【教科書】
森泉　章「法学」有斐閣ブックス
池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由起子「法の世界へ」有斐閣アルマ

【参考文献】
法学に関する入門書は読みやすく、楽しく書かれたものが数多く出版されているので、各自興味のあるところから読まれたらいいが、入手しやすく、平明に書かれていてオーソドックスなものとして有斐閣アルマのシリーズをあげておく。

【備考】
【SW生】は01クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
法学　02＜春集＞	
吉　見　研　次	4単位

【講義概要】
この講義は、現代日本法の全体像を概観した後、特に市民の日常生活と関係の深い法分野について基本的な法律知識を講述するものである。すなわち、市民の日常的な経済生活に直結する契約関係、市民が事故に遭遇した場合、市民の家族生活、に大別して各々の法律問題につき順次解説していく。私法分野が中心となるが、公法分野（憲法、国際法等）にも適宜言及する。授業中の私語は厳禁。その他、受講時の留意事項は授業中に説明する。

【学習目標】
①現代日本法の全体像を把握する。
②市民の日常的な経済生活に直結する契約関係の法律について理解する。
③市民が事故に遭遇した場合の法律関係について理解する。
④市民の家族生活に関する法律の基礎について理解する。

【講義計画】
第１回　市民生活と法
第２回　公法と私法
第３回　民事法と刑事法
第４回　一般法と特別法
第５回　契約の成立と効力
第６回　契約の無効と取消し
第７回　制限行為能力
第８回　売買契約総説
第９回　売買契約と所有権
第10回　売買契約の不履行
第11回　売主の責任
第12回　消費者契約法
第13回　特定商取引法
第14回　無限連鎖講防止法
第15回　金銭消費貸借契約
第16回　保証契約
第17回　借家契約
第18回　契約自由の原則とその修正
第19回　不法行為の一般的要件
第20回　特殊の不法行為
第21回　不法行為特別法
第22回　不法行為の効果
第23回　製造物責任法
第24回　結婚の法律
第25回　離婚の法律
第26回　親子等の法律
第27回　相続の法律
第28回　遺言の法律
第29回　補論とまとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%
基本的な法律知識を幅広く、かつ正確に修得しているか否かを確認するために、正誤文選択による短答式の学期末試験を予定している。各問いずれも４肢選択方式の計20問を出題するつもりである（１問５点）。短答式の試験は容易なものと誤解されがちだが、正確な知識を理解していないと正解はおぼつかない。真剣に学修に励む意欲的な学生の受講を期待したい。

【教科書】
菅野和夫他（編）ポケット六法平成21年版 有斐閣
他社の六法でも可（最初の授業時に紹介する）

【参考文献】
五十嵐清『私法入門（改訂２版）』（有斐閣）
野村豊弘『民事法入門（第５版）』（有斐閣）
後藤巻則・村千鶴子・齋藤雅弘『アクセス消費者法（第２版）』（日本評論社）

【備考】
【SW生】は01クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
法学　03＜秋集＞	
天　本　哲　史	4単位

【講義概要】
我々は、人間社会の一員として生活している。人間社会において、個々の人間は自由でなければならないが、社会生活への責任も果たさなければならない。法はこのような人間社会の調整役として、社会生活におけるルールの一つの形式として存在する。
　本講義では、法学の理論的な内容だけではなく、憲法をはじめとして各法分野における状況などを踏まえながら、法とはどのようなものか、法がどのように社会において活かされているかを概括的に学習する。

【学習目標】
本講義は、法学の基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、①法とは何かについての知識、②憲法についての知識、③その他の法分野についての知識、のそれぞれの習得である。

【講義計画】
第１回　社会生活と法のかかわり
第２回　法の存在形式
第３回　法領域の種別
第４回　法の機能
第５回　法制度と法文化
第６回　法と強制
第７回　法と道徳
第８回　法と正義
第９回　法と裁判①
第10回　法と裁判②
第11回　法と裁判③
第12回　法の解釈
第13回　法的思考
第14回　法学教育
第15回　法曹とその他の法律家
第16回　憲法（総論）
第17回　憲法（人権）①
第18回　憲法（人権）②
第19回　憲法（統治）①
第20回　憲法（統治）②
第21回　市民社会と法
第22回　刑罰と法
第23回　行政と法
第24回　社会保障と法
第25回　環境と法
第26回　医療と法
第27回　消費者と法
第28回　教育と法

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　25%　出席　25%

【教科書】
田中成明 法学入門 有斐閣

【参考文献】
六法（最新のものであればよい）
その他に講義中で適宜に紹介する。

【備考】
【SW生】は01クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
法学　04＜秋集＞	
早　川　のぞみ	4単位

【講義概要】
人々が社会の中で共に生活を営んでいくとき、そこには一定の社会的ルール（すなわち、法）が必要となります。現実の生活の中で、人々の利害が衝突するとき、それを調整するためのルールがどのように機能しているのか。この講義では、公法、私法、刑事法を中心に、日本の法体系の基本的な枠組みを概観し、法と裁判の仕組みについて学びます。
また、講義の中では、裁判事例を取り上げ、裁判官の法的思考の方法について検討します。裁判官が法を適用するとき、そこでは法学特有の法的思考の方法がとられます。具体的な判決を見てみると、多数意見と反対意見に分かれる場合や、判例変更が行われる事例などがあります。講義では、法的議論の錯綜する具体的事案をいくつか取り上げて、個々の議論がどのような法的構成によって結論を導き出しているのかを検討します。争われている問題点について、様々な角度から検討する事によって、法的思考の一端に触れます。

【学習目標】
講義では、法秩序の構造を概観することによって、私たちの生活にかかわる法律についての基本的な知識を身につけます。また、具体的な裁判事例を手掛りとしつつ、法的思考の方法について理解することを目標とします。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　法と何か
第３回　法と裁判
第４回　法と裁判（２）
第５回　法源
第６回　法の解釈
第７回　まとめと小テスト
第８回　財産と法（１）
第９回　財産と法（２）
第10回　財産と法（３）
第11回　財産と法（４）
第12回　家族と法（１）
第13回　家族と法（２）
第14回　家族と法（３）
第15回　家族と法（４）
第16回　まとめと小テスト
第17回　犯罪と法（１）
第18回　犯罪と法（２）
第19回　犯罪と法（３）
第20回　犯罪と法（４）
第21回　国家と法（１）
第22回　国家と法（２）
第23回　国家と法（３）
第24回　国家と法（４）
第25回　まとめと小テスト
第26回　生命と法（１）
第27回　生命と法（２）
第28回　生命と法（３）

【成績評価の方法】
学期末の筆記試験と３回の小テストを基礎として、評価します。

【教科書】
佐藤幸治、鈴木茂嗣，田中成明，前田達明 法律学入門（第３版補訂版）有斐閣
講義には、必ず小型の六法を持参してください。（出来れば最新版が望ましい。出版社は問いません。）授業進度に合わせてレジュメ・資料を配布していく予定です。

【参考文献】
適宜、紹介します。

【備考】
講義には、必ず小型の六法を持参してください。（出来れば最新版が望ましい。出版社は問いません。）授業進度に合わせてレジュメ・資料を配布していく予定です。
【SW生】は01クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
法学特講－判例倒産法　＜秋＞	
本　間　法　之	2単位

【講義概要】
倒産法の基本問題についての重要な判例を素材に、教員と受講者全員による双方向・多方向の活発な議論に基づく講義（いわゆる「ソクラテス方式」の講義）を行ない、担当者が、受講生の議論を誘導することによって、法的思考とその応用力の育成に努める。
倒産処理は、法律問題の‘るつぼ’であり，実体法と手続法とが激しく交錯する場である。受講生には、倒産処理手続の理解を通じて民事法全体の理解を深めるよう、本講義で毎回取り上げる判例はもちろんのこと、当該判例についての資料（関連判例・学説など）を事前に調査・収集し、十分な予習をした上で授業に臨み，積極的に双方向・多方向の対話を展開することが求められる。
したがって、講義内容としては、かなり高度なものとなる。倒産処理法の基礎知識を講義することはないので、受講を希望する際には、くれぐれも注意願いたい。

【学習目標】
受講生諸君がすでに倒産処理法の基礎理論を修得し、清算型および再建型の倒産処理手続の全体像を体系的に把握していることを前提として、さらに倒産処理法の主要事項についての理解を深めることによって、法的思考とその応用力の育成を図ることを目的とする。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
周知のように、わが国の倒産処理法制は、2000（平成12）年４月１日の民事再生法の施行を皮切りに、2003（平成15）年４月１日の新会社更生法の施行、そして2005（平成17）年１月１日の新破産法の施行に至る抜本的な改正が実施された。そこで、本講義では、民事再生法施行後現在までに公けにされた最高裁判例および下級審判例のうち、破産法および民事再生法に関する重要判例を講義の素材として取り上げる。
なお、取り上げた破産法関連の判例の中には、旧法に関するものも含まれているが、新法の条文に照らして、新法の観点からこれを考察することは言うまでもない。
第１回は，簡単な設例をいくつか出題し，それらをもとに，質疑応答により，破産法および民事再生法に関する受講生の基本的な理解を確認する。
第２回　破産債権者の権利行使の範囲について、最高裁平成13年６月８日第二小法廷決定（金法1621号29頁）を手がかりに、検討する。
第３回　主債務者の破産と保証人による消滅時効の援用について、最高裁平成15年３月14日第二小法廷判決（金法1680号58頁・判タ1120号100頁）を手がかりに検討する。
第４回　別除権放棄の意思表示について、最高裁平成16年10月１日第二小法廷決定（金法1731号56頁・判タ1168号130頁）を手がかりに検討する。
第５回　担保権消滅許可について、名古屋高裁平成16年８月10日決定（判時1884号49頁）を手がかりに検討する。
第６回　破産管財人の善管注意義務について、最高裁平成18年12月21日第一小法廷判決（民集60巻10号118頁・金法1802号132頁・判タ1235号148頁）を手がかりに検討する。
第７回　破産と信託の関係について、最高裁平成14年１月17日第一小法廷判決（金法1645号51頁・判タ1084号134頁）を手がかりに、平成19年９月30日から施行された新信託法（平成18年12月15日公布　法律第108号）を踏まえて考察する。
第８回　民事再生とリース契約をめぐる問題点について、東京地裁平成15年12月22日判決（金法1705号50頁・判タ1141号279頁）および大阪地裁平成13年７月19日決定（金法1636号58頁・判時1762号148頁）を手がかりに考察する。
第９回　再生計画案の衡平性をめぐる問題点について、東京高裁平成13年９月３日決定（金判1131号24頁）を手がかりに考察する。
第10回　最高裁平成18年１月23日第二小法廷判決（金法1779号87頁・判タ1203号115頁）を手がかりに、破産手続中の破産者からの任意弁済の可否、さらには自由財産をめぐる諸問題について検討する。
第11回　最高裁平成17年１月17日第二小法廷判決（金法1742号35頁・判タ1174号222頁）、さらに東京地裁平成14年３月14日判決（金法1655号45頁）などを手がかりに、破産および民事再生手続における相殺について検討する。
第12回　最高裁平成16年７月16日第二小法廷判決（金法1721号41頁・判タ1167号102頁）、さらには最高裁平成16年９月14日第三小法廷判決（金法1728号60頁）などを手がかりに、停止条件付債権譲渡担保契約にかかる債権譲渡と否認をめぐる問題点について検討する。
第13回　東京地裁平成15年10月９日判決（金法1699号53頁・判タ1162号286頁）を素材に、いわゆる危機時期にされた預金をめぐる相殺権と否認権をめぐる問題点について検討する。
第14回　大阪地裁平成12年10月20日決定（判タ1055号280頁）、ならびに名古屋高裁平成17年12月14日判決（NBL834号42頁）を手がかりに、民事再生手続における否認の問題を検討する。
第15回　東京地裁平成18年３月28日判決（金法1781号64頁・判タ1230号342頁）を手がかりに、破産および民事再生手続における所有権留保をめぐる諸問題について検討する。

【成績評価の方法】
レポート　40%　出席　60%
下記の①～③に基づいて，総合的に評価する。
①受講態度（予習状況，質問に対する応答，議論内容，積極性など）の評価（50%）
②課題レポートの評価（40%）
③出席状況など（10%）

なお，講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処する。

【参考文献】
講義計画に合わせて適宜紹介する。

【備考】
講義に際しては、担当者から判例などの資料を提供することはない。受講生は、講義計画に示されている判例のコピーを図書館などで事前に入手し、講義に持参することが求められる。
なお、常に最新版の「六法」を携行すること。「六法」の種類は問わないが、「破産規則」、「民事再生規則」や、会社更生規則」など、参照が必要な規則類が掲載されている六法を用意すること。

は
行

科目名　クラス　講義区分	
法学特講－判例からみる刑法　＜春＞	
南　　由　介	２単位

【講義概要】
刑法学は抽象的で難解な用語も多く、受講して、そのイメージの違いに驚く学生も多いかと思います。しかし、それも刑罰がもつ強制力（合法的に人を死に至らしめたり、自由を奪うことができるのです）を考えた場合、議論が複雑になったことも決して不思議なことではありません。自由の保障と秩序の維持という刑法の目的を達成するために、長い年月を経て、今日の刑法学が完成したといえるのです。本講義では、そのようにして出来上がった刑法を、判例の立場から概観し、考察を深めていくことにします。
　なお、本講義は、刑法総論、刑法各論の知識があることを前提に進めていきますので、両科目の単位を取得していない学生については、常に予習をしてくることが望まれます。

【学習目標】
判例の立場を理解し、それぞれの判例のもつ意義を把握した上で、それを批判的に考察することができるようになることを目標とします。また、ある事実において問題となる点を明らかにし、成立する罪名、および、判例の結論を導くことができるようになることを目指します。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　構成要件要素に関する判例（１）
第３回　構成要件要素に関する判例（２）
第４回　構成要件要素に関する判例（３）
第５回　違法性に関する判例
第６回　責任に関する判例
第７回　共犯に関する判例
第８回　個人的法益に関する判例（１）
第９回　個人的法益に関する判例（２）
第10回　個人的法益に関する判例（３）
第11回　社会的法益に関する判例（１）
第12回　社会的法益に関する判例（２）
第13回　国家的法益に関する判例
第14回　各判例の補遺
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％

【教科書】
井田良ほか よくわかる刑法 ミネルヴァ書房

【参考文献】
井田良＝丸山雅夫『ケーススタディ刑法・第２版』(2004年) 日本評論社
井田良『新論点講義シリーズ刑法各論』(2007年) 弘文堂
西田典之＝山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅰ総論・第６版』(2008年) 有斐閣
西田典之＝山口厚＝佐伯仁志『刑法判例百選Ⅱ各論・第６版』(2008年) 有斐閣

科目名　クラス　講義区分	
法学特講－民事再生法会社更生法　＜秋＞	
本　間　法　之	２単位

【講義概要】
講義の対象として、企業･事業の再建を主たる目的とする再建型の倒産処理手続を取り上げる。再建型の手続には、民事再生法に基づく民事再生手続と会社更生法に基づく会社更生手続とがあるが、本講義では、民事再生手続を中心に、再建型倒産処理手続の基礎的事項についての基本的な理解を図りたい。なお、折に触れて会社更生手続にも言及し、両手続との比較において、現行の再建型処理手続の全体像が把握できるように努めたい。

【学習目標】
授業の目標は、受講生が再建型倒産処理手続に関する基本的な知識を修得し理解することにある。倒産処理は、法律問題の‘るつぼ’であり、実体法と手続法が激しく交錯する場である。講義では、倒産処理手続の理解を通じて受講生の民事法全体の理解を深めるよう努めたい。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
　　倒産処理制度の必要性
第２回　再建のスキーム
第３回　民事再生手続の流れ・特徴
第４回　民事再生手続の開始
第５回　民事再生の機関
第６回　再生計画
第７回　再生債務者の地位と法律関係の処理（１）
第８回　再生債務者の地位と法律関係の処理（２）
第９回　民事再生における相殺
第10回　民事再生における否認（１）
第11回　民事再生における否認（２）
第12回　財産評定
第13回　民事再生手続の終了/破産手続への移行
第14回　簡易再生・同意再生
第15回　個人再生

【成績評価の方法】
レポート　60％　出席　40％
定期試験期間中の試験は行なわず、下記の①及び②に基づいて、総合的に評価する。
①受講態度（出席状況、予習・復習状況、講義に対する積極性）(40％)
②試験に代わるレポート（60％）

　なお、講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処する。

【参考文献】
講義において適宜紹介する。

【備考】
講義では、レジュメを配布する。
講義に際しては常に最新版の「六法」を携行すること。「六法」の種類は問わないが,「破産規則」、「民事再生規則」や、会社更生規則」など、参照が必要な規則類が掲載されている六法を用意すること。

科目名　クラス　講義区分	
法学入門　＜春＞	
永　水　裕　子	2単位

【講義概要】
この講義では、法の存在意義、法の実現すべき目的や価値、裁判制度の基本的な仕組みと機能、法の解釈・適用に用いられる法的思考の特徴と技法、法を運用するプロとしての法律家の活動と組織などについて説明し、法というものをどのように考え、どのように運用すべきかについて講義していく。

【学習目標】
法学部に入学したばかりの皆さんが法に対してもっているイメージというのはどのようなものでしょうか。難解だとか強制的なイメージを持っているかもしれません。しかし、法というものは社会があるところには存在しているものであり、皆さんの生活にはあらゆる形で法が関わっています。基本的な裁判制度や法の存在意義、法の解釈・適用のための法的思考について学習することにより、法学部で専門的に法学を学ぶための基礎的な知識と素養を身に着けることがこの講義の学習目標です。

【講義計画】
第１回　法へのアプローチ
第２回　どのような法があるか（法源、法領域の主な種別）
第３回　法の機能（法の規範的機能、法の社会的機能）
第４回　日本の法制度と法文化
第５回　法と強制（法的強制の意味、犯罪と刑罰）
第６回　法と道徳（法と道徳の関係、法による道徳の強制、法的パターナリズム）
第７回　法と正義
第８回　裁判制度
第９回　裁判の機能
第10回　裁判過程と法の適用
第11回　法の解釈
第12回　法的思考
第13回　法学という学問とその教育、法律家
第14回　法の考え方と用い動かし方
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　90%　レポート　０%　出席　10%

【教科書】
田中成明 法学入門 有斐閣
六法

【備考】
〔09Ｊ生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
法情報学　＜通期＞	
関　堂　幸　輔	4単位

【講義概要】
法は元来私たちの社会生活に身近なものですが，今日の高度情報化社会にあっては，人々が法に関する情報に触れる機会がより一層増加しています。また一方で，情報化によって現在は法の在り方やその解釈・運用も変わりつつあります。この講義では，「法に関する情報」と「情報に関する法」という二つの面からさまざまな問題を取り上げて，それらを考察します。

【学習目標】
上記“講義概要”にいう，「法に関する情報」と「情報に関する法」という二つの面の問題点を認識・把握し，それについて各自考察することが目標です。こうした今日的な最新の事項については，いわゆる“正解”というものは存在しません。各自がさまざまな視点から，論理的に考えることが大切です。

【講義計画】
第１回　法とその情報（法律以外の「法」）
第２回　法情報に関するリテラシー
第３回　法における「情報」の意義
第４回　情報の性質と法
第５回　情報の独占と知的財産（１）
第６回　情報の独占と知的財産（２）
第７回　情報の独占と知的財産（３）
第８回　情報のデジタル化による影響（１）
第９回　情報のデジタル化による影響（２）
第10回　情報流通による不法行為（１）
第11回　情報流通による不法行為（２）
第12回　情報流通による不法行為（３）
第13回　最近の裁判例（１）
第14回　最近の裁判例（２）
第15回　前期試験
第16回　情報公開制度（１）
第17回　情報公開制度（２）
第18回　情報公開制度（３）
第19回　個人情報保護制度（１）
第20回　個人情報保護制度（２）
第21回　個人情報保護制度（３）
第22回　個人情報の漏洩と責任
第23回　情報に関する法規制（１）
第24回　情報に関する法規制（２）
第25回　表現の自由とメディア
第26回　情報モラルとサイバー犯罪（１）
第27回　情報モラルとサイバー犯罪（２）
第28回　最近の裁判例（３）
第29回　最近の裁判例（４）
第30回　後期試験

【成績評価の方法】
【成績評価】について：　各学期末（前期・後期いずれも）に実施する試験を主とし（80%），平常点を従として（20%）評価します。平常点は，授業内でやりとりするコメント・カード（詳細は授業で説明）の記述から，授業に対する積極性や興味・関心の程度を計ることにより評定します。

【教科書】
【テキスト】について：　講義ノートを担当者のウェブ（http://www.sokidou.com/）において公開し，適宜更新します。

【参考文献】
必要に応じて授業内にて指示します。

科目名　クラス　講義区分	
法職インターンシップ　＜秋＞	
寺　田　友　子	２単位

【講義概要】
プログラムの概要
（１）　事前研修
A　プログラム・応募資格等のガイダンス
B　パソコンを駆使しての検索能力を高めるための事前研修
C　ビジネスマナーの指導
D　研修要領の説明と報告書の作成指導
（２）　研修期間
夏期休暇中に、弁護士事務所等で研修を受ける（60時間以上、２週間の予定）。　研修期間中、研修簿を毎日記述し、研修先担当者のチェックを受け、終了後担当者に提出する。
（３）　事後研修
報告会用のパワーポイントを作成する過程で、他の法律事務所で研修した学生と体験を語り合うことにより、法曹特に、弁護士の活動等につき理解を深める。
研修結果の報告（一般インターンシップ生と同日に、研修先の方々を前に、パワーポイントを使ってのグループ報告会をおこなう。）

【学習目標】
インターンシップとは、在学中に企業等において研修的な就業体験をする制度で、大学教育と社会での実地体験を結合することにより、教育効果をいっそうあげることを目的とする。
法学部で開講する法職インターンシップも同様であって、在学中弁護士事務所等法職の事務所において、就業体験を得ることで、大学での教育効果をいっそう高め、又、学生の職業意識を涵養、醸成することなどを目的として実施する。
なお、本科目は、事前に実施される応募（基礎演習及び入門科目単位の修得並びに基幹科目の単位を平均B以上で修得していること等）、選考の手続きを経ていることが必要である。受講決定を受けていない場合には、履修手続きができないので注意すること。

【成績評価の方法】
事前研修、研修先からの評価、研修報告書及び事後研修などを総合的に勘案して評価する。

【備考】
受講対象者は３回生で、学科選択科目に位置する。

科目名　クラス　講義区分	
法職オリエンテーション　＜秋＞	
前　田　徹　生	２単位

【講義概要】
法学部の学生諸君は、将来、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹、司法書士、公務員、警察官、あるいは企業家、一般企業のサラリーマンへ進む方が多いと思います。法職オリエンテーションは、裁判官、弁護士、検事を始めとする法曹実務家、法務関係の公務員、実務家、国内外で法務に携わるビジネスマン、ビジネスの世界で活躍する人々等をゲスト・スピーカーとして招き、また、ビデオ等を利用して、実社会での法実務の興味深い事例や事件を報告してもらいます。

【学習目標】
それによって、これから学習する法の世界や実社会を具体的に体得し、学習へのモチベーションを高めるとともに将来の職業選択の一助となることをねらいとしています。

【講義計画】
第１回　どのような方をゲスト講師とするかは未定です。講義開始時点で，一覧表を配布します。
参考のため、昨年度の主な講師一覧を添付いたします。
①10月３日（金）　講師：前田徹生（法学部教授）
テーマ：法職オリエンテーション・ガイダンス
②10月10日（金）　講師　：北坂良三氏（大阪府警察本部警察官採用センター）
テーマ：「警察官の職務」
③10月17日（金）講師　：　徳田要市氏（司法書士）
テーマ：「司法書士の仕事」
④10月24日（金）講師：辰野　勇氏（(株）モンベル代表取締役社長・冒険家）
テーマ：「遊ビジネス――冒険と夢を語る」
⑤10月31日（金）講師：本田　幸則氏（弁護士・本学卒業生）
テーマ：「弁護士の仕事」
⑥11月７日（金）講師：佐野正幸氏（さくら法律事務所・弁護士・元裁判官）
テーマ：「裁判官の仕事と生活」
11月14日（金）　大学祭休講
⑦11月21日（金）講師：木本博之氏（兵庫県行政書士会理事・W．セミナー専任講師）
テーマ：「行政書士の仕事」
⑧11月28日（金）講師：新垣たずさ氏（環境庁・本学卒業生）
テーマ：「公的仕事の多様性」
⑨12月５日（金）講師：藤村輝子氏（藤村法律事務所弁護士・元検察官）
テーマ：「検事、その多彩な職域と職務――格好よくするのは楽じゃない――」

⑩12月12日（金）講師：辰野　勇氏（(株）モンベル代表取締役社長・冒険家）
テーマ：「グローバル・マーケットへの挑戦」
⑪12月19日（金）講師：久米川良子氏（久米川法律事務所・弁護士）
テーマ：「弁護士として」
⑫１月９日（金）　講師：藤原照明氏（元丸紅株式会社・ベイルート、香港、コロンボ勤務）
テーマ：「国際ビジネスと日本」
⑬１月16日（金）テーマ：法科大学院合格者体験報告会
担当：前田徹生、05Ｊ1072　草野翔君
05Ｊ1243　山口裕貴さん
05Ｊ1059　金丸奈々さん
⑭１月23日（金）【予備日】

【成績評価の方法】
二分の一以上の出席を単位認定の最低条件とする。
２回のレポートと出席点を総合して成績評価の判断をおこなう。

【教科書】
なし

【備考】
インテグレーション科目
〔09Ｊ生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
法女性学　＜通期＞	
有　澤　知　子	4単位

【講義概要】
ここ30年ほどの間に、女性をめぐる状況は大きく変化した。1970年初頭の女性解放運動に加えて、「国際婦人年」、「国連婦人の十年」4回の世界女性会議、女性差別撤廃条約の採択など、国際連合の女性の権利保障の推進の成果が出てきているのであろうか。法女性学では、まず国際人権保障を推進する国際連合の動きそして世界の状況についてプリントを配りながら説明していきたいと思う。そのあとプリントやテキストを用いて日本の女性の権利保障など日本の女性の状況について検討したいと思う。

【学習目標】
最近ジェンダーに対するバックラッシュが起こっているが、その基礎にある男女の固定的役割分担論や男女特性論は、非常に見解の狭い考え方であることがわかる。世界の流れは国際人権保障に向かっており、
「女性の権利は人権である」と国際会議で何度も言われ、185カ国が批准する女性差別撤廃条約はそのような古い考えを変えるための規定をおいているからである。生物学的な差異である妊娠・出産・母性以外の保護は差別になるから撤廃しようとするのが女性差別撤廃条約の考えである。社会的性差といわれるジェンダーは人間が作ったものである。社会においてどのような差別がまだ存在するのか考えてみよう。

【講義計画】
第１回　世界と日本の女性の地位
第２回　国際連合憲章と世界人権宣言
第３回　国際人権規約
第４回　国際婦人年、国連婦人の十年、世界女性会議
第５回　女性差別撤廃条約①
第６回　女性差別撤廃条約②
第７回　日本における男女平等
第８回　男女雇用機会均等法とその改正
第９回　女性と労働①
第10回　女性と労働②
第11回　男女共同参画社会基本法
第12回　男女共同参画はどこまで進んだか①
第13回　女性の政治参加とジェンダー政策②
第14回　女性の政治参加とジェンダー政策①
第15回　＊前期期末試験
第16回　結婚・家族①
第17回　結婚・家族②
第18回　離婚・高齢社会
第19回　性・こころ・からだ①
第20回　性・こころ・からだ②
第21回　DV法とその改正
第22回　女性と暴力①
第23回　女性と暴力②
第24回　教育とジェンダー①
第25回　教育とジェンダー②
第26回　マスメデフィアとジェンダー①
第27回　マスメデフィアとジェンダー②
第28回　平和・人権・ジェンダー①
第29回　平和・人権・ジェンダー②
第30回　＊後期期末試験

【成績評価の方法】
試験　100%
前期テスト50%、後期テスト50%

【教科書】
井上輝子・江原由美子編 女性のデータブック（第４版）有斐閣

【参考文献】
浅倉むつ子、角田由紀子編『比較判例ジェンダー法』不磨書房
辻村みよ子『ジェンダーと人権』日本評論社
金城清子『ジェンダーの法律学』有斐閣
東北大学ジェンダーCEOプログラムのジェンダーに関する12冊の本が東北大学出版から出ています。

科目名　クラス　講義区分	
法制史－西洋法と日本法の出会い　＜通期＞	
的　場　香　織	4単位

【講義概要】
講義では、わたしたちが普段「あたりまえ」「自明」と考えている法概念や法理論、法システムがいったいどこから来たのか、どのような過程で「あたりまえ」で「自明」な概念や理論、システムになりえたのか。この問題を「歴史」と「比較」という二つの切り口から取り扱う。
前期の講義では、西洋における「近代法」について学習する。後期の講義では、それらの西洋「近代法」がどのように日本に継受されたのか、あるいは、されなかったのかを比較検討する。

【学習目標】
この講義では、「歴史」と「比較」という２つの視点から「法」「法律」を取り扱う。そしてこれら二つの視点のもつ面白さ、有益さを学んでもらうことを目標としている。
①「歴史」・・「現代法」の基礎にある概念や理論、システムは、実は誕生してから100年あまり、場合によっては50年あまりの歴史しかない。この「現代法」が基礎とする概念や理論、システムの淵源をたどれば、「近代法」に行き着く。その意味で「現代法」の出発点としての「近代法」を学習する。
②「比較」・・明治の幕開けとともに始まる日本の「法の近代化」。そのモデル法を中国法から西洋諸国の法に変更し、精力的に西洋法が受容された。「近代法」を考えるうえで、日本と西洋の「近代法」を比較することは不可欠である。

【講義計画】
第１回　受講上の注意（講義の進め方、成績評価の仕方など）
第２回　法における「近代化」
第３回　フランスにみる「近代化」
第４回　ナポレオンと「近代法」
第５回　ドイツにみる「近代化」
第６回　三月前期のドイツ～法典編纂論争を中心に～
第７回　「自由」と「統一」～立憲主義と自由主義～
第８回　1848年革命～ドイツ三月革命～
第９回　二つの憲法典①～フランクフルト帝国憲法とプロイセン憲法～
第10回　二つの憲法典②～フランクフルト帝国憲法とプロイセン憲法～
第11回　オーストリアとプロイセンの「立憲化」比較
第12回　北ドイツ連邦からドイツ帝国へ～ビスマルクの手腕～
第13回　ドイツ帝国における法典編纂
第14回　近代西洋における法思想～刑法・民法を中心に～
第15回　まとめ
第16回　近代日本とは
第17回　明治維新と「近代化」
第18回　行政機構の整備と中央集権化①
第19回　行政機構の整備と中央集権化②
第20回　国制の模索
第21回　大日本帝国憲法の欽定とその特徴①
第22回　大日本帝国憲法の欽定とその特徴②
第23回　大日本帝国憲法から日本国憲法へ
第24回　刑法典編纂とボアソナード①
第25回　刑法典編纂とボアソナード②
第26回　治安立法①～臣民の権利に対する法律の留保～
第27回　治安立法②～臣民の権利に対する法律の留保～
第28回　旧民法と明治民法①～フランス民法継受と民法典論争～
第29回　旧民法と明治民法②～フランス民法継受と民法典論争～
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　45%　レポート　45%　出席　10%
①授業への参加態度（出席）、②レポート（前期）、③試験（後期）に基づいて、総合的に評価する。

【教科書】
岩村等、三成賢次、三成美保 法制史入門 ナカニシヤ出版
絶版のため、受講生が確定次第、印刷コピーしたものを配布。

【参考文献】
適宜授業中に指示する。
ただし、教科書を補う基本文献として、
・勝田有恒他著『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）
・川口由彦著『日本近代法制史』（新世社、1998年）
をとくに挙げておく。

科目名　クラス　講義区分	
法哲学－正義・権利・人権　＜通期＞	
沼　口　智　則	4単位

【講義概要】
「法とは何か」という問いは、法を学ぶ者にとって最初に問い、そして最後にもう一度問う問題である。
法哲学は、この問いに正面からとりくむ学問であるといえよう。法を通じて、現代をとらえそして未来を展望するための基軸（視座）を獲得するための旅が、この問いから始まる。本講義では、「正義・権利・人権」を中心に法哲学の基本問題にアプローチしていきたい。

【学習目標】
法解釈学的思考の基礎となる柔軟で健全な法的思考力を養ってほしい。法を政治や宗教や道徳と比較検討したり、法そのものの有効性や限界をも考える力を身につけていただきたい。

【講義計画】
第１回　春学期のシラバス紹介　―正義・権利・人権―
第２回　法哲学とは何か(１)　正義とは？
第３回　〃　(２)　人権とは？
第４回　〃　(３)　法学と哲学
第５回　古代ギリシアの法哲学(１)　ソクラテス
第６回　〃　(２)　プラトン
第７回　〃　(３)　アリストテレス
第８回　近代の法哲学総論　―英・米・独を中心に―
第９回　イギリスの法哲学(１)　ホッブス
第10回　〃　(２)　ロック
第11回　〃　(３)　ベンサム
第12回　〃　(４)　J. S. ミル
第13回　現代イギリスの法哲学　H. L. A. ハートを中心に
第14回　春学期のまとめ（夏休みの課題レポートの説明）
第15回　秋学期のシラバス紹介
第16回　アメリカの法哲学(１)　総論
第17回　〃　(２)　1945年以前
第18回　〃　(３)　1945年以後
第19回　正義論(１)　現代正義論の課題
第20回　〃　(２)　J. ロールズの『正義論』Ⅰ
第21回　〃　(３)　〃　〃　Ⅱ
第22回　〃　(４)　〃　〃　Ⅲ
第23回　〃　(５)　〃　〃　Ⅳ
第24回　人権論(１)　人権小史Ⅰ
第25回　〃　(２)　〃　Ⅱ
第26回　〃　(３)　人権の基礎にあるもの
第27回　日韓の法哲学(１)
第28回　〃　(２)
第29回　秋学期のまとめ（論述式試験）

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　30%　出席　10%

【参考文献】
春学期のシラバス紹介のときに基本文献を示すとともに、講義の中でその都度、紹介していく。

【備考】
テキストは使用しない。

科目名　クラス　講義区分	
法哲学－法理論と法解釈論　＜春集＞	
早　川　のぞみ	4単位

【講義概要】
この講義では、法理論（法の一般理論）と法解釈論（法律学方法論）というアプローチから、法解釈の方法と理論について検討していきます。
まず第一部（第３講～第15講）では、法規範の本質と法秩序の構造に関する主要な法理論を概観します。法理論に関しては、従来より、法の概念と効力、法と道徳の関係、法的権利の捉え方などをめぐって、自然法論と法実証主義との間で根本的な対立があります。主要な20世紀以降の法理論を取り上げて、それぞれの理論の特徴と問題について検討し、現代法理論における更なる展望について考えます。
第二部（第16講～第27項）では、法解釈の方法と論理について検討します。裁判官は法をいかに解釈・適用して判決を形成するのか。とりわけ、具体的事実に対して必要とされる適用可能な法がそもそも存在しない場合（法の欠?）や、制定法の文言を超えて実質的に新しい法を定立しなければならない場合（誤謬訂正）、裁判官は、どのような法的思考を経て適正な法的判断を下すのか。そこでは、法的推論の論理的構造を明らかにすることが必要となります。
法的判断がいかにして行われるのかを明らかにすること（法解釈論の領域）は、その判断の対象である法それ自体の解明―すなわち、法規範の性質や法秩序全体の規範構造を把握すること（法理論の領域）―と、密接に関連しています。これら２つの領域―法理論と法解釈論―がどのような仕方で連関しているのか、さらに哲学固有の問題がいかに作用するのかを整理して、全体を総括します。

【学習目標】
20世紀から現代にかけて登場する主要な法理論・法解釈論を概観することによって、法哲学の主要問題について理解し、諸説の基本的な考え方と論理について学びます。法律学を学んでいく上で、法についての基礎理論にまで遡って多角的に考える能力を身につけることを目的とします。

【講義計画】
第１回　序論(１)法哲学の問題領域について
第２回　序論(２)法解釈の問題と法解釈論・法理論
第３回　法規範の特質と法秩序の構造(１)
第４回　法規範の特質と法秩序の構造(２)
第５回　法の概念と効力
第６回　自然法論の歴史的概観(１)
第７回　自然法論の歴史的概観(２)
第８回　法実証主義の理論(１)―ケルゼンの法理論
第９回　法実証主義の理論(２)―ハートの法理論
第10回　現代法理論の展開(１)―ドゥオーキンの法理論
第11回　現代法理論の展開(２)
第12回　法と道徳(１)―法と道徳の関係
第13回　法と道徳(２)―ハート＝デブリン論争／ハート＝フラー論争
第14回　法と権利(１)―権利の基本構造と分類
第15回　法と権利(２)―権利の法的定位
第16回　法と裁判―裁判の特質と機能
第17回　法の解釈・適用(１)―制定法主義と判例法主義
第18回　法の解釈・適用(２)―法的三段論法と事実認定
第19回　アメリカ法の形成と法解釈論(１)
第20回　アメリカ法の形成と法解釈論(２)
第21回　アメリカ法の形成と法解釈論(３)
第22回　ハートの司法的裁量論に対するドゥオーキンによる批判(１)
第23回　ハートの司法的裁量論に対するドゥオーキンによる批判(２)
第24回　解釈の手段と目標(１)
第25回　解釈の手段と目標(２)
第26回　発展的法形成(１)
第27回　発展的法形成(２)
第28回　総括

【成績評価の方法】
期末試験（筆記試験）により評価します。

【教科書】
青井秀夫 法理学概説 有斐閣
田中成明 法理学講義 有斐閣

中山竜一　二十世紀の法思想 岩波書店
上記のいずれか１冊をテキストとして購入すること。

【参考文献】
授業の中で、適宜、紹介します。

【備考】
授業進度に合わせてレジュメ・資料を配布する予定です。
テキストについては『法理学概説』『法理学講義』『二十世紀の法思想』の内、いずれか一冊をテキストとして購入すること。詳細は第１回の講義で説明します。

科目名　クラス　講義区分	
簿記　01＜通期＞	
河　野　　勉	４単位

【講義概要】
簿記とは帳簿記入のことをさすが、会社法では、「適時に、正確な会計帳簿を作成しなければならない」としています。
会計帳簿から、個人・法人とも１年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表・損益計算書）を作成します。
複式簿記の構造、原理を理解することによって決算書を作成することができます。
その内容をやさしく、わかりやすく解説していきます。

【学習目標】
決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、企業にとって、ディスクロージャー（情報公開並びに透明性）＆アカウンタビリテイの必要性が最重要視されている。
決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。
企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。
更に、電子商取引時代を迎えて、電子帳簿保存法が施行された今日のペーパレス化と帳簿との関連についても言及したい。

【講義計画】
第１回　複式簿記の原理
第２回　貸借対照表の意義
第３回　損益計算書の意義
第４回　取引・仕訳と勘定記入
第５回　仕訳帳と元帳転記
第６回　試算表の構造と作成（その１）
第７回　試算表の構造と作成（その２）
第８回　帳簿決算（英米式・大陸式）（その１）
第９回　帳簿決算（英米式・大陸式）（その２）
第10回　精算表
第11回　決算の意味と手続
第12回　決算と財務諸表の作成（その１）
第13回　決算と財務諸表の作成（その２）
第14回　前期試験
第16回　現金・預金取引
第17回　商品売買取引
第18回　信用取引
第19回　手形取引・有価証券取引
第20回　固定資産取引
第21回　個人企業の資本取引
第22回　決算整理（その１）貸倒引当金・減価償却
第23回　決算整理（その２）費用・収益の繰延べと見越し
第24回　試算表の作成
第25回　精算表の作成
第26回　財務諸表の作成（その１）
第27回　財務諸表の作成（その２）
第28回　後期試験

【成績評価の方法】
簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定３級に合格した場合は、成績評価に加算する。

【教科書】
加古　宜士・渡部　裕亘　片山覚（編著）
「新検定簿記　ワークブック３級」（中央経済社）
「新検定簿記講義３級」

科目名　クラス　講義区分	
簿記　02＜通期＞	
堀　井　愃　暢	4単位

【講義概要】
企業は経済活動の結果としての経営成績や財政状態を、株主や債権者等の利害関係者に対して損益計算書や貸借対照表で報告しなければならない。このための、実像としての経済活動を貨幣金額で写像するシステムが「複式簿記」である。企業人としての基礎知識である簿記を、初めて学習する人を前提に基本原理から決算までを学習する。

【学習目標】
複式簿記の基本原理を理解し、日常の取引の記帳から決算までの一連の手続を習得する。
日本商工会議所主催の簿記検定試験３級合格及びそれ以上のための基礎を身につける。

【講義計画】
第１回　簿記の基礎と原理（１）簿記の意義
第２回　簿記の基礎と原理（２）損益計算書と貸借対照表
第３回　簿記の基礎と原理（３）損益法と財産法
第４回　取引の意義
第５回　取引の分析と類型
第６回　仕訳帳と元帳（１）仕訳帳への記入
第７回　仕訳帳と元帳（２）元帳への記入
第８回　試算表（１）試算表の作成
第９回　試算表（２）財務諸表の誘導
第10回　決算とその手続（１）損益勘定の設定と純損益の振替
第11回　決算とその手続（２）残高勘定の設定と財務諸表の作成
第12回　決算とその手続（３）開始記入と大陸式決算手続・英米式決算手続
第13回　決算整理と精算表（１）現金主義会計と発生主義会計
第14回　決算整理と精算表（２）決算整理記入
第15回　決算整理と精算表（３）精算表の作成
第16回　商品売買の処理（１）商品勘定
第17回　商品売買の処理（２）商品勘定の分割
第18回　商品売買の処理（３）商品売買業における帳簿
第19回　現金預金の処理
第20回　手形の処理（１）
第21回　手形の処理（２）
第22回　債権の評価―貸倒引当金の処理
第23回　有価証券の処理
第24回　商品の期末評価
第25回　固定資産の処理
第26回　引当金の処理と経過勘定の処理
第27回　税金の処理及び伝票制
第28回　総復習

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　10%　出席　20%

【教科書】
武田 隆二 簿記一般教程〈第６版〉中央経済社

科目名　クラス　講義区分	
保険論基礎　＜春＞	
武　田　久　義	2単位

【講義概要】
リスクに対処する経済的手段の一つである保険は、現在の社会においては不可欠の制度の一つとして定着している。そして保険は、生命、財産上の損失、賠償責任等の広い分野に利用されている。しかし、一般的には「保険はイザというときの備え」という程度にしか理解されていない。この講義では、保険の仕組みと成り立ち、保険の役割と用途、保険の限界、保険の組織、契約としての保険等、保険を真に理解し社会に出て役立つような保険の基礎的知識について解説する。

【学習目標】
保険についての基礎的知識を習得する。そして、社会において保険と係わる場合に、最低必要な知識について理解しておく。金融関連事業とくに保険会社等で働く場合に役立つ程度の知識は、身に付けておいてほしい。

【講義計画】
第１回　全体の説明
第２回　保険の意義
第３回　保険の役割
第４回　保険の類似制度（１）
第５回　保険の類似制度（２）
第６回　保険の組織
第７回　保険の契約
第８回　保険の種類と代表的な保険について（１）
第９回　保険の種類と代表的な保険について（２）
第10回　保険の種類と代表的な保険について（３）
第11回　保険の種類と代表的な保険について（４）
第12回　保険の生成と発展（１）
第13回　保険の生成と発展（２）
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験とレポートによる。

【教科書】
武田久義 リスク・保障・保険 成文堂

【参考文献】
保険関連文献は、基本的に参考になる。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
ボランティア論　＜秋＞	
大　野　順　子	２単位

【講義概要】
市民社会を形成する新しいセクターとして、その社会的地位を確立しつつあるボランティア活動、市民活動、社会貢献活動、NPO等についての基本的理解を中心に、その実態、社会的意義等、ボランティア活動概念の変化、及び、その多様な活動内容を検証していく。

【学習目標】
多元的な現代社会において“ボランティア”に対する概念も変容していることを理解し、その上で、グローバルな社会を担う市民としての役割、自覚を高め、市民としての資質を育成する。そのために、実際に課外活動（ボランティア活動、社会体験活動、市民活動等）を行い、参加した活動の内容についてレポートとしてまとめ、提出してもらう。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　ボランティアとは何か
第３回　ボランティアの戦後史
第４回　市民社会とボランティア　その１
第５回　市民社会とボランティア　その２
第６回　社会関係資本としてのボランティア　その１
第７回　社会関係資本としてのボランティア　その２
第８回　NGO／NPOについて
第９回　人はなぜボランティアをするのか　～そのメカニズムを探る～
第10回　ボランティアを批判的に捉える
第11回　ボランティアのコーディネーション
第12回　ボランティアのケア
第13回　ボランティアの新しいあり方　その１　～企業とボランティア～
第14回　ボランティアの新しいあり方　その２　～教育とボランティア～
第15回　予備日（全15回のうち１回外部から講師を招聘し講演会を開催予定）

【成績評価の方法】
期間内試験（重視）及びレポート（期限厳守、特別な理由がない限り期限外提出は一切受け付けない）、出席状況（参考程度）より総合的に評価します。

【教科書】
特に指定しない。
毎時テーマに沿ったレジュメを配布する。

【参考文献】
『ボランティアと市民社会～公共性は市民が紡ぎだす～』編者：立木茂雄　発行：晃洋書房　1997年初版

『なぜボランティアか「思い」を生かすNPOの人づくり戦略』著者：スーザン・エリス　訳者：筒井のり子他　発行：海象社　2001年初版

『非営利組織の経営－原理と実践－』著者：Ｐ・Ｆ・ドラッガー　訳者：上田惇生他　2004年第18刷

『哲学する民主主義　伝統と改革の市民的構造』著者：ロバート・Ｄ・パットナム　訳：河田潤一　2001年

『学生のためのボランティア論』 岡本榮一他著　大阪ボランティア協会発行　2006年

科目名　クラス　講義区分	
マーケティング論Ａ　01＜春＞ マーケティング論Ａ　02＜春＞	
鈴　木　幾多郎	２単位

【講義概要】
市場を創造し、企業の未来を切り開いていくためにはマーケティングが不可欠である。では、マーケティングとは、そして、の役割とは何だろうか。あるいは、マーケティングの働きを活性化するために、どのようなマナジメントを行えばよいのだろうか。市場を創造し維持するためには、どのように企業活動を設計し管理すればよいのか。本講義では、さざまななケースの分析や考察を通じて、これらの問いへの答えを探り出すことを目的としている。

【学習目標】
生きたマーケティングの知識や知恵を伝えるには「ケースと一体のものとしてマーケティングの理論や概念を提示していく」というスタイルが理にかなっている。本講義では、ケースに即してマーケティングの問題を考えることを目標にしている。

【講義計画】
第１回　マーケティングから見た日本企業の現代的課題
第２回　マーケティング・マネジメント
第３回　これまでにない市場をつくる
第４回　市場づくりの後ろ盾
第５回　市場との関係を変える
第６回　耐えず変わり続ける市場への対応
第７回　他の追随を許さない強みを築く
第８回　マーケテイングの優良企業の条件
第９回　マーケティング・リテラシー
第10回　情報把握のエクセレント
第11回　情報普及のエクセレント
第12回　情報反応のエクセレント
第13回　市場への創造的適応
第14回　創発するマーケティング
第15回　新たなマーケティング戦略に向けて

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　30%

【教科書】
栗木契・余田拓郎・清水信年 売れる仕掛けはこうしてつくる 日本経済新聞社
レジメおよび資料は授業で配布する

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
マーケティング論B　01＜秋＞ マーケティング論B　02＜秋＞	
鈴　木　幾多郎	2単位

【講義概要】
日本企業がいま抱えている経営上・マーケティングの課題とは、いったいどのようなことなのであろうか。そして、それを乗り越えていくためには、どのようなマーケティングの方策が必要なのだろうか。
一つの課題は、消費状況に焦点を置いたマーケティングのプロセスである。消費者が現実に持つ課題とそれに対する解決策を探り当てることであり、それに応えられるような形で製品・サービスの完成度を上げていくことである。
本講義では、優れたイノベーションの事例を参考に「市場創造」と「マネジメント」というテーマで話を進めていく。

【学習目標】
市場創造のためには表層的な市場分析ではなく未来創造戦略が重要となる。未来創造戦略とは、競争相手との比較優位性に基づく相対価値ではなく、自分たちの価値観、自らが信じる絶対価値を追求するものである。本講義では、優れたイノベーションをの事例を紹介しながら、未来創造的なマーケティングのあり方を考えることを目標としている。

【講義計画】
第１回　日本企業はいま、どのようなマーケティングが必要なのか。
第２回　創造的破壊とは何か。
第３回　イノベーションのジレンマ
第４回　イノベーションの本質
第５回　イノベーションの条件
第６回　理想主義的プラグマティズム
第７回　場づくりの力を蓄える
第８回　知のリンクをはる
第９回　知識を知恵化する
第10回　市場創造の多様性
第11回　マーケティングの「フォーカス」
第12回　ポジショニング戦略
第13回　ブランド・リーダーシップ
第14回　企業デザインとマーケティング
第15回　新たなマーケティング戦略の構築に向けて

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　40%

【教科書】
野中郁次郎・勝見明 イノベーションの作法 日本経済新聞社
レジメと資料は、授業で配布する。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
マクロ経済学　01＜通期＞	
森　　誠	4単位

【講義概要】
近代経済学のマクロ経済学を講義します。
まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介します。この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思っています。

【学習目標】
近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思います。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも１年後にはずいぶん慣れているはずです。

【講義計画】
第１回　失業と労働市場-新古典派の考え方-
第２回　失業と有効需要-ケインズの考え方-
第３回　生産GDP
第４回　支出GDP
第５回　三面等価の原則
第６回　在庫投資
第７回　貨幣賃金と実質賃金
第８回　名目GDPと実質GDP
第９回　名目成長率と実質成長率
第10回　インフレーションと実質賃金上昇率
第11回　ISバランス１
第12回　ISバランス２
第13回　貿易黒字と貯蓄１
第14回　貿易黒字と貯蓄２
第16回　新古典派とケインズ
第17回　有効需要原理
第18回　投資乗数
第19回　乗数過程１
第20回　乗数過程２
第21回　均衡予算定理
第22回　投資関数
第23回　利子率の決定１
第24回　利子率の決定２
第25回　IS曲線
第26回　LM曲線
第27回　財政政策の効果と問題点
第28回　金融政策の効果と問題点
第29回　リカード命題

【成績評価の方法】
試験　100%
前期・後期試験
基本的には試験の点数で成績評価しますが、講義に出席せずに合格するのは難しいと思います。やむを得ない事情で欠席した場合は必ず出席した人のノートを写し内容を理解しておいてください。１回休むと次回内容がわからなくなります。

【教科書】
特になし

【参考文献】
・工藤・井上・金谷『マクロ経済学』東洋経済.惣宇利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社.吉川洋『マクロ経済学』岩波,ケインズ派の立場によるマクロ経済学.
その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
マクロ経済学　02＜春集＞	
伊代田　光　彦	4単位

【講義概要】

近代経済学の立場からマクロ経済学の講義を行う。

経済成長というのはどういうことなのだろうか。国全体の所得はどのようにして決定されるのだろうか。失業はなぜ生じるのだろうか。景気変動はなぜ起こるのだろうか。内外価格差はなぜ存在するのだろうか。このような問題に答えるためには、経済全体の仕組みを明らかにし、解決の処方箋を与えることのできる理論が必要となる。このための基礎理論がマクロ経済学である。従ってマクロ経済理論というのは、いわば経済全体の大きな眺めを扱う経済理論の分野である。もう少し具体的な内容は講義計画の中に列挙されている。

【学習目標】

(1)マクロ経済学が魅力のある分野であり、経済問題の解決に役立つことを理解してもらうことを最大の目標とする。(2)マクロ経済学の基礎理論を学ぶことによって、①関連科目・応用科目学習の基礎として役立てること、および②新聞、ラジオ、テレビなどによるマクロ経済ニュースについて概ね理解できるようになることを目標とする。講義においては、理論をできるだけ現実の問題に関連づけ、具体例を上げながらゆっくり進めていくつもりである。理論はステップを踏んで学習していくことが必要であり、授業への出席と継続的な努力が伴わなければ上記の目標を達成することは困難である。

【講義計画】

第1回　はじめに（講義概要、文献紹介）
第2回　マクロ経済学への導入（経済学とは）
第3回　マクロ経済学への導入（現代経済学）
第4回　マクロ経済学への導入（経済学を学ぶにあたって）
第5回　国民所得の概念（計測方法）
第6回　国民所得の概念（GDPおよびNDP）
第7回　国民所得の概念（関連概念）
第8回　国民所得の概念（意義と限界）
第9回　所得分析（消費、貯蓄および投資）
第10回　国民所得分析（所得決定論）
第11回　国民所得分析（所得決定論）
第12回　国民所得分析（応用）
第13回　貨幣分析（貨幣数量説）
第14回　貨幣分析（貨幣と国民所得）
第15回　貨幣分析（銀行の信用創造）
第16回　貨幣分析（中央銀行の金融政策手段）
第17回　国民所得の変動（変動要因）
第18回　国民所得の変動（投資の二重効果）
第19回　国民所得の変動（景気循環）
第20回　国民所得の変動（付論　経済成長）
第21回　マクロ経済政策（中央銀行の金融政策）
第22回　マクロ経済政策（政府の財政政策）
第23回　マクロ経済政策（ポリシーミックスと現代の課題）
第24回　マクロ経済政策（付論　IS-LM 分析）
第25回　まとめ
第26回　日本経済のトピックス（失業）
第27回　日本経済のトピックス（経済格差）
第28回　予備　日本経済のトピックス（年金）
第29回　試験

【成績評価の方法】

試験　60%　レポート　30%　出席　10%

成績評価は上記により行のので，レポート未提出や出席の少ない場合、単位取得は困難である。レポートは2回、出席は2~3回とる。

【教科書】

伊代田　光彦 マクロ経済学（第2版）法律文化社

【参考文献】

サムエルソン（著）「経済学（第13版上）」（岩波書店、1992年）

【備考】

＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
マクロ経済学　03＜秋集＞	
中　村　勝　之	4単位

【講義概要】

マクロ経済学の主要な課題は、一国経済を規定するGDP（国内総生産）の決定メカニズム、およびそこから派生して決定される経済成長、失業、インフレといった諸変数の決定メカニズムを探り、その上で、政府によるマクロ経済政策の効果を理論的に検証することにある。

入門レベルの教科書ではこうしたことが列挙されている。だが誤解を恐れずに言うならば、入門レベルの内容を信じている経済学者は皆無である（「学部レベルのマクロを教える意味はないんじゃないか」という先生もいる位である！）。そこには数多の理由があるが、1つ確実にいえることは、従来の内容が「ミクロ的基礎づけ」という、一般国民の素朴な行動様式をまじめに取り上げなかったことが、旧体系の信用を失わせた原因である。

そこでこの講義では1つのチャレンジとして、教科書的な旧体系と現在のマクロ経済理論が重視する「ミクロ的基礎付け」による体系との比較を行ってみたい。もちろん旧体系と現在の体系では発想から使用する分析道具まで異なっているので、単純な比較はできない。だがそこは教員の「腕」の見せ所。具体的な比較事項として、旧体系で重視しているマクロ経済政策の効果について検討していきたい。

なおこの講義では数学をより積極的に使用する予定にしているが、初学者で対応可能な操作を行うので、恐れずに受講していただければ幸いである。

【学習目標】

ここでは「連立方程式体系」と「ミクロ的基礎付けによるマクロ体系」を比較する。その中で両体系の、

①背後にある前提
②論理を追求した際の整合性
③政策上の帰結と含意

これらの違いを理解していただきたい。

【講義計画】

第1回　ガイダンス
（これ以降は受講生数や能力等に応じて、講義進行を変更することがある。）
第2回　文法としての経済数学Ⅰ（関数と方程式）
第3回　文法としての経済数学Ⅱ（微分法）
第4回　GDPⅠ（三面等価の原則）
第5回　GDPⅡ（さまざまな指標）
第6回　GDPⅢ（名目と実質）
第7回　第1回小テスト
第8回　主要関数一覧Ⅰ
第9回　主要関数一覧Ⅱ
第10回　乗数理論Ⅰ
第11回　乗数理論Ⅱ
第12回　第2回小テスト
第13回　IS－LM分析Ⅰ
第14回　IS－LM分析Ⅱ
第15回　IS-LM分析Ⅲ
第16回　第3回小テスト
第17回　中間試験
第18回　ミクロ的基礎付けⅠ（消費者行動の状況設定）
第19回　ミクロ的基礎付けⅡ（消費者の意思決定）
第20回　ミクロ的基礎付けⅢ（生産者行動）
第21回　ライフサイクル・モデルⅠ
第22回　ライフサイクル・モデルⅡ
第23回　リカードの等価命題Ⅰ
第24回　リカードの等価命題Ⅱ
第25回　世代重複モデルⅠ
第26回　世代重複モデルⅡ
第27回　第4回小テスト
第28回　本講義のまとめ

【成績評価の方法】

試験　100%　出席　100%

①講義時間中に行われる「小テスト」（4回程度実施（1回につき10点満点）。獲得合計を100点満点に換算）
②講義期間中頃に行われる「中間試験」
③「期末試験」
※上記①～③の獲得点数をもとに、一定のルールにしたがって評点

ま行

を計算する。
※（必要であれば）各試験の獲得点にもとづく加点措置を行い、60点以上であれば合格。
※上記措置で59点以下の者は「出席点」による加点措置も行う。

【教科書】
使用しない。適宜資料（レジュメ）を配付する。

【参考文献】
必要に応じて指示する。

【備考】
試験情報などはホームページ（http://rio.andrew.ac.jp/~nakamura）を参照すること。
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
マスコミュニケーション論Ⅰ　＜秋集＞	
石　田　あゆう	4単位

【講義概要】
「マス・コミュニケーション」と言われた時、具体的にどのようなコミュニケーションをイメージするであろうか。「マス・コミ」との言葉が一般的には定着しているが、今日の情報伝達機関（各メディア）の総称であろうか。また、「コミュニケーション」が互いにやりとりされる自らの気持や意思の伝達過程を指すように、複数の人間間でのやりとりの結果として成立するお互いの合意のありようだろうか。どちらの指摘もそれぞれ正しいが、この研究領域はそれだけにとどまらない側面を持つ。本講義では、メディア論の観点から「マス」（＝大衆）社会において展開されてきたコミュニケーション研究の歴史を概観したうえで、今日のマス・コミュニケーションの可能性とその社会的問題について講義する。

【学習目標】
本講義では、「メディア」を通じたコミュニケーションについて理解したうえで、「マス・コミュニケーション」とは何か、その問題点は何か、なぜこうした領域を学ぶ必要があるとされているのか等についての思考を深める。
前半と後半とに大別して次の二つのテーマを講義する。第一に、マス・コミュニケーションの理想と歴史的変容についての考え方、第二に、マス・コミュニケーション研究が誕生した経緯とその後の発展形態である。
マス・コミュニケーション論は、公的意識や社会への関心があってはじめて受講することに意味があるだろう。受講者は、日常生活において、現在の世の中では何が話題になっているのかを敏感に察知できるようになってもらいたい。

【講義計画】
第１回　「マス・コミュニケーション」と社会
第２回　近代日本社会とマス・コミュニケーション
第３回　「よろん」と「せろん」
第４回　市民社会から大衆社会へ
第５回　総力戦とマス・コミュニケーション
第６回　マス・コミュニケーションの理想形態
第７回　「新聞」メディアの誕生
第８回　近代的読書論
第９回　『本を読む女』
第10回　音読文化論からの活字文化批判
第11回　「公共性の喪失」論
第12回　ベストセラーをどう見るか
第13回　メディアの統合機能論
第14回　メディアの細分化機能論
第15回　マス・コミュニケーション研究の登場
第16回　「情報」と「メディア」
第17回　「プロパガンダ＝戦争宣伝」の考え方
第18回　メディアの弾丸効果論
第19回　メディアの限定効果論
第20回　現代メディアの影響についての考え方（１）
第21回　19回つづき：＜世論＞は受け手の「公的な意見」か
第22回　現代メディアの影響についての考え方（２）
第23回　21回つづき：＜世論＞がゆがむ問題について
第24回　現代メディアの影響についての考え方（３）
第25回　23回のつづき：社会的「沈黙」の問題
第26回　現代メディアの影響についての考え方（４）
第27回　パーソナル・メディア・コミュニケーション
第28回　これからのマス・コミュニケーション研究

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　20%　出席　10%
具体的には第一回講義で告知するので、出席のこと。

【参考文献】
適宜指示する

科目名　クラス　講義区分	
マスコミュニケーション論Ⅱ　＜通期＞	
川　島　　隆	4単位

【講義概要】
マスメディアの成立は、近代における「市民」という社会階級の成立と密接にかかわっている。ところが現在、マスメディアは「市民」自身の手を離れ、何か別のものの支配下に入ってしまったとしばしば考えられている。この授業では、近代のマスメディアがどのような発展を遂げ、どのような変質をこうむった結果、現在のような状況が生じたかについて、ハーバーマスの「市民的公共圏」の理論を参照しながら見ていく。さらに、そうした状況を変える取り組みの例として、「市民メディア」「コミュニティ・メディア」と呼ばれる活動の実践を、世界各国の事例から紹介していきたい。

【学習目標】
この授業では、マスメディアの歴史および現状についての見通しをつけやすくするため、国別の比較を行いながら学習する。受講者は、各国のマスメディアとそれに対抗する活動について具体的な知識を得たうえで、各自が今日のメディア状況に対して批判的な意識を持ち、自分自身の意見を整理して述べることが求められる。

【講義計画】
第１回　前期ガイダンス――マスメディアの何が問題なのか
第２回　「市民的公共圏」とメディア
第３回　マスメディアの歴史(１)イギリス
第４回　マスメディアの歴史(２)フランス
第５回　マスメディアの歴史(３)ドイツ
第６回　マスメディアの歴史(４)日本
第７回　ラジオの力(１)ナチス・ドイツの宣伝
第８回　ラジオの力(２)ルワンダの悲劇
第９回　まとめと中間試験
第10回　現代日本のマスメディア(１)新聞
第11回　現代日本のマスメディア(２)テレビ・ラジオ
第12回　現代日本のマスメディア(３)インターネット
第13回　阪神淡路大震災とコミュニティ放送局の誕生
第14回　さまざまなコミュニティ放送局
第15回　期末試験
第16回　後期ガイダンス――社会運動とメディア
第17回　アメリカの公民権運動と「パブリック・アクセス」
第18回　「自由ラジオ」運動(１)イタリア
第19回　「自由ラジオ」運動(２)フランス
第20回　「自由ラジオ」運動(３)ドイツ
第21回　ヨーロッパの「オープンチャンネル」制度
第22回　EUの拡大とメディアの役割
第23回　まとめと中間試験
第24回　アジア諸国のメディア状況――災害とラジオ
第25回　台湾の「原住民電視台」
第26回　韓国の「市民メディア」
第27回　日本の「市民メディア」
第28回　コミュニティ放送局が抱える課題(１)財源と運営主体
第29回　コミュニティ放送局が抱える課題(２)市民運動とのかかわり
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　80%　出席　20%
期末試験のほかに、中間試験を実施する。

【教科書】
プリントを配布する。

【参考文献】
松浦さと子・小山帥人（編）『非営利放送とは何か　市民が創るメディア』
ミネルヴァ書房　978-4-623-05232-5

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア実習　01＜秋＞	
森　下　舒　弘	2単位

【講義概要】
現在、情報伝達手段の変化には目覚しいものがある。それはビジネス、行政、教育等の場だけでなく、日常生活に大きな影響を及ぼすようになってきている。コンピュータやその周辺の発達は、文字だけでな、画像（静止画）、映像（動画）、音声・音響データ等を処理することが可能になってきた。それらを通じて提供される情報は、社会の変革をもたらすほどの影響力を持ちつつある。その結果私たちは、それらを扱う能力＝メディアリテラシー（メディアの読み取り、書く能力等）が、必要不可欠なものになってきている。

本講義では、基礎理論、情報ネットワーク時代のメディアの特性、そしてメディア統合を理解する。さらに伝達手段としての表現能力（単にメディアコンテンツを作成できるというだけでなく）と、知識・情報を活用した価値ある新しいものを生み出す創造力を、実習で身につけることを目的とする。

【学習目標】
マルチメディア環境を活用した、情報伝達のための表現手段を身につける。

そのために、
●マルチメディアの基礎理論を理解する。
●デジタル情報ネットワーク（マルチメディア）時代の、メディアの特性を理解する。
●メディアリテラシーの考え方を理解する。
●実習により、企画・編集・表現力を身につける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、マルチメディアの定義
第２回　メディア（媒体）とは、情報メディアの歴史①（アナログ）
第３回　情報メディアの歴史②（デジタル、ネットワーク）
第４回　メディアリテラシーとは
第５回　編集企画について、情報検索について
第６回　編集実習Ａ（パワーポイントによる）
第７回　編集実習Ａ―課題制作
第８回　編集実習Ａ―課題制作・課題作品Ａ提出
第９回　表現企画について
第10回　編集・表現実習Ｂ－テーマ設定
第11回　編集・表現実習Ｂ－コンテンツ展開
第12回　編集・表現実習Ｂ－表現企画・制作
第13回　編集・表現実習Ｂ－発表・プレゼン準備、課題作品Ｂ提出
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席　15%
◆課題Ａ（提出作品Ａ）＋課題Ｂ（提出作品Ｂ）による評価
（課題Ａ：35%）（課題Ｂ：50%）
◆出席については、各授業１回出席につき１点

【教科書】
特になし
講義資料については、随時プリントにて配布する

【参考文献】
講義時に、適宜提示する

ま　行

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア実習　02＜８月集中＞	
平　井　尊　士	２単位

【講義概要】
今日、情報化社会において知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる。特に、情報の電子化技術の中で、マルチメディアなどのメディアが進展する中で、デジタルコンテンツを有効に活用するとともに研究者や技術者自らが外に向かって情報を発信するための作成技術を身に付ける事が必要になっている。
　そこでメディアを発信していく際の基礎的な知識から応用技術について取り上げ演習する。具体的には、コンピュータを利用したメディアの活用方法を各種メディアの現状、特性、活用などの観点から、情報メディアについて基礎能力（図形処理や画像処理）を習得する中で、学生がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするために学習活動の充実に努める。あわせて、関連法規、倫理についても学ぶ。ただし、マルチメディアについて学習させるときには、単に技術的に各メディアの技術ばかりに深入りしないようにも注意を払う。

【学習目標】
講義および課題の繰り返し学習である。すべての課題が提出できることを目標とする。

【講義計画】
第１回　１．マルチメディア概論（特徴と利用方法）
　　１）マルチメディア概論
第２回　２）各マルチメディアの利用方法
第３回　３）学校における情報環境
第４回　２．ソフトウエアを選択して、メディアの表現や発信
　　１）デジタルコンテンツの作成方法（ブラウザベース）
第５回　２）印刷物の電子化技術
第６回　３）デザイン技法とのかかわり
第７回　３．モデル化とシュミレーション（作品作成）
　　１）モデル化
第８回　２）マルチメディア作成技法（図形処理、画像処理）
第９回　４．シュミレーション　（表現方法の工夫・情報の統合）
　　SGML XMLの処理演習と活用事例
第10回　５．マルチメディアと周辺領域の関連１）情報検索およびデータベースとマルチメディア
第11回　２）関連法規、倫理との関連
第12回　６．総合演習１
第13回　７．総合演習２
第14回　８．総合演習３
第15回　９．まとめ

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　85％　出席　15％
計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する。出席点については各授業１回出席について１点。

【参考文献】
常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社　2003．４）

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア文化論　＜春集＞	
佐　野　明　子	４単位

【講義概要】
私たちは日常生活で、多種多様なメディアを目にしています。それらは複数のメディアが合体し、さらには送り手と受け手のコミュニケーションが可能になっているものも少なくありません。本講義では、アニメーションを軸に、さまざまなメディアの特性と、そうしたメディア間の横断を示します。

【学習目標】
３年次のマルチメディア文化実習に必要な基礎知識の修得を目指します。アニメーションと隣接メディアの関連と、世界の多様なアニメーション文化を確認したうえで、映像の送り手／受け手として利用するマルチメディア環境を総合的に把握しましょう。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　アニメーションと現代美術
第３回　アニメーションと美術館
第４回　アニメーションとCM
第５回　アニメーションの文法（１）
第６回　アニメーションの文法（２）
第７回　アニメーションと劇映画（１）
第８回　アニメーションと劇映画（２）
第９回　アニメーションとシュルレアリスム
第10回　実験アニメーション（１）アニメーション３人の会
第11回　実験アニメーション（２）手塚治虫
第12回　実験アニメーション（３）山村浩二
第13回　カナダのアニメーション
第14回　中国・韓国のアニメーション
第15回　世界の人形アニメーション（１）
第16回　世界の人形アニメーション（２）
第17回　世界の人形アニメーション（３）
第18回　日本の人形アニメーション（１）持永只仁と岡本忠成
第19回　日本の人形アニメーション（２）川本喜八郎
第20回　中間試験
第21回　マルチメディアの基礎（１）
第22回　マルチメディアの基礎（２）
第23回　パソコン
第24回　コンテンツ制作の基礎（１）
第25回　コンテンツ制作の基礎（２）
第26回　インターネット（１）
第27回　インターネット（２）
第28回　インターネット（３）
第29回　セキュリティと著作権
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
出席、授業内レポート、中間試験、期末試験から総合的に評価する

【教科書】
西原清一監修 入門マルチメディア　ITで変わるライフスタイル 画像情報教育振興協会

【参考文献】
『アートアニメーションの素晴しき世界』エスクイアマガジンジャパン　2002
『アニメーションの世界へようこそ』山村浩二　岩波書店　2006
『スーパー・アヴァンギャルド映像術　個人映画からメディア・アートまで』佐藤博昭，西村智弘，編集部編　フィルムアート社　2002
『人形（パペット）アニメーションの魅力　ただひとつの運命』おかだえみこ　河出書房新社　2003
『ユーロ・アニメーション　光と影のディープ・ファンタジー』昼間行雄，権藤俊司，編集部編　フィルムアート社　2002

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア論　01＜春＞	
森　下　舒　弘	2単位

【講義概要】
現在の情報伝達の方法は多様である。この多様化の傾向はさらに進んでいくと考えられる。新聞、雑誌等の印刷媒体。テレビ、ラジオ等の電波媒体。そしてインターネットに代表される電子・デジタル媒体は、ネットワークメディアとしてさらに機能が拡大している。それらを通じて提供される情報は、人間生活において、必要不可欠な要素となっている。生活、ビジネス、教育、行政等の場において。また現代は、コンピュータの発達・変化だけでなく、メディアコンテンツがネットワーク上で融合するメディアコンテンツ融合の時代（マルチメディア時代）とも言われている。一方、多大な有効性を発揮するマルチメディアの「光の部分」に対して、「影の部分」が大きな社会問題になっている。

本講義では、情報メディアの基礎理論、歴史、そしてメディアリテラシー等を学習することにより、ユビキタス社会での知識・情報の活用方法、新しいものを生み出す創造力を身につける事を目的とする。

【学習目標】
●「マルチメディア」についての基礎理論を理解する。
●人間とメディア（媒体）との関わりの意義を理解する。
●原始時代から今日までの、情報メディアの進展を理解し、現在のデジタル・ネットワーク時代（マルチメディア時代）の、歴史の中における位置づけを理解する。
●「メディアリテラシー」を十分理解する事により、今日（マルチメディア時代）における、生活の中でのメディアとの対応力を身につける。
●ユビキタス社会での情報の活用を基に、新しい価値観を生み出さす創造力を身につける。

【講義計画】
第１回　ガイダンス、マルチメディアの定義
第２回　メディア（媒体）とは
第３回　情報メディアの歴史①（メディアの発生）
第４回　情報メディアの歴史②（アナログメディア）
第５回　情報メディアの歴史③（デジタルメディア）
第６回　ネットワークメディアの現状
第７回　ユビキタス社会とは
第８回　ネットワーク社会
第９回　メディアリテラシーとは
第10回　マルチメディアと行政・産業
第11回　マルチメディアと教育・生活
第12回　マルチメディアの光と影
第13回　マルチメディアの倫理・関連法規
第14回　マルチメディアの将来像、まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　15%　出席　15%
中間レポートと定期試験にて評価する。
出席点は、各授業１回出席につき１点

【教科書】
特になし。
講義資料は適時プリントにて配布する。

【参考文献】
第１回講義時および適時提示する。

科目名　クラス　講義区分	
マルチメディア論　02＜８月集中＞	
平　井　尊　士	2単位

【講義概要】
今日、世界でやりとりされる主な伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報化社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。そこで本講義においては、メディアとソフトウエア、表現、環境はどのような関連をもつのか、「Microsoft Office 2000」などの既存のソフトを利用し、基礎理論（図形処理や画像処理）を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を発揮できるようになることを期待している。また、メディアを取り巻く技術の進展の早さゆえに、メディアに関する研究は、過去を捨て去ってきた傾向が見受けられるため、歴史を振り返りつつ、メディアを取り巻いてきた社会制度の整備についても学習する。

【学習目標】
講義および課題の繰り返し学習である。すべての課題が提出できることを目標とする。

【講義計画】
第１回　１．マルチメディア概論（特徴と利用方法）
　　１）マルチメディアの現在
第２回　２）各マルチメディアとインターネット
第３回　２．ソフトウエアとメディア
第４回　３．表現とメディア（「Microsoft Office 2000」等の利用）
　　１）電子化技術の追求
第５回　２）メディアとしての仮想現実空間
第６回　３）メディアとリアリティ（公共媒体と広告媒体）
第７回　４）図形表現とその演習
第８回　５）画像表現とその演習
第９回　４．環境とメディア
　　１）メディアと環境
第10回　２）メディアと歴史
第11回　３）メディアと倫理（ことばの暴力）
第12回　４）関連法規との関連
第13回　５．まとめ：マルチメディアの意義（演習１）
第14回　６．まとめ：マルチメディアの意義（演習２）
第15回　７．まとめ：マルチメディアの意義

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　85%　出席　15%
出席点は１回１点（MAX15点）とする。明示したようにレポート（課題）提出に重点を置く。

【参考文献】
常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社　2003．４）

ま　行

科目名　クラス　講義区分	
ミクロ経済学　01＜通期＞	
田　中　　悟	4単位

【講義概要】
ミクロ経済学の基礎的な理論の概説を通じて、家計・企業・政府といった経済主体の意思決定や市場メカニズムの機能に関する経済理論について学び、こうした理論が現実にどのように応用できるかについて考える。講義は単に理論の概説だけでなく、身の回りの様々な経済現象が経済理論によっていかにとらえられるかという点を意識しながら進められる。

【学習目標】
本講義ではミクロ経済理論の初級から中級程度の理論について講述する。講義で扱われるミクロ経済理論の習得を通じて、様々な経済現象に対する「経済学的な見方」を養うことが、本講義の目的となる。

【講義計画】
第１回　Introduction（ミクロ経済学の対象と課題）
第２回　市場メカニズムとは何か（需要・供給概念）
第３回　〃　（市場メカニズムの帰結）
第４回　〃　（弾力性の概念）
第５回　〃　（市場メカニズムと政府の政策）
第６回　市場メカニズムの意義（余剰概念）
第７回　〃　（市場の効率性）
第８回　〃　（応用①：課税の効果）
第９回　〃　（応用②：国際貿易と貿易政策）
第10回　〃　（まとめ：市場メカニズムの意義と限界）
第11回　公共経済学の基礎（外部性の効果）
第12回　〃　（外部性に対する公共政策）
第13回　〃　（公共財）
第14回　〃　（公共財供給と公共政策）
第15回　〃　（税制の設計）
第16回　市場構造と企業行動（様々な費用概念）
第17回　〃　（競争市場における企業行動）
第18回　〃　（独占企業の行動とその帰結）
第19回　〃　（ゲームの理論）
第20回　〃　（寡占市場における競争と協調）
第21回　〃　（独占的競争の理論）
第22回　労働市場の経済学（労働需要と労働供給）
第23回　〃　（均衡賃金の決定要素）
第24回　〃　（労働市場と所得の分配）
第25回　情報の経済学（不確実性下の意思決定）
第26回　〃　（モラル・ハザードの問題）
第27回　〃　（レモン市場の問題）
第28回　〃　（シグナリングとスクリーニング）

【成績評価の方法】
授業中に課す数回の宿題ないしは小テスト（30%）と定期試験（中間試験を含む：70%）の結果を総合評価する。

【教科書】
特に指定しないが、授業と並行して下記参考文献を読むことが望ましい。なお、参考文献については授業中に適宜指示する。

【参考文献】

１．マンキュー著・足立/小川/中馬/石川/地主/柳川訳（2005）『マンキュー経済学(１)ミクロ編』（東洋経済新報社）
２．伊藤元重（2003）『ミクロ経済学（第２版）』（日本評論社）
３．ヴァリアン著・佐藤訳（2007）『入門ミクロ経済学』（勁草書房）
４．スティグリッツ著・薮下/秋山/金子/木立/清野訳（2006）『入門経済学』『ミクロ経済学』（東洋経済新報社）

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
ミクロ経済学　02＜春集＞	
矢　根　眞　二	4単位

【講義概要】
テーマは『ビジネス・エコノミクス』で，標準的なミクロ経済学の教科書の内容を順に学習するのではなく，企業戦略やビジネス活動に多用される基本モデルを重点的に学習します。指定教科書にあるような複雑な日本企業と経済の動向を題材に，それを単純な数式やグラフで説明しようとする基本的なミクロモデルの使い方を学習します。

【学習目標】
１自分で指定教科書を事前に読む習慣を身につけることで企業戦略への興味と理解を深め，「日本経済新聞」等のリアルタイムのビジネスと経済動向への感度も高めましょう
２この複雑で多様な現実を単純で少数の基本モデルで理解するという抽象度の高い論理力である「モデル思考」を少しでも修得しましょう

【講義計画】
第１回　１講義概要（講義内容・学習方法・成績評価の特徴と注意点）
　ビジネスをミクロ経済学で捉える本講義の内容は，伝統的な市場と価格に関する「Part A」と，近年のゲームと情報に関連する「Part B」に大別できます。初回は，全体を通じての学習内容や方法の特徴および成績評価の原則等の履修選択に関する基本情報を説明します。
第２回　Part A ビジネス エコノミクス?：Classic 編（市場と価格）
第３回　１a ビジネスエコノミクスとは？（ビジネスと経済学）
第４回　１b 入門経済学の基礎？（インセンティブと費用概念）
第５回　１c 入門経済学の常識？（競争市場の需要供給分析）
第６回　１d 入門経済学の難関？（経済主体の費用便益の限界分析）
第７回　AQ Part A 前半部分の復習 Quiz AQ
第８回　２a 薄利多売か高マージンか？（価格弾力性と独占価格）
第９回　２b 巧妙な一物多価で更に儲ける？（価格差別と二部料金制）
第10回　３a 専売制とテリトリー制？（ブランドと選択的チャネル戦略）
第11回　３b 小売価格のコントロール？（製販統合と二重マージンの解消）
第12回　４a 競争市場の効能？（社会的インフラとしての競争市場）
第13回　４b 競争市場と企業組織？（企業の境界と組織構造）
第14回　AE Part A 全体の総括 Exam AE
第15回　Part B ビジネスと戦略？：Modern 編　（ゲームと情報）
第16回　５a 非対称情報とビジネス？（モラルハザードと逆選択）
第17回　５b ギャンブル　とビジネス？（リスク回避と保険ビジネス）
第18回　６a ゲーム的状況と囚人のジレンマ？（非協力ゲーム入門）
第19回　６b 同時ゲームとビジネス？（完備情報下の静学ゲーム）
第20回　６c 交互ゲームとビジネス？（完全情報下の動学ゲーム）
第21回　６d オークションと繰り返しゲーム？（同時･交互ゲームの現実）
第22回　BQ Part B 前半部分の復習 Quiz BQ
第23回　７a 企業･業界分析のメガネ？（ポーターの競争戦略論入門）
第24回　８a デジタル革命とビジネスチャンス？（代替と補完）
第25回　９a グローバル化するビジネス？（通商政策と為替リスク）
第26回　10a ビジネス環境の変化？（経済の変化とビジネスの今後）
第27回　BE Part A&B 全体の総括 Exam BE
第28回　講義総括（合理的選択モデルからみた講義・学習の評価）

【成績評価の方法】
試験　90%　レポート　０%　出席　10%
●成績評価のベース
　145点満点の２回の試験AEとBEの合計得点（90点）
　２Quizのアンケート記入および出席Checkへの全回参加者（10点）
　３その他の加減項目（授業中の有益な質問，私語・途中入退室等）
●合格基準：60点，ただしいずれかの試験を受験しない場合はX評

価

【教科書】
伊藤元重 ビジネス・エコノミクス 日本経済新聞社
ビジネスパーソン向けでもあり，ミクロ経済学の標準的な教科書に比べると読みやすいはずですから，必ず講義の対応部分を事前に自分で読んで授業に出席する習慣を身につけましょう

【参考文献】
●Part A ビジネスエコノミクス Classic編（市場と価格）
泉田成美・柳川隆（2008）『プラクティカル産業組織論』有斐閣
●Part B ビジネスエコノミクス Modern編（ゲームと情報）
神戸伸輔（2004）『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社

【備考】
講義内容や資料の詳細は開講時の教員サイトを参照して下さい
http://rio.andrew.ac.jp/~yane/class/micr/index.html
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
ミクロ経済学　03＜秋集＞	
竹　歳　一　紀	4単位

【講義概要】
需要と供給、消費者行動と生産者行動、完全競争市場と不完全競争市場、不確実性とリスク、情報の非対称性など、ミクロ経済学の基礎理論について講義する。
ミクロ経済学の進んだ学習には数学的知識が必要となるが、本講義では、数式の使用は簡単なものにとどめ、主に図を用いて説明する。ミクロ経済学の学習は基礎からの積み上げになるので、講義に出席し、内容を確実にフォローしていくことが望まれる。

【学習目標】
①家計（消費者）・企業（生産者）といった経済主体の行動がどのようにモデル化されるか
②それら経済主体の消費や生産が、市場価格を通じてどのように決定されるか
③消費や生産が市場での価格メカニズムを通じて決定されることがなぜ望ましいといえるか
といったミクロ経済学の基本を理解することが目標である。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　ミクロ経済学の考え方
第３回　需要と供給（１）
第４回　需要と供給（２）
第５回　需要と供給（３）
第６回　需要と供給（まとめと演習）
第７回　消費者行動と需要曲線（１）
第８回　消費者行動と需要曲線（２）
第９回　消費者行動と需要曲線（３）
第10回　消費者行動と需要曲線（４）
第11回　消費者行動と需要曲線（５）
第12回　消費者行動と需要曲線（まとめと演習）
第13回　生産者行動と供給曲線（１）
第14回　生産者行動と供給曲線（２）
第15回　生産者行動と供給曲線（３）
第16回　生産者行動と供給曲線（４）
第17回　生産者行動と供給曲線（５）
第18回　生産者行動と供給曲線（まとめと演習）
第19回　市場均衡と経済厚生（１）
第20回　市場均衡と経済厚生（２）
第21回　市場均衡と経済厚生（まとめと演習）
第22回　独占の理論（１）
第23回　独占の理論（２）
第24回　派生需要と生産要素市場
第25回　独占の理論・派生需要と生産要素市場（まとめと演習）
第26回　不確実性と情報（１）
第27回　不確実性と情報（２）
第28回　不確実性と情報（まとめと演習）

【成績評価の方法】
試験　100%
学期末試験の成績による。

【教科書】
特に指定しない。

【参考文献】
神戸・寳多・濱田『ミクロ経済学をつかむ』（有斐閣）
井堀利宏『入門　ミクロ経済学（第２版）』（新世社）
荒井一博『ファンダメンタル　ミクロ経済学（第２版）』（中央経済社）
石川秀樹『経済学入門塾Ⅱ　ミクロ編』（中央経済社）

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

ま行

科目名　クラス　講義区分	
民事執行法　＜秋＞	
本　間　法　之	2単位

【講義概要】
民事執行法とは、簡単に言えば、強制執行の手続を定める法律のことです。民法・商法などの実体法上の権利は、民事訴訟の判決によって観念的に形成（実現）され、強制執行手続によって事実として形成（実現）されることになります。本講義では、この民事執行手続の基礎を概説します。
民事執行法は、「民法・商法→民事訴訟法」に続く民事法の一連の流れの延長線上にあります。本講義を受講する学生諸君には、民法、商法（会社法）、並びに、民事訴訟法、及び倒産処理法（破産法、民事再生法会社更生法）を併せて受講することが望まれます。

【学習目標】
終局的権利実現の手続である民事執行の手続の基礎知識の習得

【講義計画】
第１回　ガイダンス
　　民事執行法の位置づけ
第２回　民事執行制度の意義と基本構造
第３回　執行機関と執行法上の不服申立て
第４回　不動産執行（１）差押え
第５回　不動産執行（２）売却の準備
第６回　不動産執行（３）買受人の法的地位
第７回　不動産執行（４）引渡命令
第８回　不動産執行（５）執行競合・配当要求
第９回　動産執行（１）差押え・換価
第10回　動産執行（２）換価･配当
第11回　債権執行（１）差押え
第12回　債権執行（２）換価･配当
第13回　不当執行・違法執行に対する救済（第三者異議・請求異議）
第14回　非金銭執行（１）引渡・明渡執行
第15回　非金銭執行（２）代替執行，間接強制，意思表示義務

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
定期試験期間中の試験は行なわず、下記の①及び②に基づいて、総合的に評価します。
①受講態度（出席状況、予習・復習状況、講義に対する積極性）（40%）
②試験に代わるレポート（60%）

なお、講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。

【参考文献】
講義中に適宜紹介します。

【備考】
講義では、レジュメを配布します。
講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、「民事執行規則」が掲載されている六法を用意して下さい。

科目名　クラス　講義区分	
民事訴訟法　＜春集＞	
本　間　法　之	4単位

【講義概要】
民事訴訟法の判決手続について概説します。判決手続とは、訴えの提起から審理を経て判決の確定に至るまでの裁判の手続のことです。民事訴訟法に代表される手続法と、民法・商法などの実体法は、しばしば車の両輪に例えられます。実体法上の権利の保障は、その権利の実現の手続がなければ、画に描いた餅にすぎません。この意味で、手続法の学習は必要不可欠であり、「権利実現の鍵となる民事訴訟法を学ぶことによって初めて権利の何たるかが理解できる」といっても過言ではありません。多くの大学の法学部で民事訴訟法が必修科目とされているのはこのためです。
法律学は、実体法・手続法の双方の学習を通じて初めて理解することができるものです。そこで、本講義の受講生には、商法（会社法）、さらに民事執行法および倒産処理法（破産法・民事再生法会社更生法）を併せて受講することが望まれます。「民法・商法→民事訴訟法→民事執行法→倒産処理法」と学んで初めて民事法の全体法が理解できるのです。
【学習目標】
民事手続法の基礎法である民事訴訟法の学習を通じて、手続的思考の基礎を習得し、問題解決能力の育成を図る。
【講義計画】
第１回　民事紛争と民事訴訟
第２回　民事裁判と裁判を受ける権利（手続保障）：裁判権の限界，訴訟と非訟
第３回　現代社会における民事訴訟の課題
第４回　訴訟の開始
第５回　訴訟要件
第６回　審判の対象（その１）
第７回　審判の対象（その２）
第８回　受訴裁判所
第９回　訴訟当事者（その１）
第10回　訴訟当事者（その２）
第11回　訴訟当事者（その３）
第12回　訴訟審理の基本構造（その１）
第13回　訴訟審理の基本構造（その２）
第14回　訴訟審理の基本構造（その３）
第15回　訴訟審理の過程（その１）
第16回　訴訟審理の過程（その２）
第17回　訴訟審理の過程（その３）
第18回　訴訟審理の過程（その４）
第19回　証拠（その１）
第20回　証拠（その２）
第21回　証明責任（その１）
第22回　証明責任（その２）
第23回　証拠調べの手続
第24回　訴訟の終了
第25回　既判力
第26回　執行力と形成力
第27回　複雑な訴訟（その１）
第28回　複雑な訴訟（その２）
第29回　複雑な訴訟（その３）
第30回　裁判に対する不服申立て（上訴制度）
【成績評価の方法】
試験　60%　出席　40%
定期試験期間中の試験は行なわず、下記の①及び②に基づいて、総合的に評価します。
①受講態度（出席状況，予習・復習状況，講義に対する積極性）（40%）
②授業中に適宜実施する試験（最低３回程度を予定）（60%）

なお，講義の妨げとなる者（遅刻・私語etc）に対しては厳格に対処します。
【参考文献】
講義中に、適宜紹介します。
【備考】
講義では、レジュメを配布します。
近年、重要な法改正が相次いでいますので、講義に際しては常に最新版の「六法」を携行して下さい。「六法」の種類は問いませんが、民事訴訟規則が掲載されている六法を携行してください。特に、本講義とあわせて民事執行法や倒産処理法の受講も考えている人は、民事執行規則･民事再生規則･会社更生規則など、参照が必要な規則類が掲載されているものを購入して下さい。

科目名　クラス　講義区分	
民俗学　＜通期＞	
大　野　　啓	4単位

【講義概要】
民俗学は近代に入って生み出された学問であり、伝統を対象とする学問であり、文化を多様な側面から分析している。そこで、本講では民俗学がどのような土壌の上に成立したのかについて検討すし、民俗学が取り上げてきたいくつかのトピックを取り上げ、文化研究として民俗学にはどのような可能性があるのかについて講義を行なう。

【学習目標】
民俗学とはどのような学問であり、具体的にどのような対象を有していたのかについて理解すること。

【講義計画】
第１回　ミンゾクガクとは
第２回　近代社会と民俗学
第３回　伝説と昔話
第４回　伝説の発見と昔話の発掘
第５回　里山と民俗
第６回　人と自然の境界
第７回　民俗的自然観と民俗知
第８回　民俗行事と季節観
第９回　オコナイと民俗文化
第10回　仏教民俗と正月行事
第11回　盆行事と民俗儀礼
第12回　祖先祭祀と盆行事
第13回　先祖祭りと盆の民俗芸能
第14回　正月と盆
第15回　中間のまとめ
第16回　女性の神とケガレ
第17回　民俗社会における女性像
第18回　若者集団と兄弟分
第19回　成人儀礼と若者
第20回　結婚と若者集団
第21回　民俗社会における婚姻と地域社会の特色
第22回　民俗社会と地域性
第23回　宮座と村落社会
第24回　祭祀責任者と祭祀を担うもの
第25回　対内的平等性と対外的閉鎖性
第26回　都市研究と民俗
第27回　都市の流動性
第28回　都市の文化蓄積と民俗
第29回　まとめ
第30回　予備日

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%

【教科書】
八木透（編著）フィールドから学ぶ民俗学―関西の地域と伝承　昭和堂

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅰ（総則）＜秋集＞	
佐　藤　啓　子	4単位

【講義概要】
民法の基本的な知識を履修し、民法の内、第一編「総則」を学ぶ。また、民法入門・法学入門で学んだ民法の学び方についてのガイダンスを引き続き行う。
初回から教科書と六法を持参すること。

なお、講義の進行には若干の前後や入れ替えなどがあるかもしれないことを留保しておく。

【学習目標】
以下の点の習得を目標とする。
　民法ないし財産法の基礎的な概念や基本構造。
　民法第一編「総則」についての知識。
　いわゆる大学レベルの問題に対する初歩的な対応。
　条文を読み使うことのできる『慣れ』。

【講義計画】
第１回　民法の意義・民法の学び方
第２回　民法（典）・法源
第３回　民法の適用範囲・基本原理・解釈
第４回　権利主体・序説
第５回　権利能力・意思能力・行為能力
第６回　制限行為能力
第７回　自然人に対する特別な配慮
第８回　法人の意義・種類
第９回　法人の設立・定款変更・法人の能力
第10回　法人の機関・消滅・監督・外国法人
第11回　権利能力なき社団・財団／物の種類
第12回　物の帰属／法律行為・序説
第13回　法律行為の解釈・効力と強行法規
第14回　法律行為と慣習、公序良俗、心裡留保
第15回　虚偽表示
第16回　錯誤
第17回　詐欺・強迫、消費者契約
第18回　意思表示の効力発生時期
第19回　代理人
第20回　代理権の範囲・代理行為、無権代理
第21回　表見代理
第22回　「要約」欄と「演習」欄を使った演習
第23回　無効
第24回　取消し／条件・期限
第25回　期間／時効・序説
第26回　時効の要件・効果、取得時効しうる権利
第27回　占有、消滅時効
第28回　全体のまとめ

【成績評価の方法】
試験　81%　出席　19%
定期試験68%、小テスト13%、出席19%とする。
（実際には定期試験100点、小テスト20点、出席28点として計算している）
ただし、試験の点数や出席状況が顕著に悪い者は不可とする。

【教科書】
野村　豊弘 民法Ⅰ　序論・民法総則 有斐閣

【参考文献】
参考文献ではなく、六法は必ず持参すること。ただし、デイリー六法（三省堂）、ポケット六法（有斐閣）、セレクト六法（岩波書店）のいずれかならどれでもよい。法学六法（信山社）は不可。
参考文献としては、さらなる学習のために、民法判例百選Ⅰ（有斐閣）などの判例集を読むこと、法学検定試験問題集（４級）などの手ごろな問題集を解いてみることをお勧めする。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

ま　行

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅱ（物権）　＜春集＞	
馬　場　　巌	４単位

【講義概要】
物権法は、暮らしていく上で身近な法律である。できるだけ具体例を示しながら講義をしていきたい。

【学習目標】
物権法の基礎知識の習得を目指す。

【講義計画】
第１回　ガイダンス。
第２回　物権と債権。
第３回　物権法の基礎知識
第４回　物権の効力
第５回　物権変動
第６回　不動産の物権変動（１）
第７回　不動産の物権変動（２）
第８回　不動産の物権変動（３）
第９回　動産の物権変動（１）
第10回　動産の物権変動（２）
第11回　まとめ
　　）
第12回　占有権（１）
第13回　占有権（２）.物権的請求権
第14回　所有権（１）
　　）
第15回　所有権（１）
第16回　所有権（１）
第17回　建物区分所有権（１）
第18回　建物区分所有権（２）
第19回　まとめ
第20回　用益物権概説
第21回　用益物権（１）
第22回　用益物権（２）
第23回　用益物権（３）
第24回　まとめ
第25回　担保物権概説
第26回　担保物権（１）
第27回　担保物権（２）
第28回　担保物権（３）
第29回　担保物権（４）
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％
試験の点数で評価する。

【教科書】
清水・山野目・良永 新・民法学２　物権法 成文堂

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅲ（債権総論）　＜春集＞	
田　中　志津子	４単位

【講義概要】
「権利」とは多様な概念である。ここでは、人の物に対する権利である「物権」と人の人に対する権利である「債権」との相違、その債権の効力を扱う。

【学習目標】
債権総論では、特に「具体的な私人間の法律関係」を想像する力が重要である。
教科書・判例等で挙げられている問題・事例を「自分の言葉で具体的に例を挙げられる」ようにする。

【講義計画】
第１回　受講時の注意、民法における債権総論の位置付け、債権の意義
第２回　債権の意義・法的性質、債権の目的、債権の種類（１）
第３回　債権の種類（２）
第４回　債権の効力（序説）、現実履行の強制
第５回　債務不履行（１）　履行遅滞
第６回　債務不履行（２）　履行不能
第７回　債務不履行（３）　不完全履行
第８回　債務不履行（４）　損害賠償の範囲①
第９回　債務不履行（５）　損害賠償の範囲②
第10回　債権者代位権（１）
第11回　債権者代位権（２）
第12回　債権者代位権（３）　債権者代位権の転用
第13回　詐害行為取消権（１）
第14回　詐害行為取消権（２）
第15回　第三者による債権侵害
第16回　多数当事者の債権債務関係（１）　可分債務・不可分債務
第17回　多数当事者の債権債務関係（２）　連帯債務①
第18回　多数当事者の債権債務関係（３）　連帯債務②
第19回　多数当事者の債権債務関係（４）　連帯債務③
第20回　多数当事者の債権債務関係（５）　保証債務①
第21回　多数当事者の債権債務関係（６）　保証債務②
第22回　債権譲渡（１）
第23回　債権譲渡（２）
第24回　債権譲渡（３）
第25回　債務引受
第26回　債権の消滅（１）　弁済・代物弁済
第27回　債権の消滅（２）　供託、相殺
第28回　債権の消滅（３）　更改、免除、混同
第29回　総まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　80％　レポート　０％　出席　20％
期末試験を約80％とし、適宜小テストも行う。小テストの点数は出席点（約20％）として考慮する。

【教科書】
野村 豊弘，池田 真朗，栗田 哲男，永田 真三郎 民法（３）債権総論 有斐閣Sシリーズ 有斐閣
基本的にこの本をテキストとして授業を進めるが、この本「だけ」ではなく、他の「基本書」と呼ばれる本を読むことを勧める。
詳細は授業開始時に説明する。

【参考文献】
*以下のものを全部購入せよというのではない。詳細は講義開始時に説明する。

・「民法判例集 担保物権・債権総論（第２版）」瀬川 信久，森田 宏樹，内田 貴、ISBN:4641133506
・「民法判例百選Ⅱ 債権 第６版」（別冊ジュリスト）

【備考】
授業計画は変更することがある。
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅳ（債権各論）　＜秋集＞	
田　中　志津子	４単位

【講義概要】
日常生活の中で、実は一番身近な「民法」である「契約」を中心に取り扱う（コンビニで「弁当を買う」という法律関係など）。
また、交通事故に遭った場合に被害者が加害者に治療費を請求できるという、契約関係がないにもかかわらず認められる法的関係をも扱う。

【学習目標】
私人間の法律関係では、本来何か「問題」が生じなければ、法律（ここでは民法）の出番はない（はず）である。
その「問題」を生じさせないために、また、生じてしまった問題を解決するために、必要な方策を学ぶ。

【講義計画】
第１回　受講時の注意、民法における債権各論の位置付け、契約の成立（１）
第２回　契約の成立（２）
第３回　双務契約の牽連関係（１）　同時履行の抗弁権、危険負担①
第４回　双務契約の牽連関係（２）　危険負担②
第５回　双務契約の牽連関係（３）　危険負担③
第６回　双務契約の牽連関係（４）　解除権①
第７回　双務契約の牽連関係（５）　解除権②
第８回　贈与契約、交換契約
第９回　売買契約（１）
第10回　売買契約（２）
第11回　売買契約（３）
第12回　使用貸借契約、消費貸借契約
第13回　賃貸借契約（１）
第14回　賃貸借契約（２）
第15回　賃貸借契約（３）
第16回　賃貸借契約（４）　借地借家法
第17回　雇用契約
第18回　請負契約（１）
第19回　請負契約（２）
第20回　委任契約
第21回　組合契約、終身定期金契約、和解契約
第22回　事務管理・準事務管理
第23回　不当利得（１）
第24回　不当利得（２）
第25回　不法行為（１）
第26回　不法行為（２）
第27回　不法行為（３）
第28回　不法行為（４）
第29回　総まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　80％　レポート　０％　出席　20％
期末試験を約80％とし、適宜小テストも行う。小テストの点数は出席点（約20％）として考慮する。

【教科書】
民法Ⅳ　債権各論　第３版補訂版　有斐閣Sシリーズ 有斐閣
2009年４月発刊予定。

【参考文献】
*以下のものを全部購入せよというのではない。詳細は講義開始時に説明する。

・「民法判例集債権各論　第３版」瀬川　信久、内田　貴、有斐閣、ISBN:4641134952
・民法判例百選Ⅱ（第６版）、有斐閣

【備考】
授業計画は変更することがある。
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
民法Ⅴ（親族・相続）　＜秋集＞	
永　水　裕　子	４単位

【講義概要】
この講義では、家族関係をめぐる紛争が生じた場合に、解決の基準となる民法第４編「親族」、第５編「相続」および関連諸法（家事審判法等）を取り上げる。これら諸法のしくみを把握するだけでなく、生殖補助医療（死後受精や代理懐胎）により出生した子の法的地位やいわゆる300日問題等の現代的問題をも取り扱うことで、家族と社会と法とのかかわりを理解してもらうよう努める。また、判例紹介を常に行うことにより、裁判における条文解釈の展開を学ぶ。

【学習目標】
この講義では、皆さんの基本的な身分関係（親子関係や夫婦関係等）に関する制度、家族関係をめぐる紛争が起きた場合に、どのような法解釈をし、解決がなされてきたのかについて勉強していきます。ですので、なぜそのような制度が存在するのか、その制度の理念から考えると、どのような紛争解決を図ることが妥当だろうかということに常に気を配りましょう。自分がその立場にいるならばという視点で勉強し、紛争解決に向けた論理的思考および妥当な解決策を探求するという姿勢を見につけることを学習目標といたします。

【講義計画】
第１回　序説
第２回　家事事件処理の手続
第３回　氏名と戸籍、親族
第４回　婚姻１（婚姻の成立及び無効・取消し）
第５回　婚姻２（婚姻の一般的効力）
第６回　婚姻３（夫婦財産制１）
第７回　婚姻４（夫婦財産制２）、婚姻の解消
第８回　裁判離婚１（770条１項１号から４号）
第９回　裁判離婚２（770条１項５号）
第10回　婚姻解消の効果１（財産分与）
第11回　婚姻解消の効果２（子の監護と親権）
第12回　婚姻外の関係（内縁等）
第13回　親子１（嫡出推定制度）
第14回　親子２（認知制度）
第15回　親子３（生殖補助医療をめぐる問題）
第16回　親子４（養子法の沿革、養子縁組の成立）
第17回　親子５（養子縁組の無効・取消し、離縁）
第18回　親子６（特別養子縁組）
第19回　親権
第20回　後見・保佐・補助、扶養
第21回　相続法の基礎
第22回　相続人と相続分
第23回　相続の効力１（相続の一般的効果）
第24回　相続の効力２（遺産の共有）
第25回　相続の効力３（遺産分割）
第26回　相続の承認・放棄
第27回　遺言
第28回　遺留分
第29回　まとめ
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　95％　レポート　０％　出席　５％

【教科書】
高橋朋子・床谷文雄・棚村政行 民法７親族・相続（第２版）有斐閣

六法

【参考文献】
久貴忠彦・米倉明・水野紀子編　『家族法判例百選（第７版）』（有斐閣）

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
民法Ａ　＜通期＞	
徳　野　　剛	４単位

【講義概要】
民法に於ける法律用語、基礎知識を習得し、具体的事例、判例なども用いながら講義を進めていく。関連事項、必要に応じて、物権、債権、家族法にも触れることもある。「総則」の中心である意思表示、法律行為などは特に重要であり、この点にも考慮してやっていきたい。

【学習目標】
民法は、人が社会生活をしていくうえで重要な法律である。民法の基本的な知識を修得し、民法の内、第一編「総則」を学習する。基礎用語、民法の体系なども把握し講義する。

【講義計画】
第１回　序
第２回　民法の意義
第３回　民法の基本原則
第４回　民法の体系
第５回　民法の原理と現代的修正―公共の福祉、信義則、権利濫用、自力救済
第６回　権利の主体―自然人
第７回　私権の享有―権利能力
第８回　能力―意思能力、行為能力
第９回　成年後見制度
第10回　住所と居所
第11回　不在者の財産管理と失踪宣告
第12回　同時死亡の推定
第13回　法人
第14回　物―意義と分類
第15回　法律行為―序
第16回　法律行為と意思表示
第17回　意思表示―序
第18回　心理留保
第19回　虚偽表示
第20回　錯誤
第21回　瑕疵ある意思表示
第22回　代理の意義
第23回　無権代理
第24回　表見代理
第25回　無効
第26回　取消
第27回　条件、期限、期間
第28回　時効
第29回　時効と除斥期間
第30回　判例

【成績評価の方法】
出席と授業中の態度などを考慮し、期末の筆記試験によって評価する。

【教科書】
半田正夫 やさしい民法総則 法学書院

【参考文献】
伊藤進編「ホーンブック民法Ｉ」民法総則　北樹出版
最近六法（出版社は問わない）

【備考】
講義には、その流れがあるので、できるだけ多く出席願いたい。その際六法全書（最近版）持参のこと。

科目名　クラス　講義区分	
民法Ｂ　＜通期＞	
徳　野　　剛	４単位

【講義概要】
物権の意義・本質から始めていく。物権の種類は民法その他の法律で定められているもの以外は作出できないことに言及する。その後、担保物権に進んでいく。以上のようなところを考慮し、事例、判例なども採用して講義を進める。

【学習目標】
民法の内、第二編「物権」を学習する。物権法定主義、物権の変動、公示の原則を述べる。担保物権についても講義を進めていく。

【講義計画】
第１回　物権法総論
第２回　物権の意義、本質
第３回　物権的請求権
第４回　物権の変動
第５回　不動産登記と177条
第６回　物権の引渡
第７回　所有権
第８回　所有権の内容と効力
第９回　相隣関係
第10回　共有
第11回　区分所有
第12回　不動産登記法概説
第13回　地上権
第14回　地上権と土地貸借権
第15回　永小作権
第16回　地役権
第17回　入会権
第18回　占有権
第19回　占有権の取得と効力
第20回　準占有
第21回　抵当権
第22回　抵当権序説
第23回　抵当権の効力と侵害
第24回　法定地上権
第25回　滌除
第26回　質権
第27回　動産質と不動質
第28回　根抵当
第29回　譲渡担保
第30回　仮登記担保

【成績評価の方法】
出席と授業中の態度などを考慮し、期末の筆記試験によって評価する。

【教科書】
永田、杉本、松岡、中田、横田　共著　物権　エッセンシャル民法２　有斐閣ブックス

【参考文献】
伊藤進編〔改訂版〕「ホーンブックス民法Ⅱ　物権法」　北樹出版
最近の六法（出版社は問わない）

【備考】
講義には、その流れがあるので、できるだけ多く出席願いたい。その際六法全書（最近版）持参のこと。

科目名　クラス　講義区分	
民法入門　＜春＞	
永　水　裕　子	2単位

【講義概要】
民法は私法の一般法であり、一般市民にとって一番身近にある存在です。この講義においては、民法の基本的知識を身につけてもらうことを目的とするため、具体的な事件を例として出しながら、なるべく簡単な言葉で説明をし、民法を学習するというわくわくする体験を味わって頂けるように努力します。民法全体を教科書の順番に沿って講義していきます。

【学習目標】
秋学期から始まる民法の専門科目をスムーズに受けることができるための基礎的知識および基本的な学習態度を身につけることを学習目標といたします。

【講義計画】
第１回　ガイダンス－民法の特徴と民法学習について
第２回　民法総則１
第３回　民法総則２
第４回　民法総則３
第５回　物権法（１）－総論
第６回　債権法（１）－契約法１
第７回　債権法（１）－契約法２
第８回　債権法（２）－不法行為法１
第９回　債権法（２）－不法行為法２
第10回　債権法（３）－債権総論１
第11回　債権法（３）－債権総論２
第12回　物権法（２）－担保物権
第13回　親族法
第14回　相続法
第15回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　90%　出席　10%

【教科書】
池田真朗 民法への招待〔第三版補訂〕税務経理協会
六法

【備考】
〔09Ｊ生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
メディア英語　＜通期＞	
沖　野　泰　子	4単位

【講義概要】
様々な媒体を通して行われる大衆への大量的な情報伝達がマス・コミュニケーションであり、その媒体としては新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、映画などが挙げられる。近年ではここにインターネットを加えるべきであろう。つまりメディア英語を学ぶことは、日常生活に使われるあらゆる英語を学ぶことに他ならない。この講義では、映画やニュース、インターネットを使って、教材用に編集されたものではなく、実際に使われている英語を体験する。最終的には英語は情報を得るためのツールなので、このツールを使って、現在世界でどんなことが起こっているのかを考えていきたい。
前期は映画Music of the Heart、後期はCNNを題材にしたテキストを使用する

【学習目標】
各人の持つ英語のレベルを一つステップアップする。
自分を取り巻く世界と自己を考えるきっかけを探る。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　Unit 1　ロベルタ実家に戻る
第３回　Unit 2　職探しに奮闘
第４回　Unit 3　NYでの再スタート
第５回　Unit 4　心で立つのよ　小テスト
第６回　Unit 5　僕らは先生好きだよ
第７回　Unit 6　家族はどうなる？
第８回　Unit 7　初めてのコンサート
第９回　Unit 8　11年目のクラス　小テスト
第10回　Unit 9　新しい出会い
第11回　Unit 10　まさか、職がなくなる？
第12回　Unit 11　コンサート開催がピンチ！
第13回　Unit 12　さあ、チャリティー・コンサート
第14回　Review　小テスト
第15回　ニュース英語について
第16回　報道　メディアの役割　Lesson 7
第17回　政治　ロシア大統領選挙vs.アメリカ大統領選挙
第18回　アメリカ大統領選挙　Lesson 12
第19回　経済　自動車産業におけるアジアン・パワー　Ｌ４
第20回　国際情勢　中東　石油より水？ Lesson 1　小テスト
第21回　ガザ地区(語られざる中東)　Lesson 10
第22回　中国　チベット問題(人権問題)　Ｌ５
第23回　ハッカーにご用心(ネットセイフティー)　Ｌ３
第24回　科学技術　スピード通勤のためのネット　Ｌ６　小テスト
第25回　クリスマスのライトにご用心　Ｌ11
第26回　医療　デコーディングDNAって？
第27回　人物　仏サルコジ大統領の妻は？
第28回　自然環境　エルニーニョ？いいえ、ラニーニャ　Ｌ２　小テスト

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
試験は学期末の試験ではなく、小テストを指します。
前期、後期の小テスト日程については授業中に改めて指示します。
一週おきに提出する課題の評価がレポートの評価にあてはまります。

【教科書】
沖野、南條、森岡、山科、横山 ミュージック・オブ・ハート 英宝社
関西大学英語教育委員会 CNNビデオで見る世界のニュース（10）朝日出版社

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
メディアと芸術表現－映像ができることと、できないこと＜秋集＞	
藤　森　かよ子	4単位

【講義概要】

★芸術というものは、あってもなくてもかまいません。究極的には暇つぶしでしかありません。基本的には人間は食べて飲んで住むところがあって着るものがあれば、生存できます。食べ物が素晴らしい料理である必要もないし、衣服が素敵なデザインである必要もありません。住宅は安全なネグラであればいいのです。しかし、人類は美しいもの素敵なものを求めて、いろいろなものを作り上げてきました。余分なのに。過剰なのに。地球上では、人間と他の生物の違いには、いろいろありますが、人間が芸術活動するということは、大きな違いです。

★現代では、その芸術表現に、映像などのメディアが加わりました。この講義では、芸術は現実をどのように表現してきたかを考察し、また人間の現実認識を、どのように変えてきたかを考察します。20世紀が開拓した新しい表現法＝映像メディアの可能性を、映画やアニメを利用して考察します。同時に、映画やアニメでは、できないことについても考察します。

★最終的には、芸術という過剰で無駄なものを、人間がなぜ必要とするのまで、考察したいと思います。

【学習目標】

★多くの映像作品を鑑賞することにより、以下のことを見定めます。

(1)映像というメディアでなくては表現できないもの
(2)わざわざ映像というメディアを使用しなくても表現できること
(3)映像では表現できないこと
(4)このように表現されたことが、私たちの現実認識に、どのような変化を与えうるか？映像は、いかに私たちの認識を変えうるか？

★単に映像作品を見ていればいい暇で気楽な講義だと予測しないほうが安全です。

★この講義は、芸術という、基本的には存在しなくても存在しても、どっちでもいいようなものを対象にするので、実用的な方には不向きです。即戦的な講義を期待する方にとっては、時間の無駄ですので、受講はお薦めいたしません。

★具体的にどんな作品を鑑賞するかは、お楽しみ！

【講義計画】

第１回　講義内容の概要と受講生が留意すべきことの確認/映像が表現した「人間とは何か？」（１）
第２回　映像が表現した「人間とは何か？」（２）
第３回　映像が表現した「人間とは何か？」（３）
第４回　映像が表現した「人間とは何か？」（４）
第５回　映像が表現した「人間とは何か？」（５）
第６回　映像が表現した「人間の絆---友情編」（１）
第７回　映像が表現した「人間の絆---友情編」（２）
第８回　映像が表現した「人間の絆---友情編」（３）
第９回　映像が表現した「人間の絆---家族編」（１）
第10回　映像が表現した「人間の絆---家族編」（２）
第11回　映像が表現した「人間の絆---恋愛編」（１）
第12回　映像が表現した「人間の絆---恋愛編」（２）
第13回　映像が表現した「人間集団のありよう---政治とは何か」（１）
第14回　映像が表現した「人間集団のありよう---政治とは何か」（２）
第15回　映像が表現した「人間集団のありよう---政治とは何か」（３）
第16回　映像が表現した「人間集団のありよう---政治とは何か」（４）
第17回　映像が表現した「人間集団のありよう---政治とは何か」（５）
第18回　映像が表現した「人間集団のありよう---政治とは何か」（６）
第19回　映像が表現した「人間と自然」（１）
第20回　映像が表現した「人間と自然」（２）
第21回　映像が表現した「人間と自然」（３）
第22回　映像が表現した「人間と戦争」（１）
第23回　映像が表現した「人間と戦争」（２）
第24回　映像が表現した「人間と戦争」（３）
第25回　映像が表現した「人間と歴史」（１）
第26回　映像が表現した「人間と歴史」（２）
第27回　映像が表現した「人間と歴史」（３）
第28回　まとめ
第29回　まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】

試験　40%　レポート　30%　出席　30%
レポートというのは、毎回の講義の終りに記述するコメントペーパーのことです。短時間に、自分のコメントを整理して書く練習になります。これは出席票でもあります。コメントペーパーに、ふざけた「講義内容以外のこと」を記述すると、減点対象になるかもしれません。

【教科書】

テキストは使用しません。担当者の作成したハンドアウトを使用します。

【参考文献】

講義中に、適宜、お知らせします。

【備考】

〔08L生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
メディア文化特論－映像制作の現場から　＜春＞	
鈴　木　隆　史	2単位

【講義概要】
本授業では映像制作、とりわけドキュメンタリーについて、企画から制作にいたるまでのプロセスを紹介しながら映像制作の現場の面白さを知る。映像を制作する側が何を伝えようとしているのか、いくつかのドキュメンタリー作品を鑑賞し、考える。映像は観るだけでなく、「読む」ものでもある。画面に映る映像だけでなく、インタビュー相手の表情や話す内容から何を我々は読み解くことができるのか。映像を鑑賞するだけでなく、映像を読み考える授業にしたい。

【学習目標】
ドキュメンタリー映像はどのようにして作られるのか。その制作過程と可能性について学ぶと同時に、様々なドキュメンタリー映像を鑑賞し、映像を読み解く力をつける。

【講義計画】
第１回　危機に直面するメディア　報道規制と自主規制
第２回　メディアの社会的責任　何を伝えるのか？
第３回　ルポルタージュとドキュメンタリー　１
第４回　ルポルタージュとドキュメンタリー　２
第５回　ドキュメンタリーの持つ力
第６回　ドキュメンタリー制作の現場　１
第７回　ドキュメンタリー制作の現場　２
第８回　ドキュメンタリー制作の現場　３
第９回　ドキュメンタリー制作の現場　４
第10回　ドキュメンタリー作品を「読む」１
第11回　ドキュメンタリー作品を「読む」２
第12回　ドキュメンタリー作品を「読む」３
第13回　ドキュメンタリー作品を「読む」４
第14回　ドキュメンタリーは社会を変えるか？
第15回　レポート作成

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
毎回の講義についての簡単なレポートの提出と最終講義日におけるレポート作成によって評価する。自分の言葉で考えて書くこと

【参考文献】
森達也『ドキュメンタリーは嘘をつく』草思社、2005年３月22日。ISBN 4794213891
今野勉『テレビの嘘を見破る』新潮社、2004年10月。ISBN 4106100886
森達也、森巣博『ご臨終メディア』、集英社新書、2005年10月。ISBN408720314X
鎌仲ひとみ、金　聖雄、海南友子『ドキュメンタリーの力』子供の未来社、2005年３月。ISBN4901330527

【備考】
〔08L生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
メディア文化特論－戦争と映画／アニメーション　＜秋集＞	
佐　野　明　子	4単位

【講義概要】
映画／アニメーションは、経済、政治、文化などさまざまな社会的背景と関わりあってうみだされます。なかでも「戦争」は、映画／アニメーションにどのように働きかけるのでしょうか。本講義では、戦争を題材にする作品だけでなく、一見戦争に無関係なものも含めて、映画／アニメーションと戦争の相関関係をみていきます。前半はアニメーション、後半は劇映画をおもにとりあげます。

【学習目標】
映像テクストに表象として現れるものだけではなく、映画／アニメーションのメディアの特性に注目して映像分析を行います。ストーリーを追うのではなく、映像そのものに目を向けて、何かを”発見”しようとする積極的な姿勢が大切です。映像を多角的な視点から分析し、自分の言葉で表現する力を身につけましょう。

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　アメリカ：ディズニーとWWⅡ
第３回　ドイツ：ナチスのアニメーション政策
第４回　日本(１)大藤信郎
第５回　日本(２)狸のイメージ
第６回　日本(３)影絵アニメーション
第７回　日本(４)桃太郎のイメージ
第８回　日本(５)瀬尾光世
第９回　日本(６)中国アニメーション『鉄扇公主』の受容
第10回　日本(７)女性のイメージ
第11回　東西冷戦とアニメーション(１)
第12回　東西冷戦とアニメーション(２)
第13回　旧共産圏のアニメーション(１)
第14回　旧共産圏のアニメーション(２)
第15回　旧共産圏のアニメーション(３)
第16回　旧共産圏のアニメーション(４)
第17回　中間試験
第18回　亡命映画とは何か(１)
第19回　亡命映画とは何か(２)
第20回　銃後のイメージ(１)
第21回　銃後のイメージ(２)
第22回　兵隊のイメージ(１)
第23回　兵隊のイメージ(２)
第24回　戦艦大和のイメージ(１)
第25回　戦艦大和のイメージ(２)
第26回　核のイメージ(１)
第27回　核のイメージ(２)
第28回　核のイメージ(３)
第29回　核のイメージ(４)
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
出席、授業内レポート、中間試験、期末試験から総合的に評価する。

【教科書】
プリントを配布する。

【参考文献】
『帝国の銀幕　十五年戦争と日本映画』ピーター B.ハーイ　名古屋大学出版会　1995
『戦時下の日本映画　人々は国策映画を観たか』古川隆久　吉川弘文館　2003
『ヒバクシャ・シネマ　日本映画における広島・長崎と核のイメージ』ミック・ブロデリック編　現代書館　1999
『映画視線のポリティクス　古典的ハリウッド映画の戦い』加藤幹郎　筑摩書房　1996
『日本アニメーション映画史』山口且訓，渡辺泰　有文社　1977
『漫画映画論』今村太平　岩波書店　1992
『ミッキー・マウス　ディズニーとドイツ』カルステン・ラクヴァ　現代思潮新社　2002
『戦争と映画　知覚の兵站術』ポール・ヴィリリオ　平凡社　1999

【備考】
〔08L生〕のみ履修可

ま　行

科目名　クラス　講義区分	
メディア文化特論－プロデュース学概論　＜秋＞	
川　田　隆　雄	２単位

【講義概要】
最近、○○プロデューサーという肩書きを持つ人の名刺を受け取ることがあります。エンターテイメントプロデューサーはもちろんのこと、都市開発プロデューサー、ウエディングプロデューサー、宇宙基地開発プロデューサーなど様々です。プロデューサーという言葉は映画産業といった特定の分野で使われる職業的機能を指すものでなく、あらゆる産業で使われる言葉になっています。言葉が浮遊し、はっきりと定義できるものではりませんが、実体の職能として存在し、社会からの強い要請があって、多様なプロデューサーが出現してきていることは確かです。この授業ではプロデューサーを「過去において誰もやったことのないことを思いつき、何とか実現する人」と定義します。
　過去において自分の思いつき実現することが出来る人は、富や権力のある特殊な人たちでした。この特殊な人たちは王様のような人と言い換えてもよいでしょう。王様は自分の持つ財力、権力、軍事力などを使って、お城を造営したり、戦争を行ったり、レオナル・ド・ダビンチのような人物のパトロンになって、舞台芸術をプロデュースすることも出来ました。我々はこのような人物を「王様Ｐ」と呼んでいます。現代ではこのような王様Ｐは少なくなり、「現代Ｐ」が登場してきています。現代Ｐは王様Ｐのように、自分の富や権力を使うことなく、自らの思いつきを実現していきます。現代Ｐはプロデュースの価値や大義名分を社会に対して説き、また、その完成を約束することで必要な資源を手入れます。例えば、新しい映画の構想を思いついたとすれば、社会にそれが受け入れられることを説き、そして自分には最高の映画がプロデュース出来ることを主張して任されることになります。つまり、現代Ｐは社会化を約束することで、自分の思いつきが実現出来ると言えます。この現代Ｐの構図から考えると、現代では方法をしっかり考えれば、だれでもプロデューサーになるチャンスがある時代とも言えます。
　このようなプロデュースが誰でも出来るチャンスの時代をふまえ、この授業ではプロデューサーとう職業的機能の発展経緯を概説した後、プロデュースプロセスの実践的な学習を行います。

【学習目標】
この授業では、エンターテイメント産業をから発生してきた、プロデュースのプロセスを概観し、プロデューサーの持つ共通ノウハウと個別ノウハウを学んだ後、自分たちでプロデュースの設計図がかけるようになることを目指します。

【講義計画】
第１回　プロデュース学概論のガイダンス１
第２回　思いつきを育む１
第３回　思いつきを育む２
第４回　思いつきを構想に導く
第５回　他人が分かるストーリーを作る
第６回　他人を説得するためのストーリーテリング
第７回　プロデュースを成功させるための設計図を作る
第８回　プロデュースに必要なキャスティングを行う
第９回　リスクを回避するためのシミレーションを行う
第10回　プロジェクトの実行管理
第11回　プロデュースの成果を世の中に普及させる
第12回　実際にプロデュースプロジェクトの設計を行う
第13回　発表会
第14回　発表会
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
授業への参加度、提出物、最終の試験を総合して評価を行う。

【備考】
〔08L生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
メディアリテラシー入門　01＜春＞	
境　　真理子	２単位

【講義概要】
　メディアリテラシーとは、私たちの生活を取りまくメディアを読み解き、使いこなし、表現する複合的な能力の事です。今日の社会では、さまざまな情報がメディアを介して奔流のように流れ込んできますが、一方で私たちは情報を無自覚に受けいれていないでしょうか。その質を見分け、判断し、選択し、表現しているでしょうか。授業はこの問いから出発し、膨大な情報があふれる社会の迷路を克服するための基礎的な知識を学びます。

【学習目標】
私たちの暮らしが、テレビなどマス・メディアからの情報に取り巻かれ、大きな影響を受けていることに気づくことが出発点です。そして、さまざまなメディアに着目するなかから、他者を理解し、豊かで創造的な社会のあり方を考える力、いわば、媒体素養の力を養います。

【講義計画】
第１回　私とメディアリテラシー：全体オリエンテーションと解説
第２回　私のメディアマップ：身の回りのメディアと自分の位置を確認する
第３回　私に身近なメディア：放送がもつメッセージと影響力を知る
第４回　私のメディアヒストリー：メディアの歴史を学ぶ
第５回　私のメディア生活１：自分と情報の関係を分析・理解する
第６回　私のメディア生活２：情報を受けとる自分を対象化する
第７回　私が好きなメディア：好きなメディア、嫌いなメディアの特徴と仕組みを知る
第８回　私が使うメディア：よく利用するメディアの種類と生産の仕組みを知る
第９回　私が作るメディア：主体的な情報収集と作る意図、創造的な表現を考える
第10回　私が送るメディア：発信する責任を考える
第11回　メィアでつながる：メディアを通してコミュニケーションを生みだす
第12回　メディアで遊ぶ：携帯電話を使ったワークショップ実践
第13回　メディアを選ぶ：取材ゲームを通した実践
第14回　メディアを考える、振り返りとまとめ

【成績評価の方法】
試験　55%　レポート　25%　出席　20%
出席、リアクションシート、及び期末試験による評価

【参考文献】
水越伸編「メディアリテラシーの道具箱」（東大出版会2005）

【備考】
教科書は指定しないが、必要な資料はその都度、配布される。
授業の一部に、グループ作業やワークショップの手法が取り入れられる。
今日的で、ジャーナリスティックなメディアの話題はその都度、内容に反映させていく。
＜08～09生＞のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
メディアリテラシー入門　02＜秋＞	
境　　真理子	2単位

【講義概要】
メディアリテラシーとは、私たちの生活を取りまくメディアを読み解き、使いこなし、表現する複合的な能力の事です。今日の社会では、さまざまな情報がメディアを介して奔流のように流れ込んできますが、一方で私たちは情報を無自覚に受けいれていないでしょうか。その質を見分け、判断し、選択し、表現しているでしょうか。授業はこの問いから出発し、膨大な情報があふれる社会の迷路を克服するための基礎的な知識を学びます。

【学習目標】
私たちの暮らしが、テレビなどマス・メディアからの情報に取り巻かれ、大きな影響を受けていることに気づくことが出発点です。そして、さまざまなメディアに着目するなかから、他者を理解し、豊かで創造的な社会のあり方を考える力、いわば、媒体素養の力を養います。

【講義計画】
第１回　私とメディアリテラシー：全体オリエンテーションと解説
第２回　私のメディアマップ：身の回りのメディアと自分の位置を確認する
第３回　私に身近なメディア：放送がもつメッセージと影響力を知る
第４回　私のメディアヒストリー：メディアの歴史を学ぶ
第５回　私のメディア生活１：自分と情報の関係を分析・理解する
第６回　私のメディア生活２：情報を受けとる自分を対象化する
第７回　私が好きなメディア：好きなメディア、嫌いなメディアの特徴と仕組みを知る
第８回　私が使うメディア：よく利用するメディアの種類と生産の仕組みを知る
第９回　私が作るメディア：主体的な情報収集と作る意図、創造的な表現を考える
第10回　私が送るメディア：発信する責任を考える
第11回　メィアでつながる：メディアを通してコミュニケーションを生みだす
第12回　メディアで遊ぶ：携帯電話を使ったワークショップ実践
第13回　メディアを選ぶ：取材ゲームを通した実践
第14回　メディアを考える、振り返りとまとめ

【成績評価の方法】
試験　55%　レポート　25%　出席　20%
出席、リアクションシート、及び期末試験による評価

【参考文献】
水越伸編「メディアリテラシーの道具箱」（東大出版会2005）

【備考】
教科書は指定しないが、必要な資料はその都度、配布される。
授業の一部に、グループ作業やワークショップの手法が取り入れられる。
今日的で、ジャーナリスティックなメディアの話題はその都度、内容に反映させていく。
＜08～09生＞のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
メディアリテラシー論　＜秋集＞	
境　　真理子	4単位

【講義概要】
私たちはさまざまなメディアに囲まれ、身近になった情報機器を操作し、あまり意識せずに、メディアに触れる、見る、使う、作る、楽しむ生活をしている。一方で膨大な量の情報に戸惑うことはないだろうか。授業では私たちが無意識のうちに接しているメディアについて、その文化的、歴史的、社会的な特性を問いなおす。メディア社会をより豊かに生きるために、学際的、領域横断的な内容で、情報社会を生きるための基礎体力となるよう設計される。講義は大きくは三期に分かれ、一期はメディア・リテラシーに関する基礎論からなる。二期は「デザインの応用」で、アイデアやテーマの発見と発展、三期は「実践」編で、主に企画と表現の力をみがく。

【学習目標】
情報の側面から社会と人間を深く理解することを目指す。メディアがあふれる情報社会の中で、メディアの選び方や接し方、使い方を理解し、応用力のある「知」へ発展させる。さらに、さまざまなメディアを表現のツールとして使いこなすことを学びながら、創造力や表現能力を伸ばす。

【講義計画】
第１回　オリエンテーションと概論
第２回　メディア・リテラシー活動と社会
第３回　今日的課題１：メディア・リテラシーと内外の情報教育
第４回　今日的課題２：メディア・リテラシーの世代間格差
第５回　今日的課題３：幼児、子供とメディア・リテラシー
第６回　今日的課題４：ジャーナリズムとの協働
第７回　今日的課題５：理論と実践の担い手たち
第８回　新聞とNIE活動、マスメディアの課題
第９回　放送とメディア・リテラシー番組
第10回　放送メディア：放送の「送り手」と「受け手」新しい関係の模索
第11回　活字メディア：変化と行方
第12回　展示メディア：ミュージアムなど公共空間の情報デザイン
第13回　インターネットメディア：激変する環境
第14回　メディア情報の受容と発信、倫理
第15回　振り返りと総合ディスカッション
第16回　高度情報化社会とリテラシー１：デジタル環境がもたらす変化
第17回　高度情報化社会とリテラシー２：情報格差とオータナティブ・メディア
第18回　高度情報化社会とリテラシー３：市民社会と草の根メディアの課題
第19回　映像作品を企画する
第20回　撮るためのリテラシー、ビデオカメラと映像特性
第21回　編集する、まとめるためのリテラシー
第22回　マルチモダリティと表現
第23回　メディアで発表する
第24回　対象を意識する
第25回　責任と影響を考える
第26回　ネットと映像１、you tubeの現在
第27回　デジタル時代の知的財産権と共有
第28回　総合ディスカッション

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　50%
試験と小レポートで評価する。

【教科書】
東京大学情報学環メルプロジェクト・日本民間放送連盟編「メディアリテラシーの道具箱　テレビを見る・作る・読む」東京大学出版会2005年

【参考文献】
「メディア・リテラシー　マスメディアを読み解く」カナダ・オンタリオ州教育省編　リベルタ出版　1992年
「メディア・リテラシーの方法」シルバーブラッド著　リベルタ出版　2001年
「クリエイティブコモンズ」ローレンス・レッシグ著　NTT出版　2005年
「メディア・リテラシー教育　学びと現代文化」バッキンガム著　世界思想社　2006年

【備考】
〔08L生〕のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
文字・表記論　＜秋＞	
藤　原　　健	２単位

【講義概要】
言語は、音声を媒体とした音声言語と、文字を媒体とした文字言語とに大別できる。この講義では、これらのうち後者の媒体となっている文字について、日本語の場合はどうなっているのか、内閣告示された基準をもとに考えていく。
また、漢字、仮名（平仮名、片仮名）の成り立ちも紹介する。

【学習目標】
日本語の表記に用いられる文字は数も種類も多く、また使いかたが複雑である。例えば、平仮名ひとつとっても、「こんにちわ／こんにちは」「そのとうり／そのとおり」「ぬのじ／ぬのぢ」のどちらの表記が正しいか、自信を持って言えるだろうか。
外国人の日本語学習者にとって、日本語の文字・表記は習得が大変で、ネックになることが多い。この講義では、日本語教育の立場から、実践の場で教師に求められる文字・表記に関する知識と、指導する際に注意しなければならない点などを考えていきたい。

【講義計画】
第１回　１．日本語の表記法と基準
　　１）漢字の表記法（「常用漢字表」）（１）
第２回　　１）漢字の表記法（「常用漢字表」）（２）
第３回　　２）平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）（１）
第４回　　２）平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）（２）
第５回　　２）平仮名の表記法（「現代仮名遣い」）（３）
第６回　　３）片仮名の表記法（「外来語の表記」）（１）
第７回　　３）片仮名の表記法（「外来語の表記」）（２）
第８回　　３）片仮名の表記法（「外来語の表記」）（３）
第９回　　３）片仮名の表記法（「外来語の表記」）（４）
第10回　　４）送り仮名の付け形
第11回　　５）ローマ字の種類と表記法
第12回　２．文字に関する知識
　　１）漢字の成り立ち（六書、部首、画数、字形等）（１）
第13回　　１）漢字の成り立ち（六書、部首、画数、字形等）（２）
第14回　　２）仮名の成り立ち（真名、平仮名、片仮名等）
第15回　テスト

【成績評価の方法】
試験　100％
定期試験（半期科目であるので、秋学期１回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】
富田隆行・眞田和子（共著）『教師用日本語教育ハンドブック（２）新・表記』国際交流基金／凡人社

【参考文献】
清水義昭（編）『概説　日本語学・日本語教育』（おうふう）

科目名　クラス　講義区分	
野外レクリエーション実習　＜春＞	
小　柳　敬　明	２単位

【講義概要】
キャンプなどの野外活動を題材として、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者への野外活動に関する理論とプログラムを学びます。また、安全管理やプログラム運営の技術、グループワークの理解ができるよう野外レクリエーションの体験や実習を行います。

【学習目標】
理論を一方的に理解するだけでなく、実際の体験や実習に参加することを通して主体的に学ぶことを重視します。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の目的、内容や評価方法等の説明）
第２回　野外レクリエーションの理解
第３回　野外レクリエーションと野外教育
第４回　キャンプの理解
第５回　福祉とレクリエーション
第６回　キャンプの対象とプログラム
第７回　キャンプと福祉対象者
第８回　個々のプログラムの運営と指導
第９回　野外活動とリスクマネジメント
第10回　救急法
第11回　野外レクリエーションの計画①
第12回　野外レクリエーションの計画②
第13回　野外レクリエーションの体験と実習①
第14回　野外レクリエーションの体験と実習②
第15回　記録と評価

【成績評価の方法】
レポート　40％　出席　60％
出席点と、小グループによる計画と発表、レポートなどにより評価します。

【教科書】
石田易司 Camping For All―障害者キャンプマニュアル エルピス社

【参考文献】
授業中に紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
ヨーロッパ経済論　＜通期＞	
棚　池　康　信	4単位

【講義概要】
この講義ではヨーロッパの経済統合（EU）について論じてゆく。EUは共通通貨ユーロの紙幣とコインが発行され、従来の国民通貨はすでに姿を消している。この共通通貨の導入は、ヨーロッパ各国の市場が一体化し、ヨーロッパ企業がヨーロッパ市場を単一のものとして行動しつつあることが前提となっている。また、経済政策も多くの分野で共同体やECB（欧州中央銀行）に権限が移されている。このようにEUは経済統合の面ではきわめて高い段階に到達しており、さらにそのディメンションは政治統合から、市民的統合の側面を加えつつある。また2004年には、中東欧諸国を中心に10カ国が新たに参加し、ヨーロッパの一体的空間はさらに経済的・政治的重要性を高めている。しかしながら昨年末は、リスボン条約に調印して統合の新たな枠実が与えられた。このようなヨーロッパ経済統合の現状を理解することがこの講義の課題である。ユーロを導入したヨーロッパ経財の現状は実に興味深いが、単なる現状理解にとどまらず、統合の歴史的過程と国際経済環境の中に、EU経済の現状を立体的に位置付けることを目標とする。

【講義計画】
第１回
　　2005年のEU；一つの挫折
第２回　EUの到達点
第３回　経済統合論とEU
第４回　連邦の経済学と補完性原理
第５回　経済統合と新機能主義
第６回　EU統合と条約
第７回　EU統合と機構
第８回　EU統合の過程（４つの統合局面）
第９回　EUの統合過程と第３局面
第10回　92年市場統合の概要
　　92年市場統合の意義
第11回　70年代の通貨統合の過程
第12回　スネークとその挫折
第13回　スネーク挫折の意義
第14回　EMSとECU
第15回　EMSとERM
第16回　第２局面におけるヨーロッパの停滞
第17回　統合環境の変化とSMP
第18回　SMPと共同市場
第19回　統合環境の変化とSEA
第20回　SEAとヨーロッパ統合の局面変化
第21回　SMPとSEA
第22回　市場統合とEMU
第23回　EMUとドロール計画
第24回　マーストリヒト条約とEMU
第25回　EMU第２段階の意義
第26回　ユーロの導入と政策統合
第27回　ユーロ経済
第28回　市場統合のとリスボン戦略
第29回　リスボン条約
第30回　総括

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　10%　出席　10%
前期・後期末の試験によるが、経過によっては授業中の小テストを実施する。
しゅっせきも評価に加える。

【教科書】
棚池康信『EUの市場統合』晃洋書房

【参考文献】
田中素香他『現代ユーロ経済』有斐閣
島野卓爾他編『EU入門』有斐閣
清水貞俊『欧州統合への道』ミネルヴァ書房
内田勝敏・清水貞俊編著『EU経済論』ミネルヴァ書房
田中素香編『現代ヨーロッパ経済論』有斐閣
田中友義編『ヨーロッパ経済論』ミネルヴァ書房

科目名　クラス　講義区分	
ヨーロッパ文化研究－イタリア・ルネサンス論　＜春集＞	
和　栗　珠　里	4単位

【講義概要】
ルネサンス期のイタリアでは、ボッティチェッリの「ヴィーナスの誕生」やレオナルド・ダ・ヴィンチの「モナ・リザ」など、数々の傑作が生み出された。しかし、ルネサンスは美術にとどまるものではない。それは、当時の人々の考え方・生き方そのものであった。本講座では、ルネサンスを歴史の中でとらえ、社会の変化の中でどのようにルネサンスが生まれ、発展したかを論じる。

【学習目標】
ルネサンスについての知識を得ると同時に、社会と文化のかかわりや文化の影響関係について考える。また、歴史を見る目を養う。

【講義計画】
第１回　ルネサンスとは何か
第２回　原始的ルネサンス
第３回　14世紀危機からの「再生」
第４回　フィレンツェ・ルネサンス（１）
第５回　フィレンツェ・ルネサンス（２）
第６回　フィレンツェ・ルネサンス（３）
第７回　フィレンツェ・ルネサンス（４）
第８回　ルネサンスの宮廷（１）
第９回　ルネサンスの宮廷（２）
第10回　ルネサンスの宮廷（３）
第11回　ルネサンスの宮廷（４）
第12回　ルネサンス人（１）
第13回　ルネサンス人（２）
第14回　教皇たちのルネサンス（１）
第15回　教皇たちのルネサンス（２）
第16回　教皇たちのルネサンス（３）
第17回　教皇たちのルネサンス（４）
第18回　ヴェネツィアにおける発展（１）
第19回　ヴェネツィアにおける発展（２）
第20回　ヴェネツィアにおける発展（３）
第21回　ヴェネツィアにおける発展（４）
第22回　マニエリスム（１）
第23回　マニエリスム（２）
第24回　マニエリスム（３）
第25回　マニエリスム（４）
第26回　ルネサンスの伝播と変容（１）
第27回　ルネサンスの伝播と変容（２）
第28回　ルネサンスの伝播と変容（３）

【成績評価の方法】
試験　０%　レポート　20%　出席　80%
講義をよく聞き、理解することが基本であるので、出席を重視する。毎回の授業の最後に、その日の講義内容と感想をまとめたミニ・レポートを提出させ、それによって出席点をつける。20分以上の遅刻は欠席と同等に扱う。学期末には、2000字ていどのレポートを課す（要領は授業の中で指示する）。

【教科書】
使用しない

【参考文献】
齊藤寛海・山辺規子・藤内哲也編『イタリア都市社会史入門　12世紀から16世紀まで』昭和堂、2008年。

科目名　クラス　講義区分	
ヨーロッパ文化研究－ソクラテス以前の哲学者たち　＜通期＞	
山　川　偉　也	４単位

【講義概要】
ギリシア思想、とりわけソクラテス以前の哲学者の思想は、ヨーロッパの科学的世界観の根幹を形作ったという意味で、きわめて重要なものである。その普遍性と特質を個々の思想家の言葉に即して解明する。

【学習目標】
ソクラテス以前の哲学者の思想を、哲学者たち自身の言葉に即して理解させることを目標とする。

【講義計画】
第１回　コスモスからの出発
第２回　ピラミッドの高さを測る
第３回　海上にいる船までの距離を測る
第４回　地球は空中に浮いている
第５回　ピュタゴラスの定理とは？
第６回　輪廻転生　１
第７回　輪廻転生　２
第８回　ピュタゴラス的世界観と人間観の帰趨
第９回　むすび―小試験（１）
第10回　万物は流転する
第11回　万物の根源は火である
第12回　戦争が万物の王である
第13回　わたしに聞くのではなくてロゴスに聴け！
第14回　むすび―小試験（２）
第15回　二つの道か三つの道か　１
第16回　二つの道か三つの道か　２
第17回　二つの道か三つの道か　３
第18回　双頭の怪物―人間　１
第19回　双頭の怪物―人間　２
第20回　むすび―小試験（３）
第21回　アキレスと亀　１
第22回　アキレスと亀　２
第23回　飛ぶ矢は飛ばず　１
第24回　飛ぶ矢は飛ばず　２
第25回　半分の時間は２倍の時間に等しい　１
第26回　半分の時間は２倍の時間に等しい　２
第27回　ランナーは決してスタートラインから出発できない　１
第28回　ランナーは決してスタートラインから出発できない　２
第29回　むすび―小試験（４）
第30回　総括―試験（５）

【成績評価の方法】
試験　100％
４回の小試験と総括授業時における試験、合わせて５回の試験によって評価する。

【教科書】
山川偉也 古代ギリシアの思想 講談社学術文庫
山川偉也 ゼノン－４つの逆理 講談社

科目名　クラス　講義区分	
ヨーロッパ文化研究－フランス文化の諸相　＜秋集＞	
Annie Yamasaki	４単位

【講義概要】
現在のフランス人のライフスライルや思考傾向などについて色々なアスペクトを通して説明いたします。
金曜日は、講義は４つのテーマに分けて、下記の通り行います。
火曜日は、スライド、DVD、CD、などで説明いたします。

【学習目標】
金曜日

個人としてのフランス人
　外観意識
　礼儀作法
フランスの家族
　男女のあり方
　若者たち
　日常生活
フランスの社会
　社会構成
　社会生活
　価値観
仕事とレジャー
　就労人口
　ひまな時間とヴァカンス

火曜日

フランス人の眼を通して，フランスの様々な土地や場所を訪ね、人々のライフスタイルに触れてみます。

【講義計画】
第１回　火１
　　講義の説明
　　レポート用紙配布
第２回　金１
　　外観意識
第３回　火２
第４回　金２
　　礼儀作法　１
第５回　火３
第６回　金３
　　礼儀作法　２
第７回　火４
第８回　金４
　　男女のありかた
第９回　火５
第10回　金５
　　若者たち
第11回　火６
第12回　金６
　　日常生活　１
第13回　火７
第14回　金７
　　日常生活　２
第15回　火８
第16回　金８
　　社会生活　１
第17回　火９
第18回　金９
　　社会生活　２
第19回　火10
第20回　金10
　　価値観　１
第21回　火11
第22回　金11
　　価値観　２
第23回　火12
第24回　金12
　　勤労人口
第25回　火13
第26回　金13
　　暇な時間とウァカンス　１

第27回　火14
第28回　金14
　　暇な時間とファカンス 2

【成績評価の方法】
指定されたレポート用紙を14枚用意し、それぞれ表の備考のところに１週間目から14週間目まで番号を大きく記入。火曜日は表面に、金曜日は裏面に、間違わずそれぞれの日に授業中にとったノートを最後の20分間でまとめて記入すること。退室はできません。講義のまとめ方および感想の質的内容によって成績を評価します。火、金、それぞれの記入は、10回以上でなければなりません。公欠証明書は貼付けること。鉛筆は禁止です。レポートは最後の授業にホッチキスで留めて提出すること。

【教科書】
講義ですので、テキストがありません。ノートをとり、各講義の最後の20分間でまとめを書くこと。
30分以上の遅刻、私語、教室の出入りなどは、おことわり。

【参考文献】
「現代フランス情報辞典」（増補版）草場安子　大修館　2001年
「フランス新・男と女」 ミュリエル・ジョリヴェ/鳥取絹子　訳　平凡社　2001年
「知っていそうで知らないフランス」 安達功　平凡社　2001年
「フランスの知恵と発想」 小林善彦　白水社　1992年
「はじめて学ぶフランス」 関谷和彦　細身和志　山上浩嗣　（共著）　関西学院出版会　2004年

【備考】
授業計画は変更することがあります。

科目名　クラス　講義区分	
リスクと保障　＜秋＞	
武　田　久　義	２単位

【講義概要】
現在の社会は、様々なリスクに取り囲まれている。日々直面するリスクに対して、これを管理するための多くの手段が開発されてきた。それは、一般にリスクマネジメントと呼ばれている。そしてリスクマネジメントの手段は、現在では基本的にリスクコントロールとリスクファイナンスに分けて考えられている。この講義では、リスクに遭遇した場合の保障としてのリスクファイナンスを中心に、歴史や文化等の様々な観点から主要なリスクファイナンスの手段について解説する。また、現在の日本ではセーフティネットが動揺し、なかには崩壊しつつあるものもある。この点についても、説明する。

【学習目標】
リスクについて認識すること。とくに、日本人とリスクとの係わりについて理解すること。これは、国際化が進行する外よび将来にとって、とくに必要である。そのうえで、必要な生活保障のあり方について考えてもらう。

【講義計画】
第１回　全体的な説明
第２回　リスクの意味と内容
第３回　リスク・マネジメントについて（１）
第４回　リスク・マネジメントについて（２）
第５回　現代社会と保険・保障（１）
第６回　現代社会と保険・保障（２）
第７回　現代社会と保険・保障（３）
第８回　現代社会と保険・保障（４）
第９回　日本人と保障・保険（１）
第10回　日本人と保障・保険（２）
第11回　リスク・保険の歴史と文化（１）
第12回　リスク・保険の歴史と文化（２）
第13回　保障制度の将来
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
レポートと試験

【教科書】
武田久義 リスク・保障・保険 成文堂

【参考文献】
随時指示する。

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
リハビリテーション論　＜春＞	
倉　澤　茂　樹	２単位

【講義概要】
ICIDH（国際障害分類）の改訂版としてICF（国際生活機能分類）が2001年５月にWHO（世界保健機関）総会において採択された。ICIDHからICFへという世界的な潮流は我が国の医療・保健・福祉の分野において徐々に広がりつつある。さらに、高度な医療技術に伴う障害の重度化、少子高齢社会や都市部への人口集中など我が国特有の社会的背景により、リハビリテーションは大きな転換期を迎えている。本講義ではまず、「リハビリテーション」「健康」「障害」などの基本的な考え方を確認した上で、身体障害、精神障害、発達障害などの各分野の現状を紹介し、リハビリテーションの今後のあり方について考察を深めていく。

【学習目標】
１.ICIDHとICFの違いについて理解する
２．リハビリテーションの変遷を学ぶ
３．リハビリテーションに携わる職種について理解する
４．各分野のリハビリテーションの考え方がわかる
５．各分野のリハビリテーションの現状と課題を理解する

【講義計画】
第１回　1,リハビリテーションとは
第２回　2,リハビリテーションの流れ（身体障害を中心に）
　　１）急性期のリハビリテーション
第３回　２）回復期のリハビリテーション
第４回　３）維持期のリハビリテーション
第５回　４）終末期・予防的リハビリテーション
第６回　3,リハビリテーションの専門職
　　１）理学療法士・作業療法士
第７回　２）医師・看護師・言語聴覚士・ソーシャルワーカー
第８回　4,各分野のリハビリテーション
　　１）精神障害のリハビリテーション
　　①精神疾患について
第９回　②歴史的変遷と概要
第10回　③現状と課題
第11回　２）発達障害のリハビリテーション
　　①発達障害について（脳性麻痺）
第12回　②発達障害について（知的障害）
第13回　③発達障害について（学習障害・注意欠陥多動性障害）
第14回　④発達障害について（広汎性発達障害）
第15回　⑤現状と課題

【成績評価の方法】
講義内で不定期に行われるレポート50%，筆記試験50%

【参考文献】
教科書
なし（当日、印刷物を配布）

参考文献
入門　リハビリテーション概論　第６版　中村隆一編集　医歯薬出版株式会社
地域リハビリテーション原論　Vol.４　大田仁史著　医歯薬出版株式会社
図説　精神障害リハビリテーション　野中猛著　中央法規出版

科目名　クラス　講義区分	
リメディアル科目－コミュニケーションのチカラを鍛えるⅠ＜春＞	
辻　　洋一郎	２単位

【講義概要】
皆さんは、授業を聞いてしっかりメモはとれますか？社会人にも通じるようなキチンとしたメールを書けますか？大学の講義で課せられるレポートの書き方は知っていますか？
　本講義は皆さん方が直面するこのような課題の取り組み方を具体的に解説し、実際にトレーニングすることで、大学で必要な「コミュニケーションのチカラ」について再確認し、能力を向上させることを目的にしています。ですから一般的な大学の講義とは異なり、実際に手を動かし取り組んでゆくことが強く求められます。他の講義に比べて多少しんどいかもしれませんが、がんばって講義を受けてゆくうち、どんどん自分の知識の吸収能力や思考力が高まってゆくことを実感するはずです。
　大学入学を機に、勉強しなおそう、新たに何か取り組みたいという方にはピッタリです。
　尚、秋学期にも同じ趣旨の授業を行ないます。２つは連動していますので、続けてとると効果的です。また、同様に自分の能力を鍛えるという意味で、春学期に開講される「共通自由特別講義ーIT活用の実際」もオススメです。併せて受講されることを推奨します。

【学習目標】
大学での授業を吸収するために必要なチカラを磨くとともに、社会へ出てから困らないようにコミニュケーションのチカラを磨きます。
尚、授業は受講生の能力と水準を勘案して、適宜内容とレベルを修正しながら行います。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　基礎力を確認する
第３回　リテラシー能力を鍛える①
第４回　リテラシー能力を鍛える②
第５回　リテラシー能力を鍛える③
第６回　リテラシー能力を鍛える④
第７回　リテラシー能力を鍛える⑤
第８回　リテラシー能力を鍛える⑥
第９回　コミュニケーション能力を鍛える①
第10回　コミュニケーション能力を鍛える②
第11回　コミュニケーション能力を鍛える③
第12回　コミュニケーション能力を鍛える④
第13回　コミュニケーション能力を鍛える⑤
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　０％　出席　70%
受講態度を重視します。

【教科書】
適宜、プリントを配布します

【参考文献】
講義中に、必要に応じて指示します。

【備考】
＜09生＞のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
リメディアル科目－コミュニケーションのチカラを鍛えるⅡ ＜秋＞	
辻　　洋一郎	２単位

【講義概要】
この講義は、リメディアル科目－コミュニケーションのチカラを鍛えるⅠ　＜春＞の続きの講義です。詳細は、春学期の講義概要を参照して下さい。

【学習目標】
大学での授業を吸収するために必要なチカラを磨くとともに、社会へ出てから困らないようにコミニュケーションのチカラを磨きます。
尚、授業は受講生の能力と水準を勘案して、適宜内容とレベルを修正しながら行います。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　基礎力を確認する
第３回　リテラシー能力を鍛える①
第４回　リテラシー能力を鍛える②
第５回　リテラシー能力を鍛える③
第６回　リテラシー能力を鍛える④
第７回　リテラシー能力を鍛える⑤
第８回　リテラシー能力を鍛える⑥
第９回　コミュニケーション能力を鍛える①
第10回　コミュニケーション能力を鍛える②
第11回　コミュニケーション能力を鍛える③
第12回　コミュニケーション能力を鍛える④
第13回　コミュニケーション能力を鍛える⑤
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　０％　出席　70％
受講態度を重視します。

【教科書】
適宜、プリントを配布します

【参考文献】
講義中に、必要に応じて指示します。

【備考】
＜09生＞のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
流通論　＜通期＞	
隅　田　　孝	４単位

【講義概要】
流通とは生産と消費を架橋する経済的、社会的活動を意味する。従来、流通は生産－仲介－消費という流れを基本として行われていた。また、流通の形態は産業ごとに多様であり、複雑なものである。たとえば、ある産業では仲介業者が重層的に介在する流通システムが確立されている。
今日では、インターネットの普及により流通の様相が大きく変化してきている。製品のカスタマイゼーションやＢ to Ｂ、Ｂ to Ｃ、Ｃ to Ｃ 取引に見られるように、流通システムは進化の過程にあるといってよいだろう。
本講義では、流通の基本概念を理解した上で、マーケティング論におけるブランド、消費者行動、インターネット・マーケティングなど流通と密接にかかわりをもつトピックを取りあげ、流通システムの進化について理解していく。

【学習目標】
①流通システムの基本構造を理論的に理解する。
②実社会における企業で実践されている流通・マーケティングを理解する。

【講義計画】
第１回　ガイダンス（本講義の進め方、評価方法など）
第２回　流通の社会的意義
第３回　物的流通
第４回　商的流通
第５回　情報流通
第６回　ヒット商品分析Ⅰ
第７回　マーケティングの基本概念
第８回　市場の概念
第９回　市場行動
第10回　製品戦略
第11回　販売促進戦略
第12回　価格戦略
第13回　流通チャネル戦略
第14回　消費者ニーズ
第15回　消費者行動
第16回　成熟社会における消費文化
第17回　子供の消費者行動
第18回　企業のブランド戦略
第19回　企業のコミュニティ戦略
第20回　ブランド・コミュニティ戦略
第21回　インターネット・コミュニティと消費者行動
第22回　小売業の現状とSCM戦略
第23回　インターネット・マーケティング
第24回　マーケティング・リサーチ
第25回　グローバル・マーケティング
第26回　情報ネットワークと流通
第27回　ヒット商品分析Ⅱ
第28回　国による流通行政
第29回　今後の流通の展望
第30回　本講義のまとめ

【成績評価の方法】
試験　50％　レポート　10％　出席　50％

【教科書】
便宜、授業中に紹介する。

【参考文献】
便宜、授業中に紹介する。

【備考】
＜02～07生＞の【Ｂ生】のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
流通論［2］　＜秋＞	
岸　本　裕　一	2単位

【講義概要】
流通とは、生産と消費という２つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通を考える視野を持つことであり、かつまた、時代の要請に応えるべく、フロンティア精神でもって思考構築を行なうことであろう。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、建学の精神にいう世界の市民としての視点から、新世紀の流通・マーケティングの最前線を理解することということになる。

【学習目標】
講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、幅広い関心と猛烈な好奇心を持って履修に勤めてほしい。

【講義計画】
第１回　流通論では何を学ぶか一本講義の課題と方法
第２回　今、日本流通シーンでは何が起こっているのか
第３回　世界経済のトレンドと流通
第４回　流通論の範囲と対象
第５回　流通研究の理論研究
第６回　食品産業80兆円の構造
第７回　ブランド作りの実際
第８回　インタネットと流通
第９回　広告による販売促進－テレビCMを中心に－
第10回　SCM（サプライチェーンマネジメント）の展開
第11回　内外価格差と日本食の海外浸透
第12回　ドラッグストアと業態間競争
第13回　地域振興と地域ブランド形成（道の駅など観光も含む）
第14回　総括と試験における諸注意

【成績評価の方法】
試験　100%
期末試験の成績

【教科書】
進行に従い指示する。

【参考文献】
進行に従い指示する。

【備考】
＜08生＞のみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
理論経済学－所得・資産分配およびマクロ経済学の展開　＜秋集＞	
伊代田　光　彦	4単位

【講義概要】
次の２つの問題に焦点をあてて講義を進める。
近年、所得・資産分配の格差に関する関心が高まっている。停滞経済の下で 所得の伸びが期待できず、しかも高齢化社会が迫りくる状況の中では、強い関心だけでは済まされない問題である。分配に関する問題を理論、日本の実態、政策の３つの側面から総合的に明らかにする。
1970年代のスタグフレーションの中で、ケインズ経済学の有効性が疑問視されるようになり、マクロ経済理論は混迷の時代を迎えた。この中から誕生した反ケインズ派経済学について概説するとともに、その評価を行う。一方、その後誕生した新ケインズ派理論、新古典派の新しい理論展開についても時間の許すかぎり概説し、その評価を行う。

【学習目標】
（1）所得分配にかかわる問題の総合的理解をうることを目標とする。
（2）ケインズ理論と反ケインズ派理論を学び、その基本的特徴を理解することを目標とする。
必要に応じて基礎的な理論の説明も行い、できる限りゆっくり講義を進めていく。板書により分かり易い講義を行うつもりであるが、受講は二回生以上が望ましい。

【講義計画】
第１回　はじめに（講義概要、文献紹介）
第２回　　Ⅰ　所得分配（理論、実態および政策）
　　所得分配（問題の所在、政策の現状）
第３回　所得分配の基礎理論（新古典派理論）
第４回　所得分配の基礎理論（独占度理論）
第５回　所得分配の基礎理論（フルコスト理論）
第６回　所得分配の基礎理論（ケインズ派理論）
第７回　戦後日本の労働分配率
第８回　人的分配の分析概念（ローレンツ曲線）
第９回　人的分配の分析概念（ジニ系数）
第10回　所得・資産分配の実態（所得分配）
第11回　所得・資産分配の実態（金融資産分配）
第12回　所得・資産分配の実態（実物資産分配）
第13回　分配に関する政策の現状と課題
第14回　分配に関する政策の現状と課題
第15回　　Ⅱ　マクロ経済学の潮流
　　＊ケインズ経済学
　　所得分析（所得の決定）
第16回　所得分析（応用）
第17回　貨幣分析（貨幣、物価および国民所得）
第18回　貨幣分析（銀行の信用創造と金融政策）
第19回　マクロ経済政策（中央銀行の金融政策）
第20回　マクロ経済政策（政府の財政政策）
第21回　＊反ケインズ派経済学
　　フリードマンの新貨幣数量説
第22回　フリードマンの政策主張
第23回　合理的期待形成学派（理論と政策主張）
第24回　合理的期待形成学派（批判と評価）
第25回　供給重視の経済学（ラッファー曲線、日本の場合）
第26回　供給重視の経済学（評価）
第27回　新しい潮流（リアルン・ビジネスサイクル理論、ニューケインジアンの経済学、新経済成長論）
第28回　まとめ
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　30%　出席　10%
成績評価は上記により行う。レポートは２回、出席は２-３回とる。レポート未提出や出席の少ない場合、単位取得は困難である。

【教科書】
伊代田　光彦 マクロ経済学（第２版）法律文化社

【参考文献】
必要に応じて講義の中で指示する

【備考】
＜02～07生＞は読替一覧参照の事。

科目名　クラス　講義区分	
臨床心理学　＜通期＞	
岡　井　哲　明	4単位

【講義概要】

「臨床心理学」とは、心の健康を失いバランスを崩している人（疾病を含む）に対する心理学的な治療実践から生まれた体系であり学問である。元々、人間の行動を科学する学問である「心理学」から派生した分野であり、生涯にわたり人間を対象にしている。

現代は、複雑な社会であり、私たちを取り巻く環境の変化は変転目まぐるしく、私たちの心がそれに十分ついていけない状態にある。心の病はもはやボーダレスに社会に広がっているという感じさえある。ひとりひとりが心の置き場をどこに求めれば良いのかが分からなくなりつつある。

本講義では、臨床心理学の幅広い体系的な総論から各論までを取り扱うが、特に、無意識の概念を導入し、人間を無意識を含めた自律的な機能の総体としてとらえる「精神分析療法」を中心に据えて展開する。

必要に応じて具体的な事例や社会現象を紹介する。

【学習目標】

臨床心理学の概要と各理論を学ぶことを通じて、人間の心に対する一層の理解を深め、悩める人への援助について関心を抱き、受講者自身が、今まで以上に人間に対する関心を深め、自分自身についてもしっかり考えるようになり、対人援助に向かおうとする今後の人生に役立てる契機となること。

【講義計画】

第１回　臨床心理学とは
第２回　臨床心理学の歴史
第３回　アセスメント（心理査定）
第４回　臨床心理学的地域援助
第５回　精神分析療法～フロイド①
第６回　精神分析療法～フロイド②
第７回　精神分析療法～フロイド③
第８回　精神分析療法～フロイド④
第９回　精神分析療法～フロイド⑤
第10回　精神分析療法～フロイド⑥
第11回　精神分析療法～フロイド⑦
第12回　精神分析療法～エリクソン①
第13回　精神分析療法～エリクソン②
第14回　精神分析療法～クライン
第15回　精神分析療法～ウィニコット
第16回　分析心理学～ユング①
第17回　分析心理学～ユング②
第18回　分析心理学～ユング③
第19回　分析心理学～ユング④
第20回　分析心理学～ユング⑤
第21回　分析心理学～ユング⑥
第22回　分析心理学～ユング⑦
第23回　来談者中心療法～ロジャース①
第24回　来談者中心療法～ロジャース②
第25回　来談者中心療法～ロジャース③
第26回　行動療法①
第27回　行動療法②
第28回　行動療法③

【成績評価の方法】

試験　０％　レポート　70％　出席　30％

【参考文献】

講義の都度紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
倫理学　＜通期＞	
木　下　昌　巳	4単位

【講義概要】

「ただ生きることではなく、善く生きることが大切である」――古代ギリシアの哲学者ソクラテスの言葉である。では、「善く生きる」とはどのようなことを意味するのだろうか？倫理学とは、この「善い」とは何か、さらに「幸福」とは何か、「正義」とは何かというような問題を哲学的に探究する学問である。この講義では、古代ギリシアから20世紀に至るまでの西欧の倫理思想の流れを概観し、主な思想家の倫理思想を解説し、現代に生きるわれわれ自身が倫理的な問題を考えるさいの手掛かりとなる考え方を身につけることを目指す。

【学習目標】

古代ギリシア、ヨーロッパ近世の思想家、カント、ヘーゲル、ニーチェ、さらに20世紀の倫理的思想を時代順に取り上げて、できるだけ平易に解説する。ただ思想家の人名や著作の名前を憶えるだけではなく、それぞれの思想の内容と思想家の意図を理解して、各人がその思想を自分の言葉で説明ができるようになることを目指す。

【講義計画】

第１回　倫理学とは何か？
第２回　古代ギリシアの思想の概観
第３回　ソクラテスの生き方①――「善く生きる」ということ
第４回　ソクラテスの生き方②――ソクラテスの裁判
第５回　プラトンの倫理思想①――倫理理想としてのイデア論
第６回　プラトンの倫理思想②――いわゆる「プラトニック・ラブ」について
第７回　プラトンの倫理思想③――理想国家と哲人王の思想
第８回　アリストテレスの倫理思想①――徳（アレテー）の倫理学
第９回　アリストテレスの倫理思想②――「中庸」について
第10回　キュニコス派の禁欲主義
第11回　エピクロスの快楽主義
第12回　ストア派の倫理思想①
第13回　ストア派の倫理思想②
第14回　中世哲学の倫理思想――哲学と神学
第15回　前期テスト
第16回　ルネサンス期の倫理思想
第17回　大陸合理主義とイギリス経験論
第18回　デカルトの暫定的道徳
第19回　パスカルの「賭けの理論」
第20回　イギリス経験論①――ロックの倫理思想
第21回　イギリス経験論②――ヒュームの「共感」の理論
第22回　カントの義務論①
第23回　カントの義務論②
第24回　カントの義務論③
第25回　功利主義①――ベンサム
第26回　功利主義②――ミル
第27回　ヘーゲルの弁証法
第28回　ニーチェの超人思想
第29回　現代の倫理学的問題①
第30回　現代の倫理学的問題②

【成績評価の方法】

試験　90％　レポート　０％　出席　10％
テストは、前期と後期にそれぞれ１回ずつ、計２回実施する。出席は毎回取らないが、不定期に授業の内容に関する小作文を授業中に書いてもらい、それを出席点として成績に加味する。

【教科書】

プリントを授業中に配布する。必要な書籍は授業中に指示する。

【参考文献】

授業中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
歴史学－海のシルクロード史を読む　＜秋集＞	
深　見　純　生	４単位

【講義概要】

海のシルクロードの歴史をあとづける。

地域としては東南アジアを中心に扱う。そこには地球上で唯一の「島の熱帯」の森と海が交易世界と結びついて、典型的な海域アジア世界が成立した。時間的には2000年前の始まりから、ヨーロッパ勢力がアジア海域世界に登場する以前、つまり15世紀までを扱う。この間の、東南アジアを中心とする交易システムの形成とその変化をあとづけることになる。

いわゆるノート講義であるが、テキストに指定した史料集が必携である。

視覚的な理解のためビデオ資料も用いる。

【学習目標】

この講義は、海から歴史を見ると同時に史料を読むという、ちょっと欲張った内容である。海から歴史を見ることで、無意識のうちに陸中心になっている私たちの歴史観を反省する手掛かりになることを期待している。あわせて、具体的な史料を取り上げることによって、史料の背景、史料の読み方、史料の解釈など歴史学の方法の基礎的なことがらにも触れる。

【講義計画】

第１回　第１章 序論
　　１－１.海のシルクロード総説
第２回　１－２.東南アジア海域世界論
第３回　１－３.モンスーンの風土東南アジア
第４回　第２章 モンスーン航海以前
　　２－１.『漢書』地理志――現地商船による転送
第５回　２－２.『エリュトゥラー海案内記』――ヒッパロスの風
第６回　２－３.回転紋土器とビーズ
第７回　２－４.『後漢書』――２世紀の変化
第８回　２－５.３世紀の海洋東南アジア
第９回　第３章 モンスーン航海の確立
　　３－１.法顕『仏国記』――モンスーン航海の確立
第10回　３－２a.５－６世紀の海洋東南アジア(１)
第11回　３－２b.５－６世紀の海洋東南アジア(２)
第12回　３－３.前２世紀～後６世紀の総括
第13回　第４章 マラッカ海峡交易帝国
　　４－１.赤土国――最初のマラッカ海峡交易帝国
第14回　４－２.求法巡礼僧たち
第15回　４－３.交易帝国シュリーヴィジャヤ
第16回　４－４.シャイレーンドラ朝の時代
第17回　４－５.唐代の広州
第18回　４－６.中国船の南海進出
第19回　４－７.８－10世紀の海洋東南アジア
第20回　第５章 宋元代の海のシルクロード
　　５－１.朝貢からみた宋代の南海
第21回　５－２.『嶺外代答』にみる海外世界認識
第22回　５－３.『嶺外代答』にみる航路と航海時季
第23回　５－４.11世紀のマラッカ海峡
第24回　５－５.都会とネットワークの変化
第25回　５－６.長い13世紀のマレー半島とスマトラ
第26回　５－７.中国船・中国人の南インド進出
第27回　５－８.「海賊型中継交易国家」三仏斉の終焉
第28回　第６章 ムラカの時代
　　６－１.鄭和の大航海
第29回　６－２.ムラカの発展
第30回　６－３.東南アジアのイスラム化

【成績評価の方法】

試験　100%　レポート　25%

期末試験と時々の小レポートを総合して評価する。

【教科書】

深見純生 史料集　歴史学　海のシルクロード史を読む

いわゆるノート講義であるが、テキストに指定してある史料集が必携である。生協で購入すること。

【参考文献】

辛島昇・大村次郷『海のシルクロード：中国・泉州からイスタンブールまで』集英社 2000〔桃図A292.09〕

長沢和俊『海のシルクロード史：四千年の東西交易』中公新書 1989〔桃図A209〕

藤本勝次他『海のシルクロード』大阪書籍 1982〔桃図A209〕

家島彦一『海が創る文明』朝日新聞社 1993〔桃図A225.9〕

科目名　クラス　講義区分	
歴史学－大阪と堺・泉州の地域史　＜春集＞	
佐　賀　　朝	４単位

【講義概要】

本講義では、大学が立地する場である大阪と堺・泉州地域の歴史について、前近代（古代～江戸時代）を中心に概述する。

現在の大阪府域とほぼ重なる摂津・河内・和泉の三国は、古代以来、高生産力の先進地域として日本史において重要な位置を占めた。大阪の地は、古代の難波宮、百舌鳥・古市の両古墳群や中世における国際的自治都市・堺、大坂本願寺の寺内町など、その時代ごとの権力と関係し、都市的要素が立地する場所であった。

また、近世統一政権の成立によって大坂城とその城下町が誕生して以後は、巨大城下町とその近郊の経済先進地域として大きく発展し、経済的にも、政治・軍事面でも重要な位置を占めつづけた。

この講義では、各時代における民衆生活にも目を配りながら、大阪地域の歴史的展開を概観し、その特徴を明らかにするとともに、堺と泉州地域にも可能な限り言及したい。

【学習目標】

講義を通じて、①わたしたちが日々暮らし、学んでいる場である現代大阪地域の歴史的成り立ちとその問題点について考えるとともに、②地域社会の歴史の流れを、発展と矛盾の両側面から大きく捉えることを通じて、歴史学の基礎的な方法を実践的に学ぶことをめざす。

【講義計画】

第１回　プロローグ（クイズ―大阪について知っていること）
第２回　前史（都市以前の大阪）①　大阪の地勢と旧石器時代の大阪
第３回　前史（都市以前の大阪）②　縄文時代の大阪―森の宮遺跡
第４回　前史（都市以前の大阪）③　弥生時代の大阪―池上曽根遺跡
第５回　前史（都市以前の大阪）④　古墳時代の大阪―前方後円墳の時代
第６回　前史（都市以前の大阪）⑤　難波津と四天王寺
第７回　都城の形成（難波宮の時代）①　発掘された難波宮
第８回　都城の形成（難波宮の時代）②　前期難波宮と後期難波宮
第９回　都城の形成（難波宮の時代）③　難波京の広がり
第10回　都城の形成（難波宮の時代）④　難波宮の終焉
第11回　和泉の古代～中世①　松尾寺と槇尾山（その１）
第12回　和泉の古代～中世②　松尾寺と槇尾山（その２）
第13回　中世の大阪①　渡辺津と四天王寺
第14回　中世の大阪②　自治都市堺（その１）
第15回　中世の大阪③　自治都市堺（その２）
第16回　中世の大阪④　自治都市堺（その３）
第17回　中世の大阪⑤　大坂本願寺と寺内町（その１）
第18回　中世の大阪⑥　大坂本願寺と寺内町（その２）
第19回　近世の大坂①　秀吉の城下町・大坂
第20回　近世の大坂②　徳川直轄都市・大坂
第21回　近世の大坂③　武家と都市行政
第22回　近世の大坂④　町人社会と自治
第23回　近世の大坂⑤　寺町と寺院社会
第24回　近世の大坂⑥　身分的周縁（渡辺村と四ヶ所）
第25回　近世の大坂⑦　大坂の経済と都市構造の変容
第26回　幕末期の大坂①　内憂と外患
第27回　幕末期の大坂②　京都・大坂政権の可能性
第28回　近代への展望―まとめ
第29回　試験

【成績評価の方法】

出席、感想・質問の内容、中間レポート、定期試験などにより総合的に評価する。

【参考文献】

・塚田孝『歴史のなかの大坂―都市に生きた人たち』（岩波書店）
・塚田孝編『大坂における都市の発展と構造』（山川出版社）
・藤本篤ほか『大阪府の歴史』（山川出版社）
・『新修大阪市史』第１巻～第９巻（大阪市）
・朝尾直弘ほか『堺の歴史』（角川書店）
その他、授業のなかで随時、提示する。

科目名　クラス　講義区分	
歴史学－会社の歴史　＜秋集＞	
長谷川　　彰	4単位

【講義概要】
日本における会社の歴史を講義する。通常日本における会社は、1872年の第一国立銀行によって始まるとされる。もちろん、これに異論を唱えるものではないのであるが、それに先立つ近世社会に登場してくる、例えば、三井家の呉服店や両替店、近江商人の展開した各地の商店などは、その成立になんら関係しなかったのかどうか。興味深い問題である。つまり、この問題について、近世社会と近代社会との間には、どのような連続性とどのような断絶性があったのを考えなくてはならない。
また、会社の存在は時代とともに変わってくるのである。戦後の日本は「家社会」が崩壊したが、それに変わる役割を果たしたのが、会社だといってもよい。会社は、それほど大きな存在になってしまったのである。会社の歴史を検討するということは、このように社会に対する役割をも考えなくてはならないということだと思う。

【学習目標】
会社の歴史を正確に把握し、併せて、社会に対して会社が果たした役割について学習できればよいのではないか。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　三井家の商家経営
第３回　近江商人の共同企業
第４回　渋沢栄一と『立会略則』
第５回　第一国立銀行ー最初の株式会社ー
第６回　会社をめぐる法制
第７回　草創期の会社
第８回　大阪紡績会社
第９回　日本鉄道会社
第10回　日本生命保険会社
第11回　企業勃興期の会社
第12回　鉄道・紡績ブーム期の会社
第13回　会社法の施行
第14回　第二次企業勃興期の会社
第15回　産業革命期の会社
第16回　財閥の会社(１)－三井合名会社の成立ー
第17回　財閥の会社(２)－三菱合資会社の成立ー
第18回　戦時下の会社
第19回　財閥解体と大会社
第20回　戦後の会社(１)－ホンダの成立ー
第21回　戦後の会社(２)－ダイエーの成立ー
第22回　企業集団の形成
第23回　会社の海外進出
第24回　「家社会」と会社(１)
第25回　「家社会」と会社(２)
第26回　「日本的経営」のなかの会社
第27回　「会社って何だ」
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験によって行なう。

【教科書】
特に指定しない。

【参考文献】
随時指示する。

科目名　クラス　講義区分	
レクリエーションワーク　＜秋集＞	
弘　中　陽　子	4単位

【講義概要】
すべての人が地域の中で、いきいきと豊かに生活する上で、レクリエーションの重要性が言われています。単なる遊びやゲームを提供することがレクリエーションではなく、生活とレクリエーションの関連性を踏まえた上で、生活の中にある様々な楽しさや心地よさが豊かな生活づくりの原動力となっていることを学びます。
また、レクリエーション活動の援助方法を実践的な演習形式を通して学びます。

【学習目標】
・楽しさや心地よさ、喜び等がもたらす身体的、精神的変化とよりよい生活、 豊かな生活との関連性を理解できる。
・様々な楽しみ活動を活かしたレクリエーション援助方法を修得することができる

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の目的、内容や進め方、評価方法等の説明）
第２回　コミュニケーション・ゲームの実際①
第３回　コミュニケーション・ゲームの実際②
第４回　コミュニケーション・ゲームの実際③（アイスブレイキング）
第５回　コミュニケーション・ゲームの実際④（ホスピタリティートレーニング）
第６回　楽しい空間を提供する
第７回　レクリエーション活動の実際①（身体的活動）
第８回　レクリエーション活動の実際②（知的活動）
第９回　レクリエーション活動の実際③（創作的活動・季節の行事）
第10回　遊びを考える
第11回　レクリエーションの基本的理解
第12回　レクリエーション運動の歴史とその背景
第13回　ライフスタイルとレクリエーション
第14回　懐かしい遊びを体験する
第15回　福祉領域におけるレクリエーションの考え方
第16回　基本的人権としてのレクリエーション
第17回　生活とレクリエーションの関係
第18回　レクリエーションによる生活の「良循環」
第19回　レクリエーション援助の考え方
第20回　レクリエーション援助プロセス
第21回　個別レクリエーション援助について考えるⅠ
第22回　個別レクリエーション援助について考えるⅡ
第23回　ｸﾞﾙｰﾌﾟを介したレクリエーション援助について考える
第24回　ｸﾞﾙｰﾌﾟを介したレクリエーション援助の計画を立てるⅠ
第25回　ｸﾞﾙｰﾌﾟを介したレクリエーション援助の計画を立てるⅡ
第26回　ｸﾞﾙｰﾌﾟを介したレクリエーション援助計画を実践するⅠ
第27回　ｸﾞﾙｰﾌﾟを介したレクリエーション援助計画を実践するⅡ
第28回　ｸﾞﾙｰﾌﾟを介したレクリエーション援助計画を実践するⅢ
第29回　これからの福祉レクリエーションについて考える
第30回　社会福祉士としてのレクリエーション援助について考える（まとめ・レポート）

【成績評価の方法】
平常点（出席、授業への取り組みの姿勢や態度）・レポート（授業内の課題等）・発表（援助計画の実践）を総合的に評価します。

この授業では、「自分自身の心で感じ、考え、動く」ことが、重要と考えています。よって、一方的な講義形式ではなく、受講生一人ひとりが主役となるような演習的形式で展開します。よりよい授業となるようにお互い取り組んでいきましょう。次の３点を総合的に評価をします。①平常点（出席、主体的・積極的な受講態度）　②提出物（授業内で指示をした課題等も含む）　③授業内の発表等

【教科書】
長尾正子・石田易司 長尾正子の介護レクリエーション エルピス社

【参考文献】
石田易司著「アイスブレーク」エルピス社、2001

ら行

科目名　クラス　講義区分	
連結会計論　＜秋＞	
柴　　理梨亜	２単位

【講義概要】
単独企業の財務諸表に代わってグループ企業の連結財務諸表が主役になった今、本講義ではその連結財務諸表について学びます。例えば、はなぜそのような連結財務諸表が必要なのか、その制度とはなにを目的としているのか、その財務諸表の構成などの理解を深めます。

【学習目標】
日本を代表する企業グループの情報は連結財務諸表によって開示される。その連結財務諸表を正しく読み取る力を身につけることが学習目標である。
本講義を受講するにあたって、簿記、会計と財務諸表の基礎知識が不可欠である。

【講義計画】
第１回　連結会計を理解するための簿記と会計の基礎知識
第２回　連結会計制度の基礎知識
第３回　連結財務諸表の目的と意義
第４回　連結財務諸表の作成プロセスと考え方
第５回　企業結合会計の意義と連結財務諸表
第６回　税効果会計の仕組み
第７回　連結財務諸表概要
第８回　連結財務諸表一般原則
第９回　連結貸借対照表
第10回　連結損益計算書
第11回　連結損益計算書
第12回　連結キャッシュ・フロー計算書
第13回　連結株主資本等変動計算書
第14回　全体の復習
第15回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
出席とともにクラスでの議論や質問での積極的な態度の評価に最終の試験の成績を総合的に評価する。

【教科書】
広瀬義州　/　太田正博 連結会計入門　第４版 中央経済社

科目名　クラス　講義区分	
労働経済論　01＜春集＞	
吉　田　恵　子	４単位

【講義概要】
指定するテキストを元に、労働経済学の考え方を紹介していく。ミクロ経済学の応用範囲としての労働経済学が位置づけられるため、抽象的かつ数学を駆使した講義が中心となるので注意して欲しい。理解に必要な数学は授業で取り上げるが、数学の予備知識に不安のある生徒は丁寧に復習することを推奨する。なお、学生の理解度に応じて授業計画を変更する可能性がある。

【学習目標】
ミクロ経済学の知識を踏まえた上で、労働経済学の考え方を習得すること。基本的に毎回復習をしていることを前提として授業を行う。指定しているテキストは前もって読んでおくこと。

【講義計画】
第１回　イントロダクション：授業の進め方と数学基礎テスト
第２回　ミクロ経済学１：需要曲線、供給曲線
第３回　ミクロ経済学２：市場の均衡
第４回　ミクロ経済学３：弾力的、非弾力的
第５回　ミクロ経済学４：消費者選択の理論
第６回　ミクロ経済学５：最適化
第７回　賃金と雇用量はどう決まるのか
第８回　市場の需給バランスの変化
第９回　労働力の測り方
第10回　労働供給関数
第11回　家計生産モデル
第12回　中間テスト１
第13回　中間テスト１の解説
第14回　生産要素としての労働
第15回　雇用調整
第16回　年功賃金制度とは
第17回　人的資本理論による説明
第18回　情報の不完全性と年功賃金制度
第19回　資本市場の不完全性と年功賃金
第20回　長期雇用制度の特徴
第21回　長期雇用制度のメリット、デメリット
第22回　労働環境と賃金格差
第23回　学歴間の賃金格差
第24回　産業間・規模間の賃金格差
第25回　男女間の賃金格差
第26回　中間テスト２
第27回　中間テスト２の解説
第28回　総復習１
第29回　総復習２
第30回　テスト

【成績評価の方法】
試験　100%
中間試験（20点）と期末試験（80点）で成績評価を行う。なお、授業態度の悪い学生は単位を取得させないので注意すること。

【教科書】
大竹文雄 労働経済学入門 日本経済新聞社

【備考】
【Ｅ・CBCC生】は01クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
労働経済論　02＜通期＞	
大　西　祥　惠	4単位

【講義概要】
労働は、現在の大学生にとって身近なトピックである。というのも、入学当初よりアルバイトを行う者もいれば、在学の後半期には就職活動に取り組む者もいるからである。さらに、大学卒業後、民間企業や行政に勤務する者が多数いるという現状を考えると、少なからぬ人が人生において一定の時間を職場での労働に費やすことになるといえよう。だとすれば、労働に関する基本的な事項を在学中に学んでおくことは意義深いことである。本講義の前半では、企業の規模や形態に注目する形で、大企業、公企業、中小企業における労使関係について学ぶ。そして、後半においては労働者の属性に注目する形で、性別や国籍の違いによって現時点では就業状況にどのような特徴がみられるのかという点について学ぶ。

【学習目標】
本講義の目的は、労働にかかわる事象について、自らの立場から考えられる力を身につけることである。

【講義計画】
第１回　日本の生産主義と労働者（１）　日本の生産主義
第２回　日本の生産主義と労働者（２）　外圧と生産主義
第３回　日本の生産主義と労働者（３）　規制緩和と生産主義
第４回　大企業における労働者（１）「日本的経営」と労働
第５回　大企業における労働者（２）　フレキシビリティと労働問題
第６回　大企業における労働者（３）　人事制度
第７回　大企業における労働者（４）　「自発」調達のメカニズム
第８回　公企業における労使関係（１）　公共部門の特徴
第９回　公企業における労使関係（２）　国鉄民営化
第10回　公企業における労使関係（３）　電電公社民営化
第11回　公企業における労使関係（４）　郵政制度の変革
第12回　中小企業における労働者（１）　中小企業の類型
第13回　中小企業における労働者（２）　下請製造業
第14回　中小企業における労働者（３）　ものづくりと技能継承
第15回　中小企業における労働者（４）　新たな展開
第16回　女性労働者（１）　労働力の女性化
第17回　女性労働者（２）　積極的女子労働力政策
第18回　女性労働者（３）　男女雇用機会均等法の制定と改正
第19回　女性労働者（４）　雇用労働と性別役割分業意識
第20回　女性労働者（５）　ワークライフバランス
第21回　外国人労働者（１）　歴史
第22回　外国人労働者（２）　オールドカマーの労働問題
第23回　外国人労働者（３）　ニューカマーの労働問題
第24回　外国人労働者（４）　日本における外国人政策
第25回　外国人労働者（５）　日本における多文化共生
第26回　日本型福祉国家（１）　企業中心社会と社会保障制度
第27回　日本型福祉国家（２）　企業中心社会と家族政策
第28回　日本型福祉国家（３）　日本型福祉国家の明暗
第29回　調整日（１）
第30回　調整日（２）

【成績評価の方法】
試験、講義中におこなう取り組み、出席状況および出席態度などにて評価する。また、若干の加点を目的とした任意提出のレポートを設定する。

【教科書】
戸塚秀夫・徳永重良編著『現代日本の労働問題＜増補版＞』ミネルヴァ書房

【参考文献】
講義中に指示することがある。

【備考】
【SS生】は02クラスのみ履修可

科目名　クラス　講義区分	
労働法　＜通期＞	
上　田　達　子	4単位

【講義概要】
雇用者（サラリーマン）が全就業者の８割を占める雇用社会である日本において、その働き方のルール（労働法）を知ることは必要不可欠でしょう。労働法は、（１）個々の労働者と使用者との労働契約（雇用関係）を規律する雇用関係法、（２）労働組合と使用者との団体的関係に関する労使関係法、（３）雇用の促進と失業の予防、職業紹介、能力開発等を内容とする雇用政策法（労働市場法）の３領域からなります。本講義では、労働法の基本的な内容のほか、社会経済のグローバル化・少子高齢化等に伴う日本型雇用システム（長期雇用、年功序列型賃金、企業別組合）の変化と労働法の変容について、裁判例や事例問題をもとに、分かりやすく解説します。

【学習目標】
学習目標は、労働法の基本的な内容を理解し、労働法の授業を受講していない人に対してもその内容を的確に説明できるようになることです。たとえば、授業後に学んだことを思い出して、こんな場合にはどうなるのだろうか、と自分の頭で考え、また他の人と議論をしてください。意欲的に取り組めば、理解度が深まり応用力が身につきます。

【講義計画】
第１回　雇用社会の変化と労働法
第２回　労働法の枠組み－アルバイトと労働者、労働組合、使用者
第３回　労働条件の決定システム
第４回　労働契約の成立－採用内定、試用
第５回　労働契約上の権利義務
第６回　賃金－賃金の決定・支払方法に関する規制
第７回　労働時間（１）労働時間・休日規制、ホワイトカラー・エグゼンプション等
第８回　労働時間（２）時間外・休日労働、年次有給休暇
第９回　雇用平等－男女雇用機会均等法、セクシュアル・ハラスメント等
第10回　人事異動（１）配転、出向、転籍
第11回　人事異動（２）昇格・昇進・降格、育児介護休業法、キャリア権との関係
第12回　職場規律と懲戒処分
第13回　労働契約の終了（１）退職、定年制、解雇
第14回　労働契約の終了（２）整理解雇
第15回　雇用形態の多様化（１）期間雇用労働者と雇止め規制
第16回　雇用形態の多様化（２）パートタイム労働者
第17回　雇用形態の多様化（３）派遣労働者
第18回　労働組合と法（１）労働組合、団体交渉
第19回　労働組合と法（２）労働協約、争議行為・組合活動、不当労働行為の禁止
第20回　労働条件の変更（１）就業規則、労働協約
第21回　労働条件の変更（２）個別合意による変更、変更解約告知
第22回　雇用政策と法（１）失業（予防）と法政策
第23回　雇用政策と法（２）高齢者雇用、外国人雇用と法政策
第24回　労働者の健康とプライバシー
第25回　営業秘密の保護と競業避止義務
第26回　内部告発と公益通報者保護法
第27回　企業組織の再編－合併、事業譲渡、会社分割と労働契約
第28回　企業年金

【成績評価の方法】
試験　100％
学期末の試験により評価します。

【教科書】
土田道夫 労働法概説 弘文堂

【参考文献】
開講時に紹介します。

ら行

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ｉａ　＜春＞	
国　松　夏　紀	１単位

【講義概要】
これまでロシア語を見たり聞いたりしたことがありますか？
おそらく多くの皆さんにとって、そもそもロシア文字が未知のものでしょう。ところがこの「ロシア文字一覧表」は英語26文字を「アルファベット」と呼ぶのと同様に「アルファベット」なのです。ただし、より正格には、つまりロシア語風には「アルファヴィート」であり、33文字あります。
英語より７文字多いだけのロシア文字とそれらが表す音（やはり独特の音がいろいろあります）を練習しいて覚えることから始めます。

【学習目標】
そして、初級の基本的文法事項を何とか一通り学習して、辞書を使いこなせるようにするのが目標ですが、それよりはむしろ、特に春学期は、感覚的にロシア語になれることが肝要です。教室でも家でも恥ずかしがらずに、大きな声で発音練習をしましょう。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション／ロシア語の辞書案内
　　春学期Ｉａと秋学期ⅡａはＩ同一の教科書を使用します。春学期はその前半を以下の予定で学習します。
第２回　文字とその読み方Ｉ
第３回　文字とその読み方Ⅱ
第４回　文字とその読み方Ⅲ（まとめ）
第５回　第１課　名詞の性、名詞の複数形、文法上の一致
第６回　（つづき）形容詞の性・数変化、練習問題
第７回　第２課　人称代名詞、動詞、動詞の過去形
第８回　（つづき）イントネーション、語順、練習問題
第９回　第３課　名詞の格、所有代名詞（１）
第10回　（つづき）所有代名詞（１）、練習問題
第11回　第４課　名詞の単数・対格、疑問文
第12回　（つづき）名詞の単数・生格、生格の用法、練習問題
第13回　第１課～第４課　まとめと復習
第14回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
出席を何よりも重視します。とにかく、たとえ予習が間に合わなくとも、メゲずに教室に出てきてロシア語に触れること。その平常の努力点と春学期末試験とで総合的に評価します。

【教科書】
諫早勇一、服部文昭、大平陽一 セメスターのロシア語 白水社

【参考文献】
辞書に関しては、最初の時間にいろいろ紹介します。といっても、英語やドイツ語、フランス語の辞書に比べても数は限られており、選択の幅は狭くなっています。その他、「参考文献」は、「新旧ロシア情報」も含めて随時授業中に紹介して行きます。

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ｉｂ　＜春＞	
杉　野　ゆ　り	１単位

【講義概要】
ロシア語はロシア連邦に暮らす約１億５千万人の公用語であり、CISの国々でも民族間のコミュニケーションの手段として使用されています。ロシア極東地方のウラジオストク市は大阪から飛行機で約２時間の近さです。ロシアは隣の大国でありながら、日本にとってはまだ未知の領域が多い、それゆえ可能性に満ちた国です。ロシアの豊かな文化を知るべくロシア語の勉強を始めましょう。チャレンジ精神のある学生を求めます。

【学習目標】
ロシア語の発音と初級文法を学びながら、聞き話し、読み書きの基礎能力を習得します。

【講義計画】
第１回　アルファベットとその読み方、書き方
第２回　第１、第２課：文字と発音
第３回　第３課：文字と発音。挨拶の表現。
第４回　第４課：名詞の性と形容詞の変化。
第５回　第４課の練習問題
第６回　第５課：名詞の複数形、所有代名詞。
第７回　第５課の練習問題。第６課：動詞の現在形変化。
第８回　第６課の練習問題
第９回　第７課：名詞の対格（直接目的語）と動詞「愛する、好む」の使い方。
第10回　第７課の練習問題
第11回　第８課：動詞「～したい」の使い方。動詞の命令形。
第12回　第８課の練習問題。第９課：時間、年齢の表現。
第13回　第９課の練習問題。第10課：「行く・来る」の動詞と行き先の表現。
第14回　春学期テスト

【成績評価の方法】
万全を期して出席し、復習に努めてください。出席回数と授業中の小テスト、春学期テストの結果から総合的に評価します。ロシア語Ｉａの担当教官とともに合否を決定します。

【教科書】
中島由美、黒田龍之介、柳町裕子 ロシア語へのパスポート 白水社

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅱａ　＜秋＞	
国　松　夏　紀	１単位

【講義概要】
春学期Ｉａの続き、後半戦となります。長い夏休みの後、ロシア語の基礎固めを急いで再開します。ここが頑張りどころです。

【学習目標】
ロシア語に「慣れる」こと、と共に基礎文法の修得が目標です。

【講義計画】
第１回　Ｉａ（春学期、第１課～第４課）の総復習
第２回　第５課　２種類の導入文、動詞бытьの構文
第３回　（つづき）接続詞и л и と а、否定のｎｅ、練習問題
第４回　第６課　名詞の単数・前置格、「～に行った／来た」の表現
第５回　（つづき）あいさつの表現、数詞、練習問題
第６回　第７課　名詞の単数・与格、与格の用法人称代名詞と疑問詞の与格
第７回　（つづき）人称代名詞と疑問詞の与格、名詞の単数・造格、
第８回　（つづき）造格の用法、人称代名詞と疑問詞の造格、練習問題
第９回　第８課　所有の表現、所有・存在の否定（否定生格）
第10回　（つづき）人称代名詞と疑問詞の対格、人称代名詞と疑問詞の前置格、練習問題
第11回　第９課　動詞の過去・現在・未来と「体」の関係、「体」と時制と動作の概念
第12回　（つづき）動詞の現在形、ｅ変化（第１変化）、и変化（第２変化）、練習問題
第13回　第10課　動詞の未来形（１）、動詞の未来形（２）
第14回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
春学期に引き続き、出席重視です。平常点と学期末試験との総合評価も同様です。

【教科書】
諫早勇一、服部文昭、大平陽一 セメスターのロシア語 白水社

【参考文献】
春学期に引き続き、授業中に随時「参考文献」並びに「新旧ロシア情報」を紹介して行きます。

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅱｂ　＜秋＞	
杉　野　ゆ　り	１単位

【講義概要】
ロシア語Ｉｂの授業で使用した教科書の後半を勉強します。

【学習目標】
引き続きロシア語の文法を学びながら、聞き話し、読み書きの基礎能力をマスターます。

【講義計画】
第１回　第11課：名詞の生格。所有の表現。
第２回　第11課の練習問題。
第３回　第12課：曜日の表現。未来形（１）。
第４回　第12課の練習問題。第13課：名詞の前置格と場所の表現。
第５回　第13課の練習問題
第６回　第14課：動詞の過去形。人間、動物を表す男性名詞の対格（直接目的語）。
第７回　第14課の練習問題。第15課：名詞の与格（間接目的語）と造格。
第８回　第15課の練習問題
第９回　第16課：不完了体動詞と完了体動詞。
第10回　第16課の練習問題
第11回　第17課：未来形（２）。形容詞の格変化。無人称文。
第12回　第17課の練習問題。第18課：前置詞のまとめ。
第13回　第18課の練習問題。。
第14回　秋学期テスト

【成績評価の方法】
万全を期して出席し、復習に努めてください。出席回数と授業中の小テスト、秋学期テストの結果から総合的に評価します。ロシア語Ⅱaの担当教官とともに合否を決定します。

【教科書】
中島由美、黒田龍之介、柳町裕子 ロシア語へのパスポート 白水社

ら行

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅲａ　＜春＞	
国　松　夏　紀	１単位

【講義概要】
「ロシア語Ⅰ・Ⅱ」で、文字と発音を含めて、一通りの基礎文法を学んだ諸君を対象とし、ロシア語の会話文を読み、それを基にして話したり、聞いたりする練習や書く練習もします。少し間が空いて、もう忘れたこともあるでしょうし、未だ充分学んでいなかったこともあるでしょう。それらを復習し補いながら、こまめに辞書も引きながら読んでいきましょう。それと同時に、教科書添付のCDなどで、ネイティヴの発音をシッカリ聞き、自分でも精一杯声を出して滑らかに読めるように・話せるように練習してください。地道に努力を重ねると、ロシア語を通して、思わぬ豊かなロシア世界が眼前に開けるでしょう。

【学習目標】
基礎文法の習熟と、上記の通り、滑らかな読みと「リスニング」の習熟

【講義計画】
第１回　オリエンテーション／ロシア語はどんなことばか？
春学期（Ⅲａ）と秋学期（Ⅳａ）は同一教科書を続けて使用します。それは、全部で20課です。それに「文字と発音」がつきます。
目標としては春学期10課、秋学期10課仕上げる予定です。
以下の予定は、主な表現／主な文法事項　を示します。

第２回　文字と発音（復習１）
第３回　文字と発音（復習２）
第４回　○○は△△です／文法上の「性」
第５回　○○は△△ではない（否定）／挨拶の表現
第６回　これは私のスーツケースです／所有代名詞･指示代名詞
第７回　あそこに古い写真があります／形容詞、名詞の「性」
第８回　雑誌を読んでいます／動詞の現在変化
第９回　日本語を話します／動詞の現在変化、名詞の複数形
第10回　彼女はどこに住んでいるのですか／動詞 ж и т ь の変化、前置詞、場所の表現
第11回　電話を持っていますか／所有の表現、命令形
第12回　音楽を聞いているのですか／動詞 п и с а т ь の変化、名詞の各変化、体格の用法
第13回　小包を送りたい／動詞 х о т е т ь，и д т и の変化
第14回　春学期末試験（ペーパーテスト）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、教室に出てくること。その「平常点」と春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。

【教科書】
黒田龍之助 ニューエクスプレス　ロシア語（CD付）白水社

【参考文献】
授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅲｂ　＜春＞	
杉　野　ゆ　り	１単位

【講義概要】
教科書に従って、作文を中心に練習問題をこなし、応用力を高めます。作文力は確実な文法の知識の上に成り立つ能力です。その力は、会話の実力をも強化してくれます。

【学習目標】
ロシアでの生活に困らないだけの作文力と会話力を習得するのが目的です。

【講義計画】
第１回　第１課：これはジュースです。第２課：はい、コーヒーをどうぞ。
第２回　第３課：これは誰ですか。第４課：これは何ですか。
第３回　第５課：これは砂糖ですか、塩ですか。まとめと応用Ⅰ。
第４回　第１～５課テスト。第６課：人称代名詞
第５回　第７課：所有代名詞
第６回　第８課：動詞の第１式現在変化　第９課：動詞の不規則現在変化
第７回　第９課：前置格
第８回　第10課：前置格と疑問文
第９回　第６～10課テスト。まとめと応用Ⅱ。
第10回　第11課動詞の第２式現在変化
第11回　第12課：動詞「好きです」「～したい」の使い方。月の名称。
第12回　第13課：形容詞の変化。第14課：名詞、形容詞、所有代名詞の複数形。
第13回　第15課：所有の表現。まとめと応用Ⅲ
第14回　春学期テスト

【成績評価の方法】
万全を期して出席し、予習と復習に努めてください。出席回数と授業中のまとめテスト、および締めくくりの春学期テストの結果から総合的に評価します。ロシア語Ⅲaの担当教官とともに合否を決定します。

【教科書】
黒田龍之介 ロシア語文法への旅 大学書林

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅳａ　＜秋＞	
国　松　夏　紀	１単位

【講義概要】
春学期（Ⅲａ）の続きとなります。教科書は、春学期と同一、後半を使用します。

【学習目標】
より複雑な表現の読み書き、聞く・話すに習熟知ることを目指します。

【講義計画】
第１回　第15回　春学期（第１課～第10課）の総復習、秋学期オリエンテーション

第28回　秋学期末試験（ペーパーテスト）
第２回　日本文学を勉強していました／動詞の過去
第３回　家にいました／ｌｙｂｉｔｅ の現在変化、ｂｙｔｅ の過去
第４回　今晩はお客が来ます／動詞の来来、動詞 ｐｅｔｅ、ｅｓｔｅ、ｐｉｔｅ、ｔａｎｃｅｖａｔｅ の現在変化
第５回　カサがありません／名詞の生格の用法
第６回　夫にプレゼントを買いたいのです／名詞の与格の用法
第７回　紅茶には普通ミルクを入れて飲みます／造格の用法
第８回　日本料理店でアントンを見かけました／形容詞の格変化
第９回　それがアントンでないとどうして分かるのですか？／動詞の完了体と不完了体の区別
第10回　捨てるのなら手伝います／動詞 ｐｏｍｏｃｈｅ の変化
第11回　もし私が鳥だったら／仮定法、動詞ｎｒａｖｉｔｓｅｙａの用法
第12回　時のまとめ、曜日と月の表し方
第13回　数詞のまとめ、前置詞を使った表現
第14回　試験

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
必ず予習をして、出席すること。やむを得ず予習が間に合わなくとも、教室に出てくること。その「平常点」と春学期末・秋学期末の試験により、総合的に評価します。

【教科書】
黒田龍之助 ニューエクスプレス　ロシア語（CD付）白水社

【参考文献】
授業中随時、広くロシア関係の話題を提供するとともに、「参考文献」も紹介するつもりです。

科目名　クラス　講義区分	
ロシア語Ⅳｂ　＜秋＞	
杉　野　ゆ　り	１単位

【講義概要】
教科書に従って、作文を中心に練習問題をこなし、応用力を高めます。作文力は確実な文法の知識の上に成り立つ能力です。その力は、会話の実力をも強化してくれます。春学期で使用した教科書の第16課から始める予定です。

【学習目標】
ロシアでの生活に困らないだけの作文力と会話力を習得するのが目的です。

【講義計画】
第１回　第16課：対格の作り方と用法
第２回　第17課：動詞の過去形。歯音変化と唇音変化。
第３回　第18課：運動の動詞。交通手段の表現。
第４回　第19課：生格の作り方と用法
第５回　第20課：形容詞、所有代名詞の前置格。
第６回　まとめと応用Ⅳ。数の表し方。
第７回　中間テスト。第21課：与格の作り方。
第８回　第21課：与格の用法。命令形。
第９回　第22課：無人称文。
第10回　第23課：不完了体未来。
第11回　第24課：値段、年齢、時間の表現。
第12回　第25課：造格の作り方と用法。
第13回　まとめと応用Ⅴ。不完了体と完了体。
第14回　秋学期テスト

【成績評価の方法】
万全を期して出席し、予習と復習に努めてください。出席回数と授業中の中間テスト、および締めくくりの秋学期テストの結果から総合的に評価します。ロシア語Ⅳaの担当教官とともに合否を決定します。

【教科書】
黒田龍之介 ロシア語文法への旅 大学書林

ら行

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　01＜通期＞	
岩　男　久仁子	4単位

【講義概要】
＜春学期＞
自己紹介、履歴書など、自分の事柄を中心としたテーマで、毎回800～1000字程度の文章を書く。

＜秋学期＞
一つのテーマを決めて「論文」を仕上げる。「卒業論文」を書くために必要なスキルを身につける。参考文献の探し方、注釈の付け方など。

【学習目標】
文章で、自分の意見を明確に表現できるようになる。それは、読み手に理解されるような文章を書けるようになることである。
また、人前での「発表」をする練習も取り入れる。

時間中は手書きで原稿を書くが、それを自ら添削し、書き直して提出する時にはパソコンのワープロソフトで作成したものを、提出する。

用意するもの：
「論文指導」添削用原稿用紙　生協にて購入すること
国語辞典（電子辞書可、辞書代わりに携帯電話は使わないこと）
フロッピーディスクなど提出可能な記録媒体

【講義計画】
第１回　オリエンテーション　文を書くときの注意事項など。
第２回　自己紹介文①
第３回　自己紹介文②
第４回　与えられたテーマにそって書く
第５回　読書感想文①
第６回　読書感想文②
第７回　批評文①
第８回　批評文②
第９回　発表原稿作成①
第10回　発表原稿作成②
第11回　レジュメ作成
第12回　発表①
第13回　発表②
第14回　手紙の書き方
第15回　論文テーマの確認
第16回　文献検索オリエンテーション
第17回　文献リスト・序文作成①
第18回　文献リスト・序文作成②
第19回　文献リスト・序文作成③　チェック
第20回　本論作成①
第21回　本論作成②
第22回　本論作成③　前半部チェック
第23回　本論作成④
第24回　本論作成⑤　後半部チェック
第25回　注・参考文献リスト作成
第26回　完成内容チェック
第27回　発表①
第28回　発表②

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　50％　出席　50％
試験は行いません。毎回の出席とその時に書き上げた文章を提出、添削採点評価します。

【参考文献】
随時、紹介します。

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　02＜通期＞	
大　野　順　子	4単位

【講義概要】
春学期は文章を書くことに抵抗なく取り組んでいける姿勢をつくるため、実際に文章を書く作業（1000字以内を予定、授業内に提出厳守）を継続して行います。秋学期は受講生各個人が、それぞれ関心のあるトピック（テーマ、課題）を選び、半年間をかけて本格的な論文（字数無制限）を完成させます。

【学習目標】
『文章を書く』という作業に慣れていただくために、さまざまなテーマや課題を与え、毎時間、小論文を作成することを通して、基礎的な論文を完成できるまでの能力を身につけることを目指します。

【講義計画】
第１回　春学期オリエンテーション
第２回　テーマに基づいた文章作成
第３回　テーマに基づいた文章作成
第４回　テーマに基づいた文章作成
第５回　テーマに基づいた文章作成
第６回　テーマに基づいた文章作成
第７回　帰納法／演繹法的文章の書き方
第８回　批判的文章の書き方
第９回　批判的文章の書き方
第10回　要約の方法と手順
第11回　要約の方法と手順
第12回　論文とレポートの違い
第13回　論文とは（論文の書き方）
第14回　論文とは（論文の書き方）
第15回　予備日
第16回　秋学期オリエンテーション
第17回　「論文の書き方」についてのビデオの視聴など
第18回　論文のテーマ決定
第19回　論文アウトライン（概要）作成
第20回　論文アウトライン（概要）作成
第21回　論文アウトライン（概要）発表
第22回　論文作成作業
第23回　論文作成作業
第24回　論文作成作業
第25回　論文作成作業
第26回　論文作成作業
第27回　論文作成作業
第28回　学生論文口頭発表会
第29回　学生論文口頭発表会
第30回　予備日

【成績評価の方法】
１．出席（遅刻は欠席扱い）
２．毎時の課題小論文
３．夏季、冬季休暇中の課題（図書要約）
４．最終課題、及び試験
５．授業への積極的参加
　以上により、総合的に評価する。

注１）提出物の締切等厳守。

注２）長期休暇中の課題とは、学術的書籍・文献（小説、絵本、詩集、エッセー、紀行文／旅行文以外の書籍）を読み、A４　１枚～２枚程度に本の内容を要約したものを休暇明けに提出してもらいます。

【教科書】
特になし。
テーマに沿ったレジュメを配布する。

【参考文献】
適時紹介する。

（重要）
春学期の授業では実際に文章を書く作業が中心となります。使用する原稿用紙は大学生協で大学指定の原稿用紙（Ｂ５サイズ）を第一回目の授業までに必ず購入し、持参してください。

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　03＜通期＞	
木　下　昌　巳	4単位

【講義概要】
この授業では、広くさまざまな分野からテーマを選び（テーマは毎回、授業で提示する）、1テーマごとに1回ないし2回の授業を使って、600字から800字程度の文章を授業内で書く練習をする。文章を書くことが苦手だと思っている人の積極的な参加を希望する。

【学習目標】
自分の考えていること、思っていることを言葉にして、それを他者に伝えることができるようになるためには訓練が必要である。ふだんから文章を書き慣れていない人を受講者と想定して、いわば「大学生らしい」文章が書けるようになることを目標とする。授業ではパソコンを使用し、プリントアウトしたものを提出してもらう。パソコンに慣れていない人でも、使用法を説明するので積極的に受講してほしい。

【講義計画】
第1回　授業の説明
第2回　作文1
第3回　作文2
第4回　作文3
第5回　作文4
第6回　作文5
第7回　作文6
第8回　作文7
第9回　作文8
第10回　作文9
第11回　作文
　　作文10
第12回　作文11
第13回　作文12
第14回　作文13
第15回　作文14
第16回　春学期の講評と秋学期の課題の説明
第17回　作文15
第18回　作文16
第19回　作文17
第20回　作文18
第21回　作文19
第22回　作文20
第23回　作文21
第24回　作文22
第25回　作文23
第26回　作文24
第27回　作文25
第28回　作文26
第29回　作文27
第30回　秋学期の講評

【成績評価の方法】
試験　0％　レポート　0％　出席　100％
課題の作文を提出したことによって、授業に出席したと見なす。単位取得には、8割以上の作文の提出が必須である。提出回数と作文の内容によって成績の評価をおこなう。

【教科書】
テキストは使用しない。

【参考文献】
授業中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　04＜通期＞	
村　田　佳　隆	4単位

【講義概要】
論理的で明快な文章を書くための訓練をするが授業の目標である。実際に文章を書いてみて、その過程を振り返り、自分の思考や表現を鍛え直す。さらにそれを次に生かしていく。訓練はこのプロセスの繰り返しである。たくさんの文章、たくさんの言葉をインプットすること、自分の頭の中でもう一度考え直してみること、他人にわかるような形に作り直すこと、以上のことを心がけて欲しい。

【学習目標】
・さまざまな種類の文章に実際に当たってみる。
・自分自身の意見を短文で表現できるようにする。
・長い文章を書く訓練をする。
・論を構成する訓練をする。
・最終的な「作品」を仕上げる。
・長期休暇には作文を課す。

【講義計画】
第1回　導入
第2回　正しい日本語の使い方について　その1
第3回　正しい日本語の使い方について　その2　／　添削と講評
第4回　正しい日本語の使い方について　その3　／　添削と講評
第5回　正しい日本語の使い方について　その4　／　添削と講評
第6回　正しい日本語の使い方について　その5　／　添削と講評
第7回　論文とは何か　その1　／　添削と講評
第8回　論文とは何か　その2　／　添削と講評
第9回　論文とは何か　その3　／　添削と講評
第10回　発想の出発点　／　添削と講評
第11回　テーマ　／　添削と講評
第12回　「問題」について　その1　／　添削と講評
第13回　「述語」について　／　添削と講評
第14回　添削と講評
第15回　悪例
第16回　論文とは何か　その4　／　添削と講評
第17回　「問題」について　その2　／　添削と講評
第18回　アウトラインを書く　その1　／　添削と講評
第19回　アウトラインを書く　その2　／　添削と講評
第20回　アウトラインを書く　その3　／　添削と講評
第21回　アブストラクトを書く　その1　／　添削と講評
第22回　アブストラクトを書く　その2　／　添削と講評
第23回　論証について　／　添削と講評
第24回　パラグラフについて　／　添削と講評
第25回　わかりやすい文章とは　／　添削と講評
第26回　仕上げ　／　添削と講評
第27回　添削と講評、反省会
第28回　添削と講評、反省会

【成績評価の方法】
出席と提出された課題および最終「作品」による総合評価。

【教科書】
特になし。

【参考文献】
授業中に指示する。

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　05＜通期＞	
森　田　登代子	4単位

【講義概要】
文章（論文）を書くことは苦手という学生が多い。書く機会が多くないのが一番大きな理由だろう。第二に自分の言いたいことを的確に、率直に相手に伝えるコミュニケーション力が訓練づけられていないこともあげられよう。とくに現代の教育システムではその力は大きく欠如していることは否めない。文章力を高めるにはその最も基本になるコミュニケーション力を養うこと―自分が今考えていること、意図することを文字に忠実に移すこと、次にそれらを訓練し書く能力を高めることしかないだろう。それらを踏まえた基礎訓練に重きをおきたい。

【学習目標】
時事問題など現代をとりまくテーマを中心に、随筆から専門の論文分野までを含むテーマをあたえる。その課題にたいして、意図は何か、キーワードを考慮し、要旨を把握する。続いて自分の言いたいこと、書きたいことをまとめ、それを決められた字数で書く練習をおこなう。

【講義計画】
第１回　①自己紹介
　　②４年間で学ぶ内容の説明。それについての文章化へのスキルを説明
　　③一年間でどのような文章を書くか、文章のスキルアップについての概要説明。
第２回　文脈について
第３回　文の仕組み・構成について
第４回　文章の鑑識眼を養う
第５回　〈好奇心〉を文章にする
第６回　文体とは？
第７回　語彙を増やす
第８回　語彙力の訓練
第９回　文の薫りについて
第10回　文の勢いについて
第11回　簡略化と敷衍について
第12回　現代用語に慣れる
第13回　文からキーワードを探す
第14回　演習
第15回　演習
第16回　難易度の高い文章にあたる
第17回　演習
第18回　新聞記事にあたる
第19回　演習
第20回　演習
第21回　気分を変えて随筆演習
第22回　再度文脈にあたる
第23回　言葉・語彙・言語の概念性の説明
第24回　演習
第25回　演習
第26回　演習
第27回　論述作文とは？その演習
第28回　論文とは？その演習
第29回　演習
第30回　演習

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　80％　出席　20％
１．正しく漢字が書けること。２．漢字が読めないことは恥ずかしいと思うこと。３．文章のスキルアップに努める態度が認める。以上の３点が評価基準

【教科書】
森田登代子 はじけてダンス！ 小学館

【参考文献】
新聞記事など、拙著以外はすべて当方で用意する。

科目名　クラス　講義区分	
論述作文［4］　06＜通期＞	
松　永　俊　男	4単位

【講義概要】
的確な日本語で自分の考えを表現できるようにするのが、この授業の基本的な目的である。小論文のほかに、レポートの書き方、書評の書き方、手紙の書き方なども取り上げる。
毎回、授業時になんらかの文章を書く。毎回出席して課題をこなしていけば着実に成果が上がるが、欠席が続くと授業の意味がなくなる。したがって、最初の授業から欠席するもの、無断欠席の続くものは除籍する。

【学習目標】
原稿用紙の使い方から初めて、正しい文章の書き方、論理的内容構成法へと進む。初めに、指定の原稿用紙を用いた手書きによる文章作成を練習する。その後、ワープロによって作成した作品に基づく発表を交代で行う。
春学期は書評の作成練習を中心とし、図書館書評賞の入賞を目指す。秋学期は各自の研究発表を中心にし、レポート（研究報告）のきちんとした作成法を練習する。
下記の授業計画は固定したものではなく、受講生の状況や要望によって適宜、変更する。

【講義計画】
第１回　授業の方針の確認
第２回　原稿用紙の使い方
第３回　小論文練習
第４回　小論文練習
第５回　書評の書き方
第６回　書評作品の検討（１）
第７回　書評作品の検討（２）
第８回　書評作品の検討（３）
第９回　ワープロソフトの使い方
第10回　書評作品の検討・第二次（１）
第11回　書評作品の検討・第二次（２）
第12回　書評作品の検討・第二次（３）
第13回　手紙文の練習（１）
第14回　手紙文の練習（２）
第15回　書評作品（全員）の講評
第16回　手紙文（全員）の講評
第17回　レポートの書き方
第18回　要旨のまとめ方
第19回　第一次研究発表（１）
第20回　第一次研究発表（２）
第21回　第一次研究発表（３）
第22回　第一次研究発表（４）
第23回　自己アピール文の練習（１）
第24回　自己アピール文の練習（２）
第25回　第二次研究発表（１）
第26回　第二次研究発表（２）
第27回　第二次研究発表（３）
第28回　第二次研究発表（４）
第29回　論文集の作製
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
毎回の授業の成果を総合して評価する。授業の性質上、原則として、欠席は許されない。

【教科書】
テキストは使用しない。

科目名　クラス　講義区分	
論理学　＜秋集＞	
清　水　真　一	4単位

【講義概要】

論理的に物事を考えることは何も学問の世界に限ったことではない。日常的にも、推理し、推論をおこなう場面が多々ある。何からの主張に対してその裏付けからコトの真偽を探ろうとすることもある。我々は、これらの営みをあらためて「論証」というかたちに置き直し、主張とその裏付けとなるはずの言明とを関連付ける、つまりは、結論と前提とを関連付けたいのである。論理学は結論を裏付けるためのいわば「道具」を提供してくれる。論理学は「積み重ね」を要求するため、定期的に小テストをおこなう。出席はとくに重視せざるを得ない。

【学習目標】

本講では、伝統論理学と現代記号論理学を概観するなかで、物事を筋道立てて考えていくことの大切さを学ぶことを第一の目標に掲げたい。授業では、日常的なことがらをも題材に含めつつ、その道具の使い方に習熟するための練習問題に多くの時間を費やすことになる。

【講義計画】

第１回　導入 ：論理学の仕事
第２回　［伝統的論理学］定言命題　（１）
第３回　定言命題　（２）
第４回　定言三段論法　（１）
第５回　定言三段論法　（２）
第６回　日常言語における論証　（１）
第７回　日常言語における論証　（２）
第８回　キャロルの方法　（１）
第９回　キャロルの方法　（２）
第10回　キャロルの方法　（３）
第11回　［現代記号論理 ： 命題論理］記号と翻訳
第12回　真理関数
第13回　真理表
第14回　推論規則　（１）
第15回　推論規則　（２）
第16回　置換規則　（１）
第17回　置換規則　（２）
第18回　条件法による証明　（１）
第19回　条件法による証明　（２）
第20回　間接証明　（１）
第21回　間接証明　（２）
第22回　真理の木　（１）
第23回　真理の木　（２）
第24回　［現代記号論理学 ： 述語論理］記号と翻訳
第25回　量化子規則
第26回　条件法と間接証明
第27回　非妥当性の証明
第28回　真理の木

【成績評価の方法】

試験　50％
（注）試験（学期末試験）［50％］のほかに、小テスト［50％］を２回実施する。

【教科書】

山川偉也・清水真一『論理開眼』世界思想社

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

ら行